

(財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
〔報告書〕

8

2012年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その8)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が定着しつつある。そうした中、北九州芸術劇場は、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

8年目にあたる2010年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。またテーマ調査として、舞台芸術以外の芸術や文化の分野との連携を模索するため、北九州市内で活躍されている方々を交えた座談会を開催した。

8年間の継続的な調査結果からは、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。また、座談会からは、8年間の事業運営の成果が徐々に地域に浸透し、それが北九州市の文化的基盤の拡充につながりつつあること、美術や工芸、文化によるまちづくりなど、他分野との連携を模索することで、その基盤がより強固なものになる可能性があること、などが明らかとなった。

末筆ではあるが、2003年度以降、8ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々、そして、座談会にご協力いただいた関係者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2012年3月

ニッセイ基礎研究所

芸術文化プロジェクト室

◎ 目 次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2010年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	13
第3章 貸館利用者からみた評価	22
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	27
第5章 地域文化振興における北九州芸術劇場の役割 ——座談会の結果から	32
第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果	36

[資料編]

資料Ⅰ 観客調査結果	資-1
資料Ⅱ 貸館利用者調査結果	資-55
資料Ⅲ 経済波及効果	資-85
資料Ⅳ パブリシティ一覧	資-99
資料Ⅴ 座談会の記録	資-109

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

8年目にあたる2010年度は、03年度あるいは04年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
- ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
- ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
- ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出

を実施した。さらに10年度の「テーマ調査」として、

⑤地域文化振興における北九州芸術劇場の役割について(座談会形式)を行い、北九州芸術劇場の広域的な役割や公共劇場としての事業の方向性に関する意見を整理した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から8ヶ年の経年分析を行なった。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-1～資-54参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンルなど)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に05年度から実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、10年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-55～資-83参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-85～資-97参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-99～資-107参照)。

⑤地域文化振興における北九州芸術劇場の役割——座談会の結果から

今年度の調査では、地域文化振興における北九州芸術劇場の役割というテーマを設定し、舞台芸術以外の分野(美術、建築、伝統工芸)から北九州市内で活動する以下の3名を迎えて、北九州芸術劇場の館長を交えた座談会を実施した(詳細は、p.資-109～資-125参照)。

- 西村勇晴氏 (北九州市立美術館 館長)
- 城水悦子氏 (株式会社洋建築計画事務所 代表取締役)
- 築城則子氏 (遊生染織工房 主宰)

座談会では、以下の項目について各自のご意見を聴取した。

- 出席者のプロフィールと活動の概要
- 北九州芸術劇場の事業・運営について
- 舞台芸術以外の芸術分野との関わりについて
- 北九州市全体の文化の振興について 等

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2010年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 地域文化振興における北九州芸術劇場の役割——座談会の結果から」
座談会で得られた主要な意見から、地域文化振興における北九州芸術劇場の役割と長期的なビジョンを整理した。
- 「第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第5章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。

A 劇場の設置目的:

鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動の支援、地域への貢献

B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティやサービス、施設の維持管理

C 経営：経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「観客調査結果」では、10年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「貸館利用者調査結果」では、06年度～10年度の5ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「経済波及効果」では、10年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅳ「パブリシティ一覧」では、金額換算の基礎となった10年度の新聞記事データの一覧を掲載した。
- 資料Ⅴ「座談会の記録」では、座談会での発言を整理し、掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 研究員)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2010年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2010年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と10年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、「創る」「育つ」「観る」をキーワードにした事業展開が行われている。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。
- **【育つ】**: アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。
- **【観る】**: 見る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 10年度もこうした3つのコンセプトに基づき、自主事業全体で、32本の事業・280回の公演数・アクティビティが行われ、40,924人が公演鑑賞やアクティビティに参加した(図表1-1)。

図表1-1 事業実績の概要(03年度～10年度)

【事業数・公演数・入場者数】												
	2003年度			2004年度			2005年度			2006年度		
	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数
創造事業	3	35	13,350	4	15	3,292	6	45	9,332	7	61	27,107
公演事業	15	35	22,079	23	46	26,361	24	42	21,294	18	45	29,813
提携・協力事業	5	8	7,382	6	15	6,211	6	13	6,642	7	16	7,259
オープニング企画	2	2	1,592	—	—	—	—	—	—	—	—	—
演劇祭	2	9	987	2	9	1,231	2	7	2,779	2	8	1,110
公演事業 計	27	89	45,390	35	85	37,095	38	107	40,047	34	130	65,289
	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数
	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数
学芸事業	—	219	2,404	—	320	4,734	—	297	6,327	—	291	6,758
総合計	27	308	47,794	35	405	41,829	38	404	46,374	34	421	72,047
公演事業の総 座席数と入場率	総席数		入場率	総席数		入場率	総席数		入場率	総席数		入場率
	50,756		89.4%	41,808		88.7%	48,575		82.4%	70,065		92.7%
	2007年度			2008年度			2009年度			2010年度		
	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数	事業数	公演数	入場者数
創造事業	5	24	5,224	8	41	12,320	6	40	12,841	5	21	3,124
公演事業	22	49	32,378	15	33	18,164	16	42	19,439	17	39	24,229
提携・協力事業	11	28	11,869	5	12	3,895	5	16	3,947	9	25	6,427
演劇祭	3	8	1,724	1	28	1,689	1	7	556	1	17	1,799
公演事業 計	41	109	51,195	29	114	36,068	28	105	36,783	32	102	35,579
	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数
	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数	事業数	回数	参加者数
学芸事業	—	283	6,200	—	279	10,577	—	175	5,889	—	178	5,404
総合計	41	392	57,395	29	393	46,645	28	280	42,672	32	280	40,983
公演事業の総 座席数と入場率	総席数		入場率	総席数		入場率	総席数		入場率	総席数		入場率
	60,036		85.3%	41,580		82.7%	39,225		93.8%	38,447		92.5%

※2008年度は、演劇祭は総座席数の設定をしていないため、演劇祭入場者数は入場率の算出から除いている。

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として開催。

- 以下、「創る」「育つ」「観る」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。(10年度事業の実績一覧を図表1-2に整理した。)

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 北九州芸術劇場プロデュースとして全国に発信する作品、「BEN」
 - 市民参加型の創造事業である、合唱物語「わたしの青い鳥2010」、「北九州パントマイム教室」
 - 演劇界の第一線で活躍する演出家を招き、地域の俳優によって国内外の魅力的な戯曲をリーディングとして上演する「リーディングセッション」
 - 期間限定の劇団を作り、スタッフワークや演技のための講座を受講し、創造を体験する「シアターコラボ2010」
 といった事業が実施された。
- 「BEN」は北九州(9回)・東京(3回)の公演が行われた。
- 10年度は5事業で21回の公演が行われ、入場者数は3,124人となっている。09年度と比べると、事業数が1本、公演数が19回減少したため、入場者数は減少している(図表1-1)。
- 入場率では「リーディングセッションvol.16」で100%を超えた。「BEN」の北九州公演、「シアターコラボ」、合唱物語「わたしの青い鳥」、「リーディングセッションvol.17」も入場率も90%を超え、市民からの支持の高さがうかがえる。(図表1-2)。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - ワークショップや講座等の事業として、「劇場塾」、「月1ダンス部」、「バックステージツアー」、「チャレンジ! えんげき」、「高校生のための演劇塾」
 - 学校でのアウトリーチ事業として「ドラマ・ワークショップ」や「学校出前演劇ワークショップ」
 - 市民センターでの小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」
 - 創造参加として、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」、「シアターコラボ2010」
 など、学芸事業全体では、創造参加も含め、14事業で178回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は5,404人となっている(図表1-1)。
- 09年度と比べると、アクティビティの回数は増えたものの、参加者数は減少している(09年度の実績は175回、5,889人)。減少した要因としては、教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」の開催校が09年度の6校から10年度は5校となり、1校あたりの参加人数が多いために事業全体の参加延人数に影響している。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、大規模な商業演劇・ミュージカル公演から、ナイロン100℃、演劇集団キャラメルボックスなどの人気の高い小劇場・現代演劇公演、山海塾のダンス・現代舞踊公演、「月猫えほん音楽会」や「子どものためのシェイクスピア」といった子どもを対象とした公演など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 09年度に新たに始まった北九州芸術劇場が注目する演劇人たちをバックアップする「ツド

エmeets北九州」では、単なる招聘公演ではなく、劇場とカンパニーが人材・技術を交流させながらネットワークを広げ、カンパニーの事情に応じた柔軟な支援を行なった。

- 公演事業では17作品が上演され、公演数は39回、入場者数は24,229人となっている。09年度と比べると、公演数はやや減少したが、入場者数は増加している(図表1-1)。公演事業の入場率は93.0%と高く、17本のうち12本は90%以上を、6本が100%以上を確保している(図表1-2)。
- 提携・協力事業では、伝統芸能や小劇場・現代演劇、シンポジウムなど9事業が上演され、公演数は25回であった。09年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している。
- 創造事業、公演事業、提携・協力事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は32本、公演数は102回、入場者数は35,579人である。公演事業の年間入場者数としては、開館後、最も少ない人数となっている(図表1-1)。

図表1-2 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(10年度)

1 創造事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	合唱物語「わたしの青い鳥2010」	中劇場	7/11	1	579	533	92%
2	北九州パントマイム教室(発表会)	創造工房	8/29	1	82	51	62%
3	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.16「かんしゃく玉」「かんしゃく棒」改め『オーバー・ヘイ症候群について』	小劇場	9/18・19	2	268	277	103%
	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.17合唱交響曲「わが星」	小劇場	11/27・28	3	440	399	91%
	計			5	708	676	95%
4	シアターコロボ2010リーディング公演「町人貴族」	創造工房	12/18・19	2	130	119	92%
5	北九州芸術劇場プロデュース「BEN」(北九州公演)	小劇場	2/21～27	9	1,206	1,120	93%
	北九州芸術劇場プロデュース「BEN」(東京公演)	あうるすぽっと	3/4～6	3	735	625	85%
	計			12	1,941	1,745	90%
計				21	3,440	3,124	91%

2 公演事業

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	cube presents「相対的浮世絵」	中劇場	4/10・11	2	1,250	1,179	94%
2	Doris & Orega Collection Vol.5「ナンシー」	中劇場	6/5・6	2	1,228	1,259	103%
3	OFF-BROADWAY←MUSICAL「イカれた主婦-ANGRY HOUSEWIVES-」	大ホール	6/14	1	1,215	949	78%
4	0,1,2才のための人形劇場「てるてるじょうくとあそぼう！」	小劇場	6/15	2	180	183	102%
5	ナイロン100℃ 35th SESSION「2番目、或いは3番目」	中劇場	7/31・8/1	3	1,686	1,713	102%
6	月猫えほん音楽会2010	中劇場	8/5	1	590	570	97%
7	ブロードウェイミュージカル「ピーターパン」	大ホール	8/19	1	1,228	1,193	97%
8	子供のためのシェイクスピア「お気に召すまま」	中劇場	9/5	1	616	431	70%
9	ツトエmeets北九州vol. 4 表現・さわやか「アラン！ドロシ！」	小劇場	9/25・26	3	462	463	100%
	ツトエmeets北九州vol. 5 劇団PA!ZOO!!「酒と笑いどシャロットとうどん」	小劇場	12/18・19	3	402	315	78%
	計			6	864	778	90%
10	「小松政夫とイッセー尾形のびーめん生活2010in小倉」	中劇場	10/2・3	2	1,242	1,032	83%
11	久光製菓カルチャー・スペシャル「じゃじゃ馬馴らし」	大ホール	11/5～7	4	4,860	4,837	100%
12	演劇集団キャラメルボックス「サンタクロースが歌ってくれた」	大ホール	11/13・14	3	3,627	3,329	92%
13	カンパニーデラシネラ「点と線」	中劇場	12/12	1	553	341	62%
14	ラッパ屋第36回公演「YMO～やっとモテたオヤジ～」	小劇場	1/8・9	3	408	380	93%
15	山海塾「二つの流れーから・み」	中劇場	1/22・23	2	1,254	828	66%
16	「窓の彼方へ」	中劇場	2/11	1	616	390	63%
17	パンクオペラ「時計じかけのオレンジ」	大ホール	2/18～20	4	4,736	4,837	102%
計				39	26,153	24,229	93%

3 北九州演劇フェスティバル

1	北九州演劇フェスティバル2011「三人姉妹」	小劇場	3/12～13	2	240	231	96%
	北九州演劇フェスティバル2011「未来へ伝える物語」	京町商店街	3/1・4・8	3	30	22	73%
	北九州演劇フェスティバル2011「5g軽くなる演劇」	京町商店街	3/2・9・16	3	30	44	147%
	北九州演劇フェスティバル2011「寄席 京町小屋」	京町商店街	3/5・6・12・13・19・20	6	900	1,345	149%
	北九州演劇フェスティバル2011「こころをほぐす演劇」	小劇場	3/18	1	74	49	66%
	北九州演劇フェスティバル2011「北九州の街と表現」	小劇場	3/19	1	90	68	76%
	北九州演劇フェスティバル2011「地域とアート」	小劇場	3/20	1	64	40	63%
計				17	1,428	1,799	126%

4 提携・協力事業

No.2

	公 演 名	会 場	公演日	公演数	設定席数	入場数	入場率
1	春風亭小朝独演会2010	中劇場	4/2・3	2	1,400	1,210	86%
2	イッセー尾形のこれからの生活2010in小倉	中劇場	5/22	2	1,242	768	62%
3	小林賢太郎演劇作品「ロールシャッハ」	中劇場	10/22～24	4	2,584	2,409	93%
4	立川志の輔独演会	中劇場	10/28	1	700	673	96%
5	飛ぶ劇場 vol. 31「蛙先生」	小劇場	11/12～14	5	550	463	84%
6	MONO第38回公演「トナカイを数えたら眠れない」	小劇場	11/20・21	2	248	221	89%
7	劇団二番目の庭 第15回公演「なにもない／なにもしない」	小劇場	12/3～5	4	384	231	60%
8	南河内万歳一座「ラブレター」	小劇場	1/22・23	3	318	314	99%
9	LDC-Jシンポジウム・ワークショップin北九州	中劇場			対象	参加者数	参加延人数
			3/24	1	高校生～一般	38	38
			3/25	1	高校生～一般	100	100
	計			2		138	138
計				25	7,426	6,427	87%

合計(創造・公演・提携・協力事業)				102	38,447	35,579	93%
-------------------	--	--	--	-----	--------	--------	-----

5 学芸事業

	事 業 名	会 場	実施月	回数	対象	参加延人数・入場者数	受講(入場)者数
1	劇場塾「戯曲を読んでもみる講座」	創造工房	6/26	1	一般	22	22
	劇場塾「トークセッション」	ギャラリー-SOAP	6/26	1	一般	22	22
	劇場塾「戯曲を書いてみる講座」	創造工房	7/10	1	一般	17	17
	劇場塾「俳優講座」	小劇場	1/15・16	2	一般	44	22
	〃 (発表)	小劇場	1/16	1	(発表会入場者)	59	59
	計			6		164	142
2	「学校出前演劇ワークショップ」デモンストレーション	創造工房	4/2～4/11	7	小学4～6年生	133	19
	「学校出前演劇ワークショップ」シュミレーション	創造工房	10/5～10/12	4	大学生、地元劇団員	52	13
	「学校出前演劇ワークショップ」①	永大丸西小学校	11/11	1	小学3年生	41	41
	「学校出前演劇ワークショップ」②	南小倉小学校	11/12	1	小学3年生	60	60
	計			13		286	133
3	子どものための演劇ワークショップ「チャレンジ！えんげき」2010	小劇場	7/27～8/1	6	小学3～6年生	210	35
	〃 (発表)	小劇場	8/1	1	一般	122	122
	計			7		332	157
4	「高校生のための演劇塾2010」	大ホール・中劇場 小劇場・創造工房	8/9～11	15	高校生	252	84
5	エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ「夜景から感じる街の物語」	沢見市民センター	9/8～11 10/1～3	7	小学生4年生～一般	140	20
			10/3	1	(発表会入場者)	34	34
	エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ「バザー？フリマ？いいえフリマ演劇です!?想い出交換しちゃいましょう」	湯川市民センター	10/18～19 10/21～24	6	中学生～一般	138	23
			10/24	1	(発表会入場者)	18	18
	エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ「演劇でつなぐ“縁”劇ワークショップ」	枝光北市民センター	2/7～9 2/11～13	6	中学生～一般	132	22
			2/13	1	(発表会入場者)	36	36
	計			22		498	153
6	教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」①	江川小学校	9/28・10/4	2	小学5年生	158	79
	教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」②	青山小学校	9/29・ 10/14・19・26	4	小学5年生	204	51
	教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」③	藤松小学校	10/25・28	2	小学6年生	100	50
	教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」④	朽網小学校	1/27・ 2/4・24・3/1	4	小学4年生	260	65
	教育普及事業「ドラマ・ワークショップ」⑤	徳力小学校	1/28・ 2/15・18・28	4	小学4年生	376	94
計				16		1,098	339

7	月1ダンス部 ダンスをつくってみる編	創造工房・アートカンジ・山田緑地ほか	6/19～3/25	37	一般	185	5
	月1ダンス部 ダンスを踊ってみる編「青空ダンス！～FREE STYLE」	創造工房・勝山公園	5/16	1	一般	37	37
	月1ダンス部 ダンスを踊ってみる編「ただ、立つことから始めてみよう」	創造工房	7/3・4	2	一般	44	22
	月1ダンス部 ダンスを踊ってみる編「青空ダンス！～秋をまちぶせ」	勝山公園	9/5	2	一般	50	50
	月1ダンス部 ダンスを”踊ってみる”編「美活動～ダンスで磨くココロとカラダ」	創造工房ほか	12/23	1	一般	23	23
	月1ダンス部 ダンスを”みてみる”編「でこぼこで」「ひふみどん」	創造工房	3/26・27	2	一般	92	92
	計			45		431	229
8	バックステージツアー2010「劇場探検隊09…大ホールの達人を目指せ！」	大ホール	8/25～27	7	小学3年生～一般	213	213
	バックステージツアー2010「中学生の職場体験」	中劇場	10/13・14	2	中学生	12	6
	計			9		225	219
9	北九州芸術劇場・CCA北九州・北九州市立美術館 共同プログラム「演じられたポール・セザンヌ」	北九州市立美術館	1/13	2	小学5・6年生	102	102
【創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ)参加】							
10	合唱物語「わたしの青い鳥2010」	中劇場ほか	5/28～7/11	15	小学3年生～一般	1,425	95
	合唱物語「わたしの青い鳥2010」《アウトリーチ》	すがお小学校	7/2	1	小学生	36	36
11	北九州パントマイム教室	創造工房	8/25～29	5	一般	100	20
12	シアターコラボ2010	創造工房ほか	10/30～12/17	18	一般	324	18
13	「点と線」事前レクチャー	松本清張記念館	11/3	1	一般	42	42
	「点と線」事後レクチャー	中劇場	12/12	1	一般	55	55
14	内藤裕敬(南河内万歳一座)市職員向けWS	小劇場	1/18～19	2	市職員	34	17
	計			43		2,016	283
合計(学芸事業)				178		5,404	1,841
総 合 計				280		40,983	

④貸館事業

- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、10年度に公演や講演など、計247事業が開催された。公演・講演数は348回、貸館事業の入場者数は182,867人となっている。

⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-3のとおりで、10年度には自主事業、貸館事業合わせて1,656件の利用があり、利用者数は約31万人となっている。そのうち、自主事業での利用件数は579件、利用者数は約5万人。貸館事業での利用件数は1,077件、利用者数は約26万人である。
- 09年度と比べて自主事業による利用件数が少なくなっている一方、貸館事業で増えており、自主事業と貸館事業を含めた合計は、利用件数、利用者数ともに増加している。利用者数は、04年度に次いで過去2番目の多さとなっている。

図表1-3 利用者数、利用件数(03年度～10年度)

	2003年度				2004年度				2005年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	23,937 (66)	22,890 (143)	7,402 (121)	54,229 (330)	22,445 (87)	29,970 (242)	16,996 (404)	69,411 (733)	13,034 (102)	33,153 (289)	14,592 (471)	60,779 (862)
貸館事業	93,100 (205)	41,524 (145)	10,769 (99)	145,393 (449)	175,273 (482)	71,901 (325)	13,626 (176)	260,800 (983)	160,673 (467)	55,644 (229)	10,478 (130)	226,795 (826)
合計	117,037 (271)	64,414 (288)	18,171 (220)	199,622 (779)	197,718 (569)	101,871 (567)	30,622 (580)	330,211 (1,716)	173,707 (569)	88,797 (518)	25,070 (601)	287,574 (1,688)

	2006年度				2007年度				2008年度			
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計
自主事業	26,027 (139)	29,814 (298)	15,651 (573)	71,492 (1,010)	34,015 (186)	29,182 (325)	17,837 (564)	81,034 (1,075)	17,877 (134)	17,699 (217)	14,661 (462)	50,237 (813)
貸館事業	134,966 (382)	55,050 (244)	8,853 (146)	198,869 (772)	132,444 (381)	58,491 (237)	10,772 (148)	201,707 (766)	133,686 (365)	77,324 (327)	17,281 (226)	228,291 (918)
合計	160,993 (521)	84,864 (542)	24,504 (719)	270,361 (1,782)	166,459 (567)	87,673 (562)	28,609 (712)	282,741 (1,841)	151,563 (499)	95,023 (544)	31,942 (688)	278,528 (1,731)

	2009年度				2010年度				累計
	大ホール	中劇場	小劇場	計	大ホール	中劇場	小劇場	計	
自主事業	7,625 (64)	22,087 (213)	12,873 (318)	42,585 (595)	21,429 (104)	16,140 (159)	12,457 (316)	50,026 (579)	479,793 (5,997)
貸館事業	138,611 (415)	86,166 (369)	18,186 (267)	242,963 (1,051)	155,767 (441)	88,614 (367)	16,967 (269)	261,348 (1,077)	1,766,166 (6,842)
合計	146,236 (479)	108,253 (582)	31,059 (585)	285,548 (1,646)	177,196 (545)	104,754 (526)	29,424 (585)	311,374 (1,656)	2,245,959 (12,839)

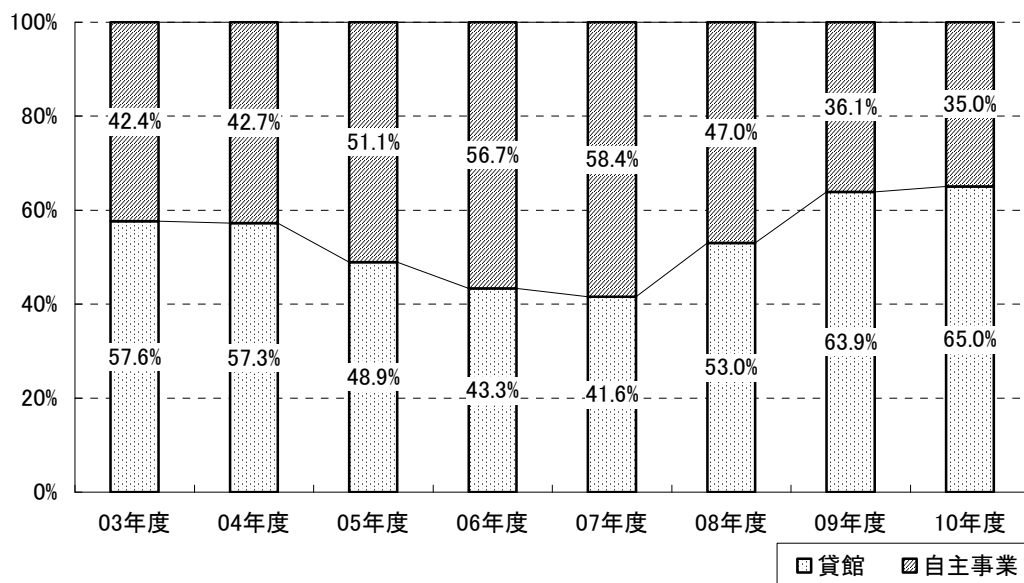
* 上段の数字が利用者数(単位:人)、下段()内の数字は利用件数

- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースでみると、10年度は、自主事業が35.0%、貸館事業が65.0%と、貸館事業の利用割合が高くなっている(図表1-4)。
- ホールの規模別にみると、大ホールで貸館事業での利用が多く、中劇場と小劇場で自主事業の利用が多いことは、03年度からの変わらない傾向だが、10年度は中劇場と小劇場で自主事業利用の比率がこれまでの実績で最も低く、07年度を境として貸館事業の利用が

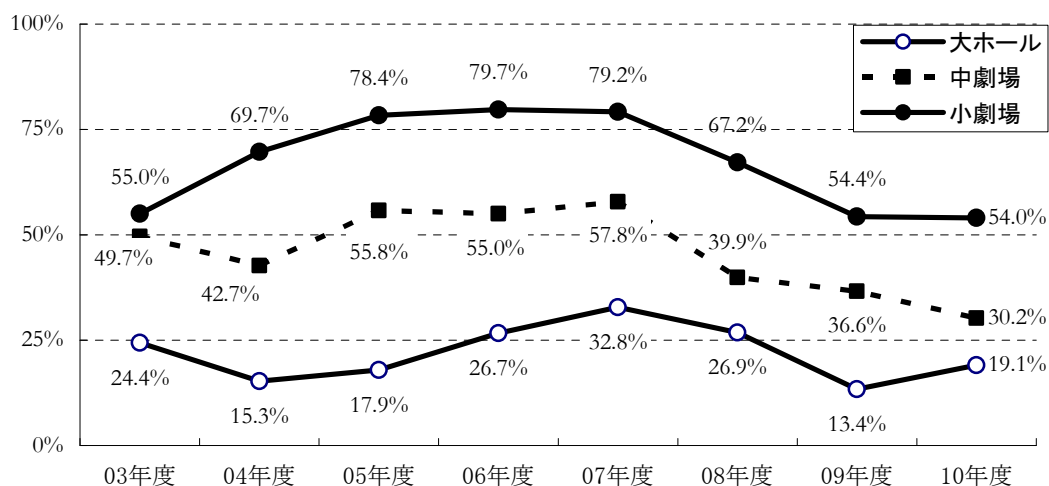
伸びていることが分かる(図表1-5)。主に演劇公演の利用で、北九州芸術劇場が全国規模の巡回公演の会場として定着してきたことが、貸館事業における利用増加の要因の一つと考えられる。

- 小劇場の自主事業比率が高いのは、リーディングセッションやシアターラボをはじめとする創造事業・創造参加の場として活用しているためであり、3つの劇場それぞれの役割と用途が明確になっているものと考えられる。

図表1-4 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース](03年度～10年度)



図表1-5 ホール別の自主事業比率 [件数ベース](03年度～10年度)



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の10年度の施設稼働率は、大ホールが82.4%、中劇場が73.8%、小劇場が78.9%である(図表1-6)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2010年度の(財)地域創造の悉皆調査結果(2010年10月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72.2%)と比較して高い水準にある。
- 大ホールは、04年度以降で最も高い82.4%の高い稼働率となっている。

図表1-6 北九州芸術劇場の稼働率(03年度～10年度)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	99	100	83	219	207	220	223	189	222
利用対象日数	103	107	86	277	283	304	281	276	297
稼働率	96.1%	93.5%	96.5%	79.1%	73.1%	72.4%	79.4%	68.5%	74.7%

	2006年度			2007年度			2008年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	202	199	254	220	205	257	192	203	249
利用対象日数	285	282	306	290	289	300	257	260	295
稼働率	70.9%	70.6%	83.0%	75.9%	70.9%	85.7%	74.7%	78.1%	84.4%

	2009年度			2010年度		
	大ホール	中劇場	小劇場	大ホール	中劇場	小劇場
公演日数	194	212	221	215	197	225
利用対象日数	262	260	282	261	267	285
稼働率	74.0%	81.5%	78.4%	82.4%	73.8%	78.9%

注) 稼働率は「稼働日数／利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去6ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の10年度の事業費は約2億2,000万円と、07年度以降の事業費の規模は連続して小さくなっており、過去の事業費と比べて最も規模の少ない事業費となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約1億5,000万円と全体の68.1%、市の補助金が約3,800万円と17.2%、文化庁と(財)地域創造、協賛金による外部資金が約3,200万円と14.7%と、チケット収入と外部資金で事業費の約8割(82.8%)をカバーしている(図表1-7)。
- 10年度は、自主事業のチケット収入が開館以来最も高い割合、市補助金が最も低い割合となった(図表1-8)。全国平均の試算値※と比較すると、10年度のチケット収入の割合は平均を大きく上回っている。チケット収入は、07年度:52.4%、08年度:42.2%、09年度:65.2%、10年度:68.1%と継続して高い割合を占めており、劇場の営業努力がうかがえる。

※(財)地域創造の悉皆調査結果(2007年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの補助金・委託費」が52.7%、「事業収入」が36.6%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付

金」が10.7%である。

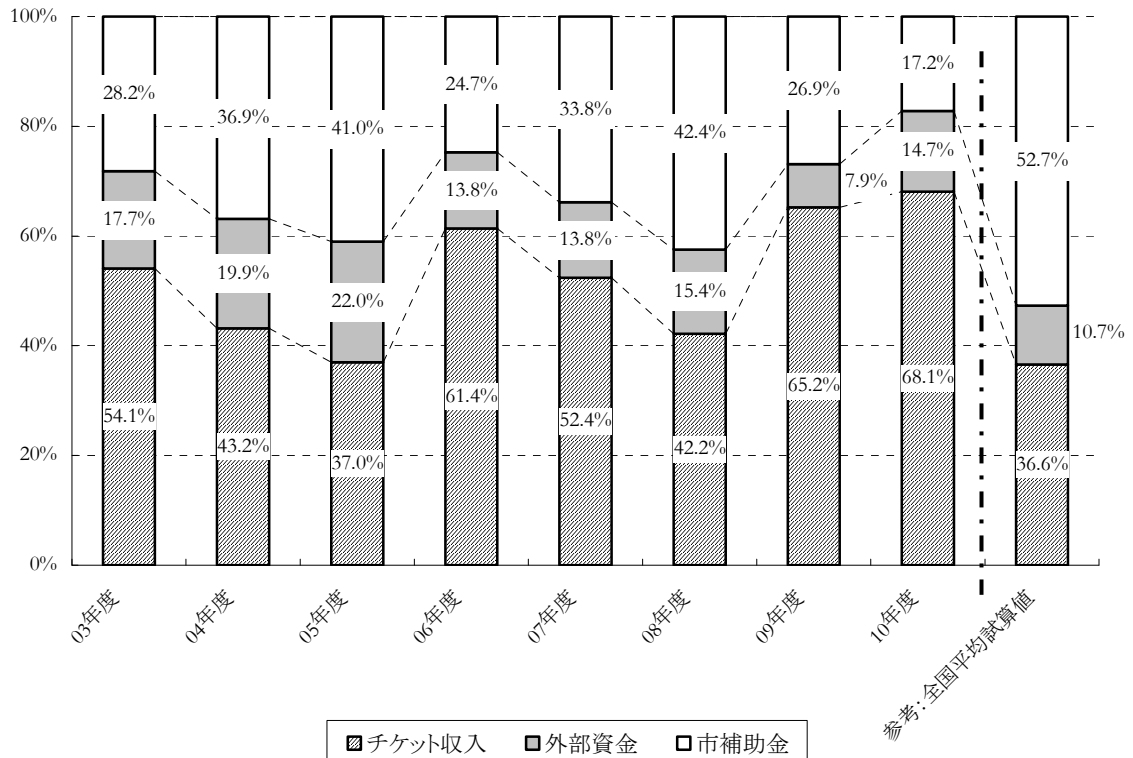
※指定管理施設の平成18年度決算金額平均値の「収入」欄から、「事業補助金」、「事業委託費」（いずれも設置者からの収入）、「事業収入」、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」の4項目を事業費財源と設定し、それぞれの内訳比率を算出した。

図表1-7 事業費の財源内訳(03年度～10年度)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	215,389	54.1%	145,429	43.2%	110,060	37.0%	263,901	61.4%
市補助金	112,225	28.2%	124,198	36.9%	121,965	41.0%	106,363	24.7%
外部資金	70,700	17.7%	67,000	19.9%	65,295	22.0%	59,517	13.8%
文化庁	49,000	(12.3%)	49,000	(14.6%)	45,795	15.4%	45,800	10.7%
地域創造	10,000	(2.5%)	18,000	(5.3%)	19,500	6.6%	13,717	3.2%
日本財団	11,700	(2.9%)	—	—	—	—	—	—
協賛金	—	—	—	—	—	—	—	—
計	398,314	100.0%	336,627	100.0%	297,320	100.0%	429,781	100.0%

	2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳	金額	内訳
チケット収入	197,355	52.4%	135,979	42.2%	202,004	65.2%	149,051	68.1%
市補助金	127,456	33.8%	136,854	42.4%	83,331	26.9%	37,726	17.2%
外部資金	52,051	13.8%	49,579	15.4%	24,432	7.9%	32,072	14.7%
文化庁	36,600	(9.7%)	27,400	(8.5%)	18,000	(5.8%)	11,000	(5.0%)
地域創造	15,451	(4.1%)	22,179	(6.9%)	6,432	(2.1%)	10,572	(4.8%)
日本財団	—	—	—	—	—	—	—	—
協賛金	—	—	—	—	—	—	10,500	(4.8%)
計	376,862	100.0%	322,412	100.0%	309,767	100.0%	218,849	100.0%

図表1-8 事業費の比率(03年度～10年度)



(2) 事業収支

- 10年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約3,900万円の増収、補助金等収入は約7,100万円の減収となっており、10年度は補助金等の減収分を、事業収入によってカバーした形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行なっていることがうかがえる。

図表1-9 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(03年度～10年度)

(千円)

	2003年度			2004年度			2005年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	194,300	215,389	△ 21,089	146,346	145,429	917	130,500	110,060	20,440
下段:全体に占める割合	48.6%	54.1%	—	41.1%	43.2%	—	37.3%	37.0%	—
補助金等収入	205,700	182,925	22,775	209,300	191,198	18,102	219,500	187,260	32,240
	51.4%	45.9%	—	58.9%	56.8%	—	62.7%	63.0%	—
市補助金	135,000	112,225	22,775	135,000	124,198	10,802	151,000	121,965	29,035
助成金	70,700	70,700	0	74,300	67,000	7,300	68,500	65,295	3,205

	2006年度			2007年度			2008年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	265,709	263,901	1,808	212,173	197,355	14,818	269,172	135,979	133,193
	53.9%	61.4%	—	50.2%	52.4%	—	54.1%	42.2%	—
補助金等収入	227,531	165,880	61,651	210,800	179,507	31,293	228,412	186,433	41,979
	46.1%	38.6%	—	49.8%	47.6%	—	45.9%	57.8%	—
市補助金	145,000	106,363	38,637	149,000	127,456	21,544	149,000	136,854	12,146
助成金	82,531	59,517	23,014	61,800	52,051	9,749	79,412	49,579	29,833

	2009年度			2010年度		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
事業収入	157,949	202,004	△ 44,055	110,503	149,051	△ 38,548
	44.7%	65.2%	—	43.9%	68.1%	—
補助金等収入	195,470	107,763	87,707	141,200	69,798	71,402
	55.3%	34.8%	—	56.1%	31.9%	—
市補助金	135,000	83,331	51,669	108,000	37,726	70,274
助成金	60,470	24,432	36,038	33,200	32,072	1,128

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に会場した観客に対するアンケート調査の結果から、2010年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

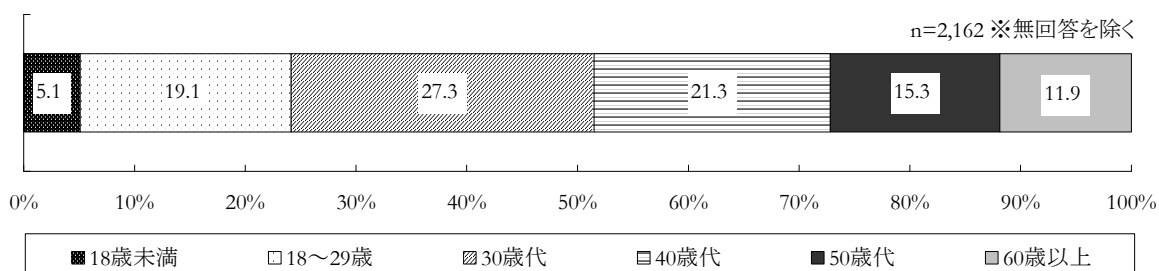
- 調査の対象:2010年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 30公演
- 配布・回収方法:各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期:2010年4月2日～2011年3月18日
- 有効回答数(回収率):2,379件、回収率:17.5% (配布数:13,581件)。

2. 観客調査の結果概要

(1)観客(アンケート回答者)の属性 (p.資-10～19)

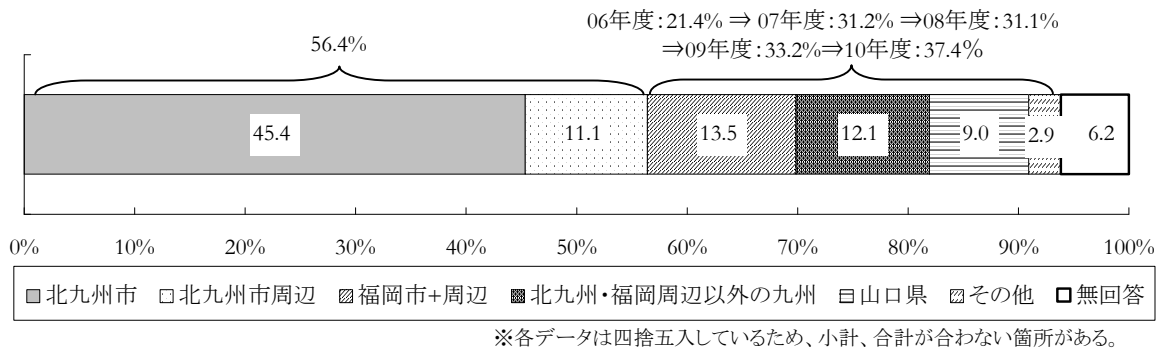
- 観客は、女性が81.6%、男性が18.4%と女性が多い。ジャンルによって若干男女比は異なり、「音楽劇」、「古典芸能」、「ダンス・現代舞踊」では全体に比べて男性の割合が高い傾向がある。
- 平均年齢は40.2歳。年齢層に大きな偏りはなく、幅広い年齢層が来場している(図表2-1)。平均年齢に関しては、03年度が45.5歳で、04年から08年度までは42.0歳～43.4歳の範囲で上下し、10年度は40.2歳と過去に比べて低年齢化した。ただし、アンケート回収率が全体に比べて高かった「小林賢太郎演劇作品『ロールシャッハ』」(回収率31.7%、187件)での平均年齢が28.1歳であるため、それが全体の平均年齢に影響を与えていると考えられる。
- ジャンルによって年齢構成は異なり、「古典芸能」で年齢層が高い(平均年齢:58.0歳)。

図表2-1 年齢層(10年度)



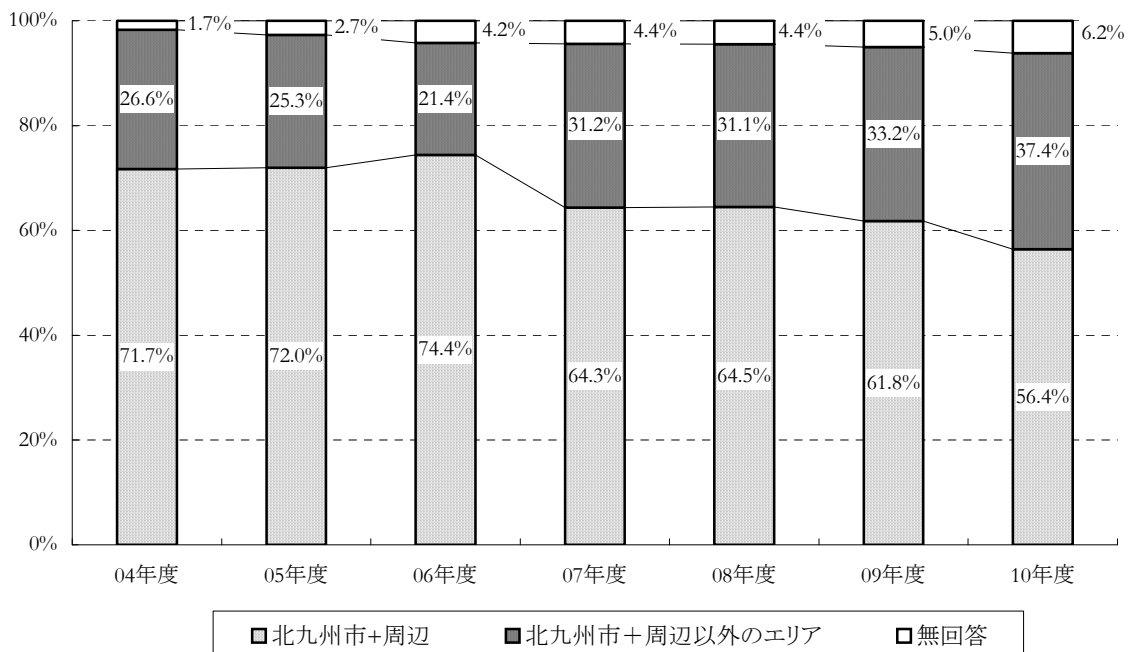
- 居住地域は、北九州市周辺を含めた市域からの来場者が56.4%(うち北九州市内が45.4%)である。福岡市域や福岡県以外の九州各県、山口県、その他からの10年度の来場者は37.4%で、07年度以降は約3割を占めている(図表2-2)。

図表2-2 居住地域(10年度)



- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は北九州市と周辺以外のエリア（福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など）の割合が約3割を超え、08年度以降は増加している。

図表2-3 居住地域の経年推移(04年度～10年度)



- チケットクラブには回答者の約2割(19.0%)が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは14.7%である。

(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

①来場公演のジャンル(p.資-22～23)

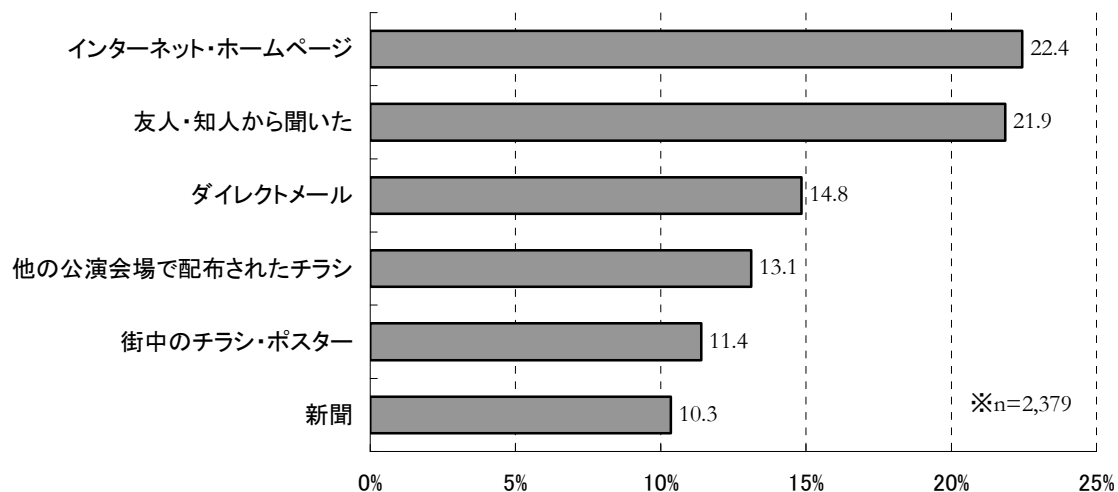
- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が約7割(70.5%)を占める。
※アンケート配布公演30公演のうち22公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、いずれの年代でも「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、18歳～40歳代で高い。また、50歳代、40歳代、18歳未満では「ミュージカル・商業演劇」、60歳以上では「古典芸能」の割合が高い。
- 「今日が初めて」という回答者の場合、「小劇場・現代演劇」の割合が77.5%と、北九州芸術

劇場で初めて鑑賞した回答者の4人に3人が「小劇場・現代演劇」に来場した。

②公演情報の入手経路(p.資-24～25)

- 公演情報の入手経路は、全体では「インターネット・ホームページ」(22.4%)の割合が最も高く、次いで、「友人・知人から聞いた」(21.9%)、「ダイレクトメール」(14.8%)、「他の公演会場で配布されたチラシ」(13.1%)がほぼ同割合となっている(図表2-4)。
- 開館年度から継続して「友人・知人から聞いた」への回答割合が最も高かったが、10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となった(09年度:16.3%)。

図表2-4 公演情報の入手経路(10年度) ※10%以上回答があった項目を、回答の多い順に掲載



- 公演情報の入手経路を、年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見る(図表2-5)。まず年齢別では、18歳未満と50歳代は「友人・知人から聞いた」、18歳から40歳代では「インターネット・ホームページ」、60歳代以上では「新聞」の割合が最も高い。「新聞」は年齢層が高いほど割合が高くなっている。
- 18歳未満では「街中のチラシ・ポスター」、18歳から30歳代の年齢層では、「友人・知人から聞いた」が第2位となっている。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が6回以上のグループでは、「ダイレクトメール」が最も割合が高い。6～10回では「インターネット・ホームページ」が、11回以上では「他の公演で配布されたチラシ」が2位となっている。一方、5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」となっている。
- 劇場での鑑賞経験によって情報の入手経路は特徴があるが、「インターネット・ホームページ」はいずれの鑑賞頻度でも19～26%の回答がある。鑑賞頻度に関わらず、便利な情報入手ツールとして使われていることがうかがえる。

図表2-5 年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別 公演情報の入手経路(10年度)

n=2,379(単位:%)

		インターネット・ホームページ	友人・知人から聞いた	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	街中のチラシ・ポスター	新聞
全体		22.4	21.9	14.8	13.1	11.4	10.3
年齢層	18歳未満	13.0	29.6	11.1	1.9	14.8	3.7
	18～29歳	33.8	32.1	6.1	9.0	10.7	2.4
	30歳代	31.7	21.4	17.0	16.0	11.0	6.4
	40歳代	22.5	17.7	17.2	17.9	13.3	8.7
	50歳代	13.6	22.4	18.7	11.8	10.3	17.5
	60歳以上	3.1	16.1	15.0	10.2	11.0	28.7
鑑賞経験	今日が初めて	25.9	30.2	7.4	3.5	7.2	9.0
	1～2回	23.4	25.2	8.4	8.4	14.0	9.3
	3～5回	19.6	23.8	10.0	13.4	12.6	11.4
	6～10回	23.5	14.7	24.5	19.0	12.1	10.5
	11回以上	20.8	10.4	33.0	30.7	15.5	10.7

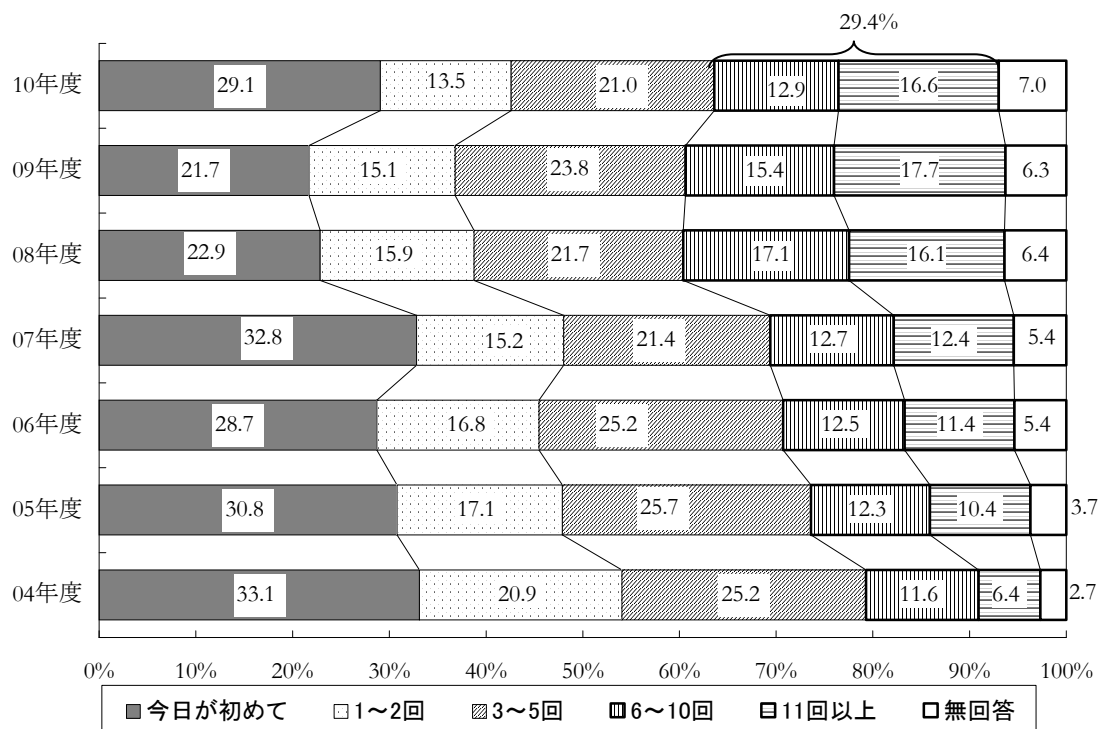
③公演に来た理由(p.資-26～27)

- 公演に来た理由は、「出演者・出演団体が好きだから」(60.4%)、「公演内容が面白そうだったから」(43.5%)への回答が多い。18歳未満では、「公演内容が面白そうだったから」(41.7%)が「出演者・出演団体が好きだから」(28.7%)を上回っている。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-46～47)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は「今日が初めて」(29.1%)の割合が最も高いが、「1～2回」から「年11回以上」まで大差はなく、来場者の鑑賞経験は幅広い。

図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(04年度～10年度)



※各データは四捨五入しているため、小計、合計が合わない箇所がある。

- 観客の北九州芸術劇場での鑑賞経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、年々劇場での鑑賞経験の多い観客(来場経験が6回以上)が増えており、10年度は今まで北九州芸術劇場での鑑賞経験のなかった人の割合が大きく伸びた(図表2-6)。6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、ジャンル別では「ダンス・現代舞踊」、年齢別では「50歳代」と「60歳以上」である。

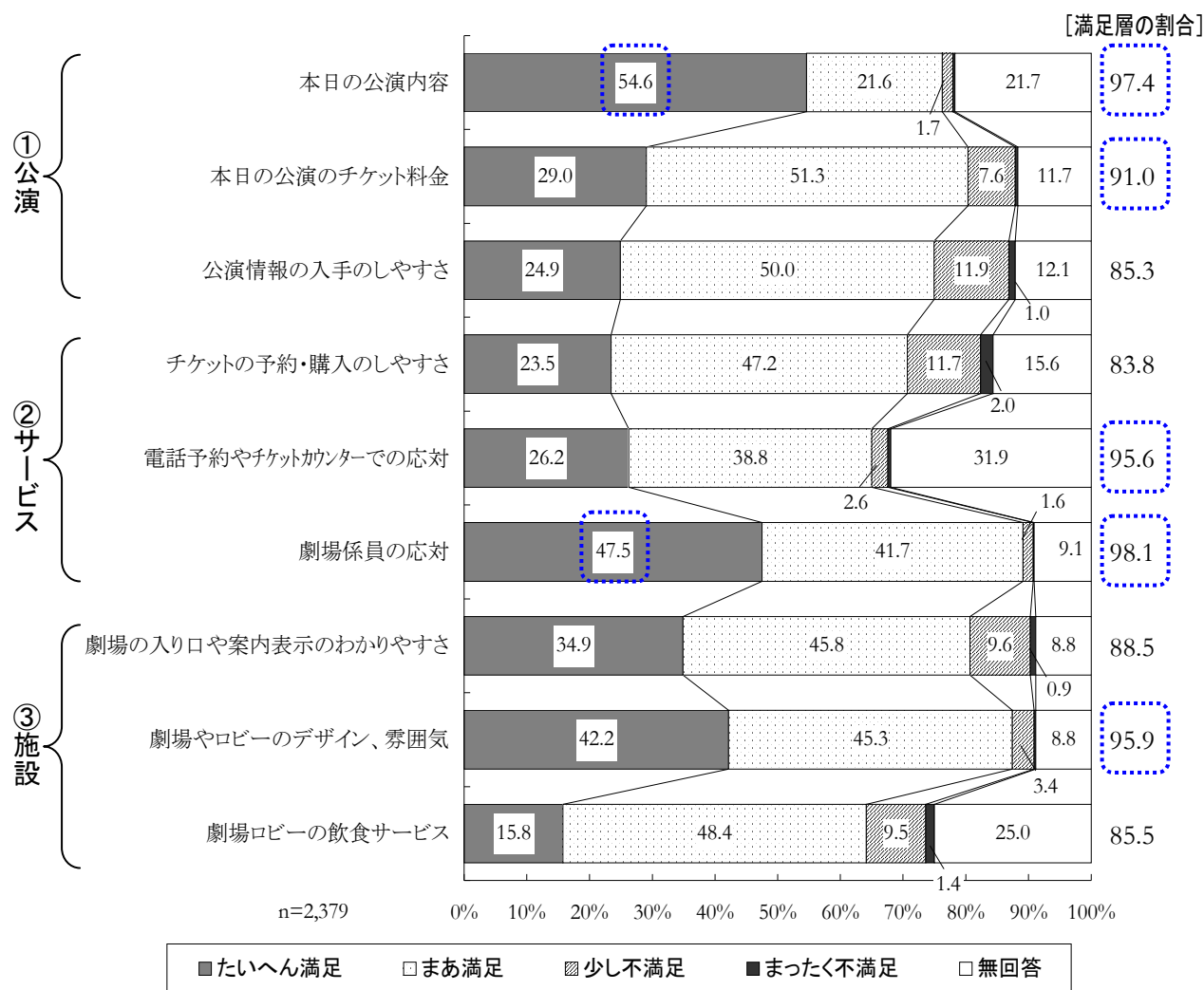
⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-28～29)

- 来場者の57.8%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が約1,600円(飲食をしている回答者の割合:全体の48.0%)、ショッピングの場合が約4,600円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の27.6%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-30～38)

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約やチケットカウンターでの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の5項目である(図表2-7)。

図表2-7 公演や劇場に対する満足度(10年度)



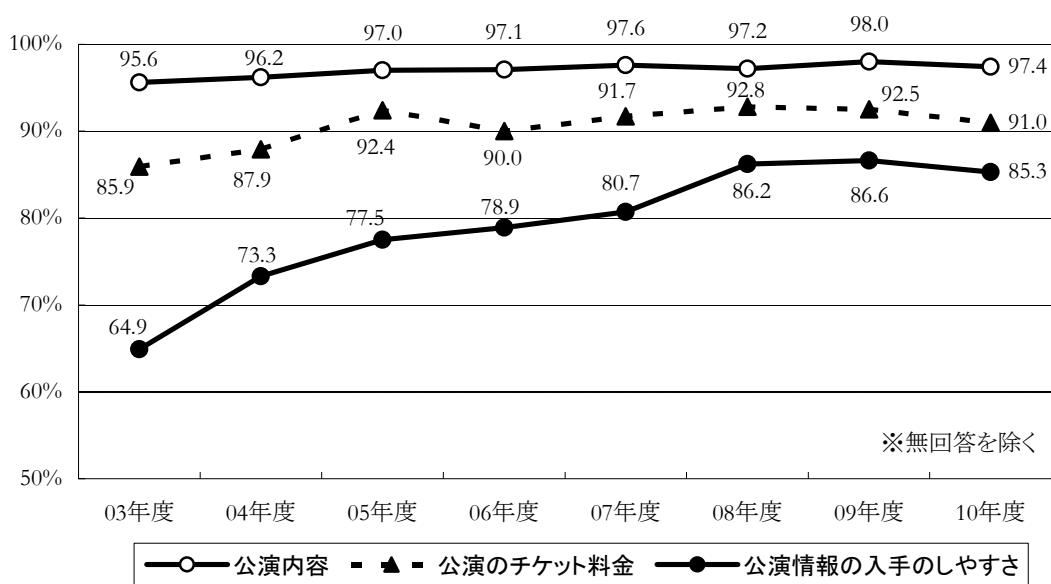
※満足層の割合:「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ54.6%、47.5%と高い評価となっている。
- 年齢別にみると、いずれの項目も年齢層が高くなるほど満足度は低くなる傾向がある。60歳代以上では、ほぼすべての項目で「たいへん満足」の割合が低い。特に情報入手や、劇場のハード面に関する項目でその傾向は顕著である。
- 無回答が多い「電話予約やチケットカウンターでの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 次に、満足度に関する9項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化でみてみよう(図表2-8～2-10)。

①公演について(図表2-8)

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、満足度が向上し、10年度は満足層の割合が85.3%となっている。

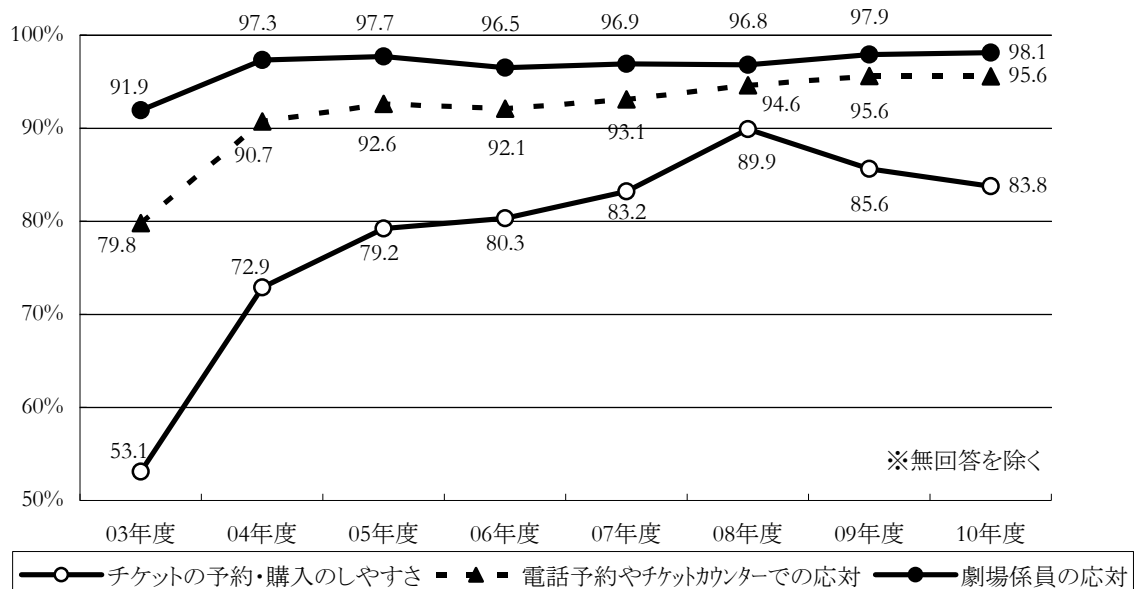
図表2-8 公演関連項目に関する満足層の割合(03年度～10年度)



②サービスについて(図表2-9)

- 「劇場係員の応対」、「電話予約やチケットカウンターでの応対」は、04年度に満足層の割合が90%を超え、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足度の伸びが大きい。10年度は83.8%と若干数字は下がっているが、「たいへん満足」の割合も23.5%とほぼ09年度(24.1%)と同じ割合を維持している(人気公演の場合は、チケットの予約・購入がしにくくなることに留意が必要である)。

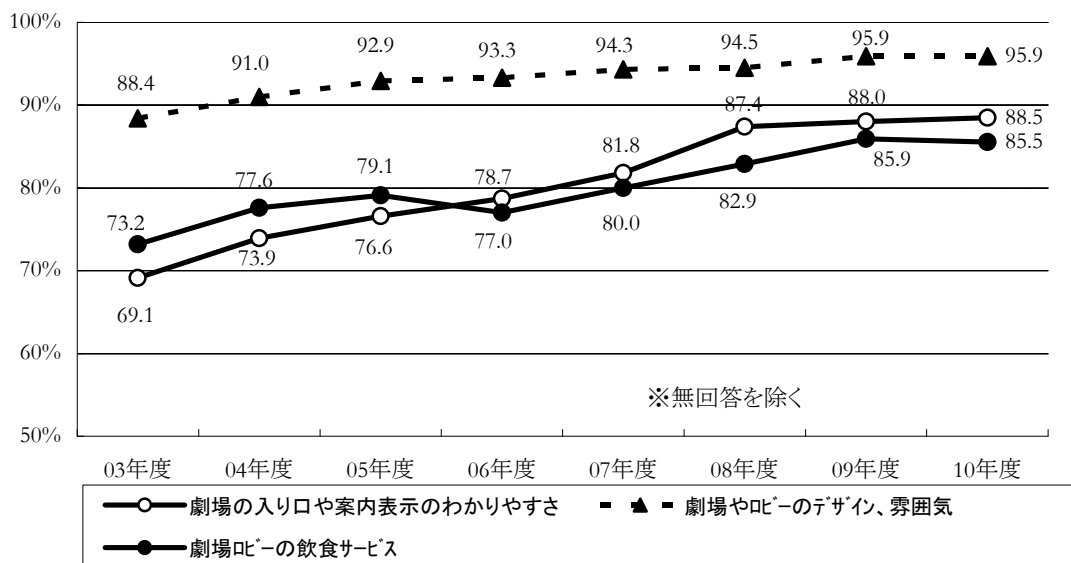
図表2-9 サービス関連項目に関する満足層の割合(03年度～10年度)



③施設について(図表2-10)

- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。
- 一方、「劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」は、複合施設である故の動線の複雑さもあり、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、10年度は88.5%まで向上している。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

図表2-10 施設関連項目に関する満足層の割合(03年度～10年度)

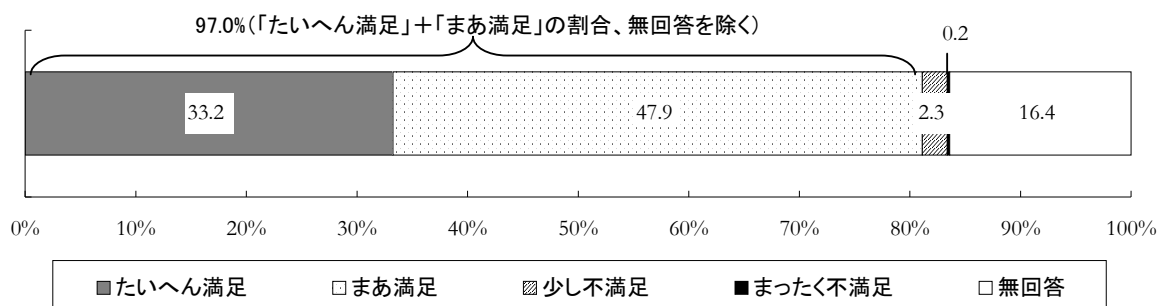


- ①公演、②サービス、③施設、いずれについても、すでに満足度が高い項目は高さを堅持している。

④総合的な満足度について

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が97.0%。「たいへん満足」の割合が33.2%、「まあ満足」の割合が47.9%となっている(図表2-11)。

図表2-11 総合的な満足度(10年度)



(4) 劇場の運営方針について(p.資-39～41)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」については、いずれも90%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く)(図表2-12)。
- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が79.5%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」が約46～49%と半数近くを占める。これは03年度からの傾向である。
- 「創る」、「育つ」とともに、29歳以下の若い世代で「ぜひやってほしい」と積極的に賛同する割合が高い。

図表2-12 運営方針への賛同度(10年度)

n=2,379

運営方針	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する人の割合	賛同しない人の割合
観る	79.5%	12.7%	0.7%	0.1%	7.1%	99.1%	0.9%
創る	48.7%	37.7%	4.0%	0.4%	9.2%	95.2%	4.8%
育つ	46.4%	38.8%	4.9%	0.5%	9.4%	94.0%	6.0%

※賛同する人の割合:「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

(5) 日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-44～45)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に1～2回程度」(23.7%)、「年に3～4回程度」(22.6%)、「年に5～9回」(15.2%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.4%を占める。北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、年に2回以下の頻度の割合が58.9%を占めている。

②興味のあるジャンル(p.資-48～50)

- 普段興味を持っているジャンルについては、「映画」(51.0%)、「小劇場・現代演劇」(49.9%)、「有名俳優の演劇」(49.8%)、「ミュージカル・宝塚歌劇」(47.7%)への回答割合が高く、興味のあるジャンルは多様である。
- 興味のあるジャンルは、性別や年齢で特徴がある。性別でみると、男性は「小劇場・現代演劇」、「映画」、「寄席・演芸・お笑い・独演会など」、女性は「有名俳優の演劇」、「映画」、「ミュージカル・宝塚演劇」という順で回答割合が高い。
- 年齢別でみると、29歳以下は「映画」、30歳代と40歳代は「小劇場・現代演劇」、50歳代は「有名俳優の演劇」、60歳以上は「寄席・演芸・お笑い・独演会など」への回答割合が他の年齢層に比べて高い。
- 北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、鑑賞経験が多いほど、「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・宝塚歌劇」への興味は高い。また、北九州芸術劇場での鑑賞経験が11回以上では、ほとんどすべての項目について回答割合が高く、舞台芸術以外でも、さまざまな文化・芸術に興味を持っていることがうかがえる。

第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2010年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:250件
- 有効回答数(回収率): 145件(58.0%)

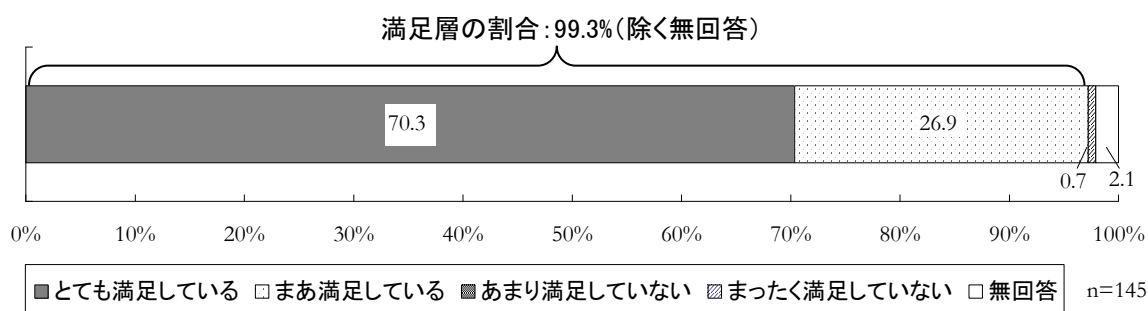
2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-62)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が70.3%(102件)、「まあ満足」が26.9%(39件)で、満足層の割合(「とても満足」+「まあ満足」と回答した割合、無回答を除く)は99.3%と大変高い。

図表3-1 総合的な満足度【10年度】



(2) 施設に関する意見(p.資-63～67)

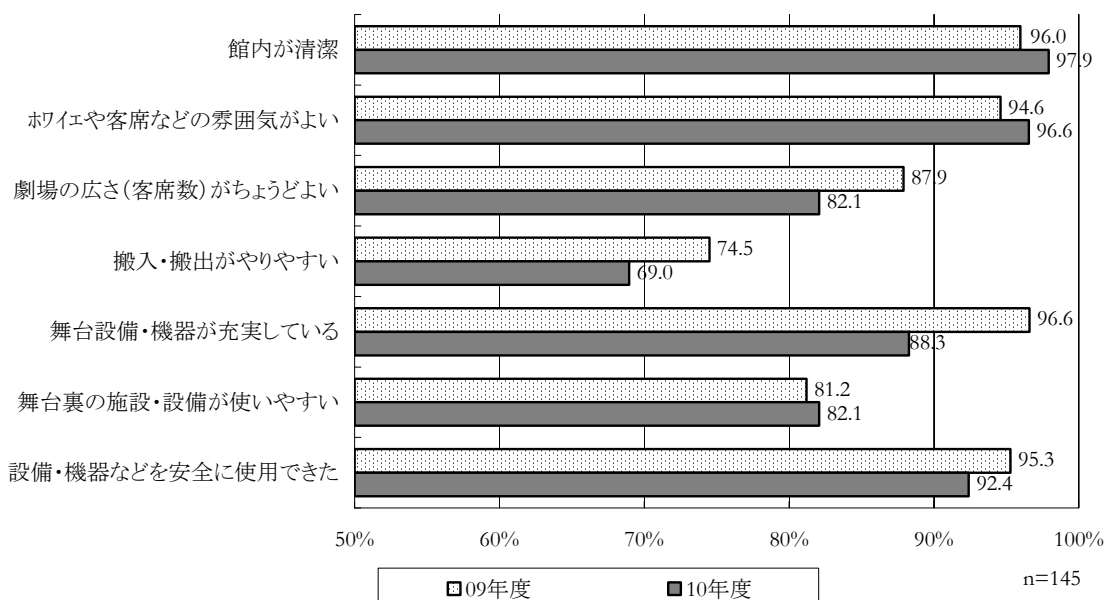
- 施設に関する7項目については、「搬入・搬出がやりやすい」以外の6項目で、肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)は95%以上と大変高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高く、特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席などの雰囲気がよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の3項目は、「はい」が90%以上である(図表3-2)。
 - 「はい」という積極的な評価の割合について、06年度からの経年変化をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」は5年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-65)。
 - 10年度は、09年度と比べて「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」で「はい」への回答が増加している。「搬入・搬出がやりやすかった」については、他の項目に比べて満足層の割合、「はい」への回答ともに少ないものの、満足層の割合は92.3%となっている。利用者への搬入・搬出に関する説明や案内が周知されてきていること、利用者が慣れてきていることがうかがえる(図表3-2)。
- ※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意

見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

図表3-2 施設(ハード)に関する意見【10年度】

	「はい」	どちらか といえ ば「は い」	どちらか といえ ば「いい え」	「いい え」	無回答	「はい」+ どちらか といえ ば「は い」(除無 回答)
n=145(単位: %)						
館内が清潔	97.9	2.1	0.0	0.0	0.0	100.0
ホワイエや客席などの雰囲気がよい	96.6	3.4	0.0	0.0	0.0	100.0
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	82.1	12.4	2.1	2.8	0.7	95.1
搬入・搬出がやりやすい	69.0	22.1	6.2	1.4	1.4	92.3
舞台設備・機器が充実している	88.3	10.3	0.0	0.0	1.4	100.0
舞台裏の施設・設備が使いやすい	82.1	15.2	0.0	1.4	1.4	98.6
設備・機器などを安全に使用できた	92.4	6.2	0.0	0.0	1.4	100.0

図表3-3 施設(ハード)に関する意見「はい」の回答割合比較【09年度・10年度】



(3) 運営や応対に関する意見(p.資-68～73)

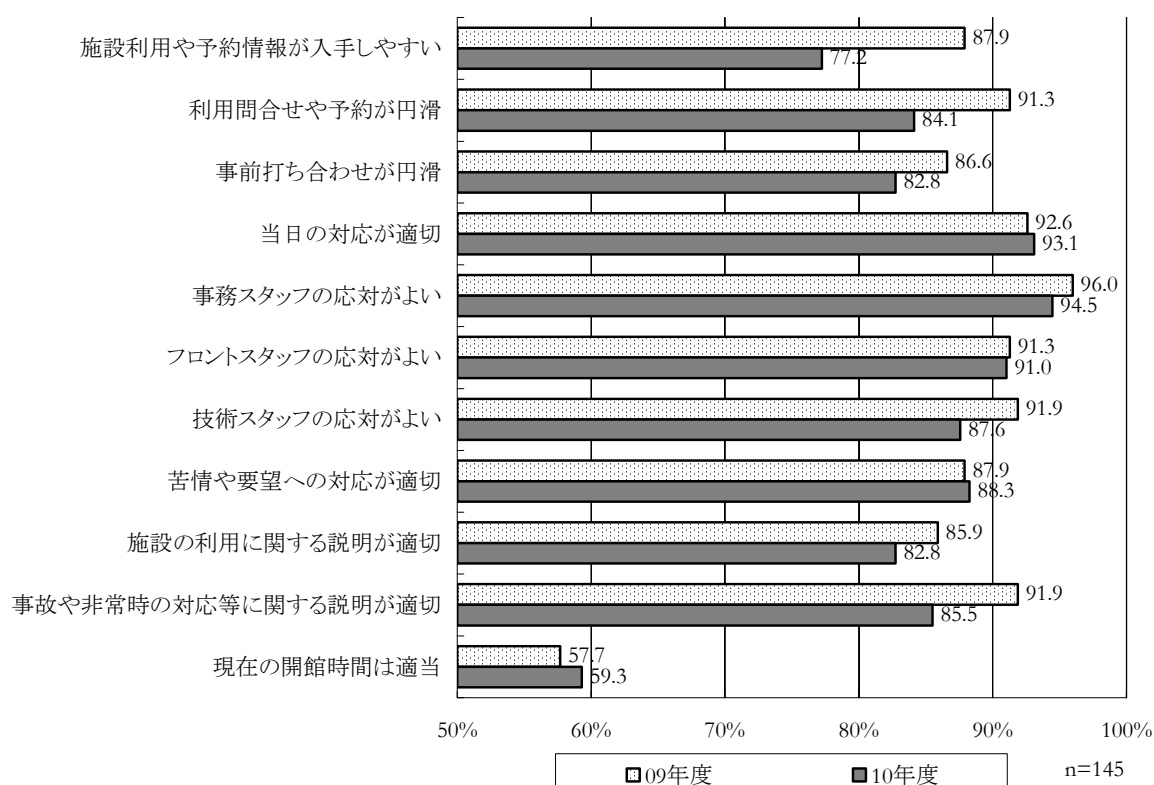
- 運営、応対に関する12項目についても、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で、肯定的な評価をしている割合が95%以上と高くなっている。また、「はい」という積極的に評価する割合も高い(図表3-4)。
- 「はい」という積極的な評価の割合については、「事務スタッフの応対がよい」が5年間連続で9割以上が「はい」と回答している。また、09年度から調査項目に加えた「当日の対応が適切」、「フロントスタッフの応対がよい」も9割以上が「はい」と回答している(p.資-70～71)。10年度は、09年度と比べて、「当日の対応が適切」、「苦情や要望への対応が適切」、「現在の開館時間は適当」で「はい」への回答割合が高くなっている(図表3-5)。その一方で、「施設利用や予約情報が入手しやすい」の「はい」への回答割合は、09年度から10年度にかけておよそ10ポイント減少(87.9%→77.2%)しており、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」、「利用問い合わせや予約が円滑」についても減少している。
- 「現在の開館時間は適当である」については、他の項目に比べると「はい」の割合が低い。

これは管理規則で10時から22時と定められていることによるが、自由回答でもより長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見があがっている。

図表3-4 運営や対応(ソフト)に関する意見【10年度】

	「はい」	どちらか といえば「はい」	どちらか といえば「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ どちらかとい え「はい」(除無 回答)
n=149(単位:%)						
施設利用や予約情報が入手しやすい	77.2	17.9	0.0	0.7	4.1	99.3
利用問い合わせや予約が円滑	84.1	9.0	0.7	1.4	4.8	97.8
事前打ち合わせが円滑	82.8	12.4	1.4	2.1	1.4	96.5
当日の対応が適切	93.1	4.8	0.0	1.4	0.7	98.6
事務スタッフの対応がよい	94.5	4.1	0.0	1.4	0.0	98.6
フロントスタッフの対応がよい	91.0	7.6	0.0	1.4	0.0	98.6
技術スタッフの対応がよい	87.6	6.9	0.7	1.4	3.4	97.9
苦情や要望への対応が適切	88.3	9.0	0.0	1.4	1.4	98.6
施設の利用に関する説明が適切	82.8	11.0	2.8	0.0	3.4	97.1
事故や非常時の対応等に関する説明が適切	85.5	11.0	0.7	0.0	2.8	99.3
現在の開館時間は適当	59.3	19.3	14.5	4.8	2.1	80.3

図表3-5 運営や対応(ソフト)に関する意見「はい」の回答割合比較【09年度・10年度】



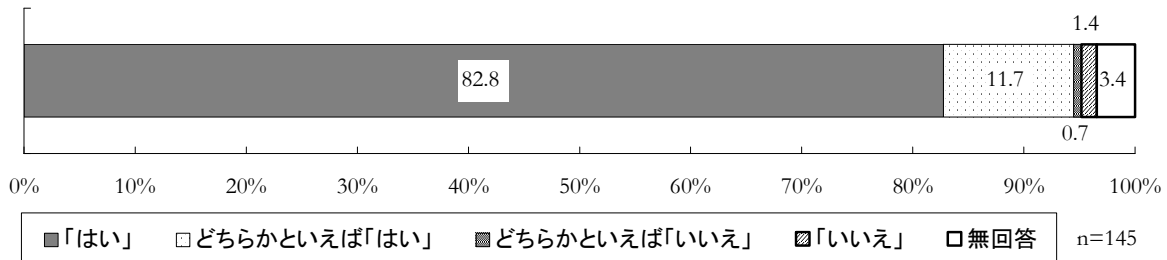
(4) 今後の利用の意向(p.資-73)

- 「機会があればまた利用したい」については、「はい」が82.8%(120件)と高い割合を占めており、「どちらかといえば『いいえ』」は1件、「いいえ」は2件であった。利用者の今後の利用

意向は大変高い。

- 今後の利用意向への高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものであると考えられる。

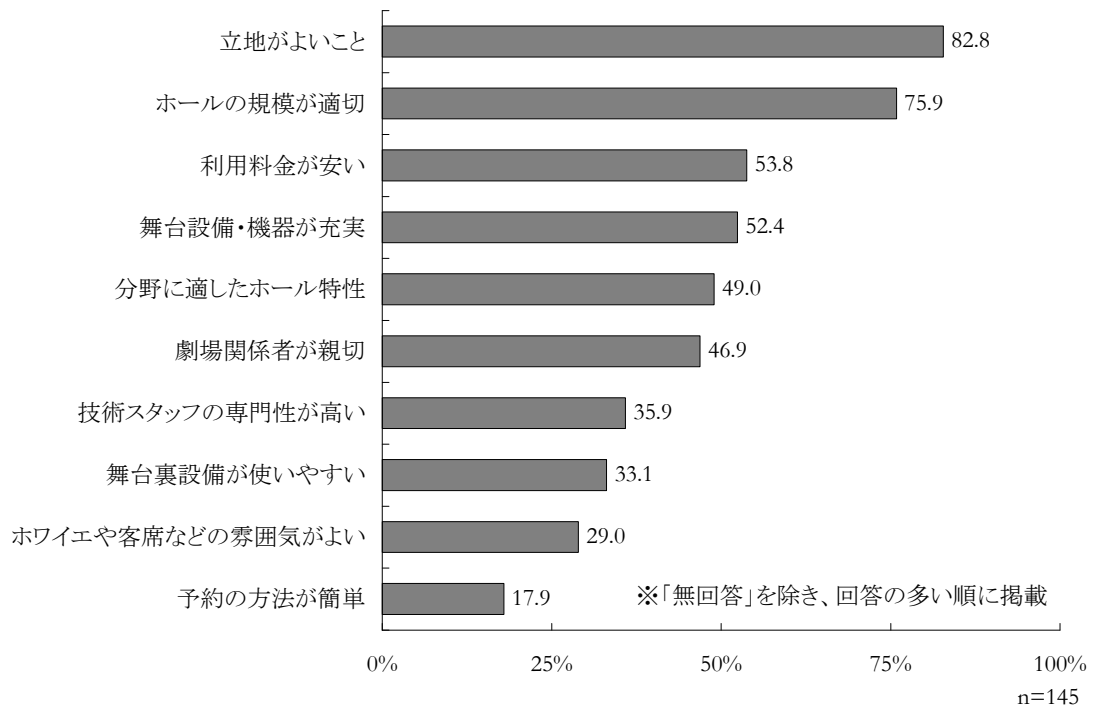
図表3-6 今後の利用の意向【10年度】



(5) 利用の際、重視すること(p.資-74～76)

- 利用の際重視することとしては、「立地がよいこと」(82.8%・120件)と「ホールの規模が適切」(75.9%・110件)への回答が多い。
- そのほか、「利用料金が安い」、「舞台設備・機器が充実」、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」も約50%の回答となっている。

図表3-7 利用の際、重視すること【10年度】



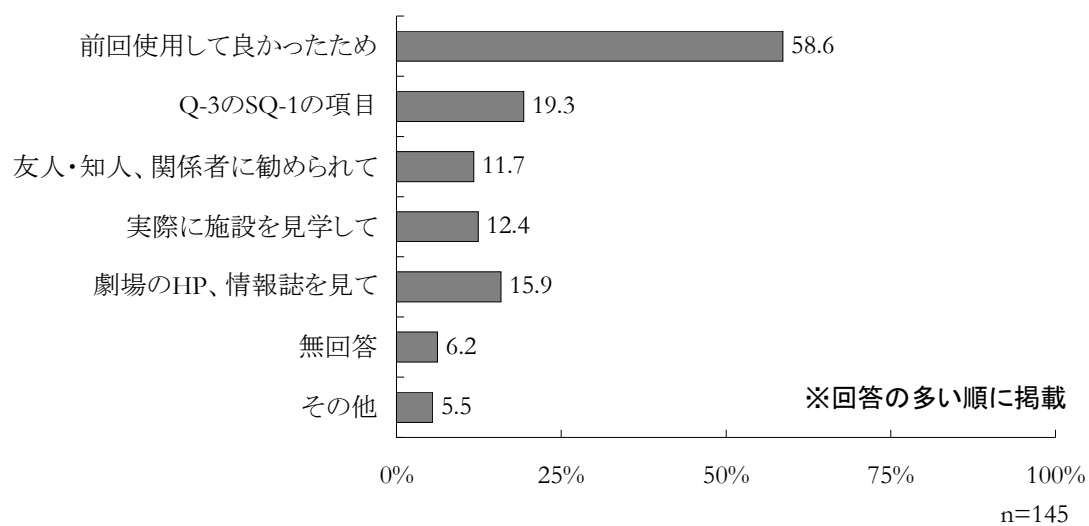
- 最も重視することは、「立地がよいこと」(31.7%・46件)への回答が最も多く、次いで、「ホールの規模が適切」(29.0%・42件)「分野に適したホール適性」(20.7%・30件)となっている。

(6) 利用のきっかけ(p.資-77)

- 利用のきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、58.6%(85件)を占めている。利用者の劇場への満足度は高く、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。

- 次いで、「Q-3のSQ-1(利用の際、重視する)の項目」(19.3%・28件)となっており、「立地がよいこと」、「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。

図表3-8 利用のきっかけ



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要（直接的経済効果）、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

10年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出（最終需要）は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる（図表4-1参照）。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくいため、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億7,000万円、2億1,900万円、2億2,200万円、合計で11億1,100万円となっている。そのうち、72.1%にあたる約8億円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億4,300万円、②が3億4,900万円、③が3億4,800万円、合計で16億4,000万円である。そのうち、67.0%にあたる10億9,900万円が北九州市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.48、北九州市内で1.37である。
- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果（北九州市内のみ）は、約8億2,000万円～9億2,300万円、生産誘発係数は1.39

である。

- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約24億6,100万円～25億6,400万円で生産誘発係数は1.45、北九州市内に限ってみると、約19億2,000万円～20億2,300万円で生産誘発係数は1.38となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では168～176人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で146～154人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(10年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億7,000万円 (5億9,200万円)	9億4,300万円 (8億1,100万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億1,900万円 (8,300万円)	3億4,900万円 (1億1,600万円)	1.6 (1.40)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	2億2,200万円 (1億2,500万円)	3億4,800万円 (1億7,200万円)	1.57 (1.38)
	小計	11億1,100万円 (8億円)	16億4,000万円 (10億9,900万円)	1.48 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	1億4,900万円 ～2億2,400万円	2億600万円 ～3億900万円	1.38
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	4億3,900万円	6億1,400万円	1.40
	小計(参考値)	5億8,800万円 ～6億6,300万円	8億2,000万円 ～9億2,300万円	1.39
合計(参考値)		16億9,900万円 ～17億7,300万円 (13億8,800万円 ～14億6,300万円)	24億6,100万円 ～25億6,400万円 (19億2,000万円 ～20億2,300万円)	1.45 (1.38)
		雇用効果 (北九州市内)	168～176人(就業者ベース) 146～154人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。また、各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

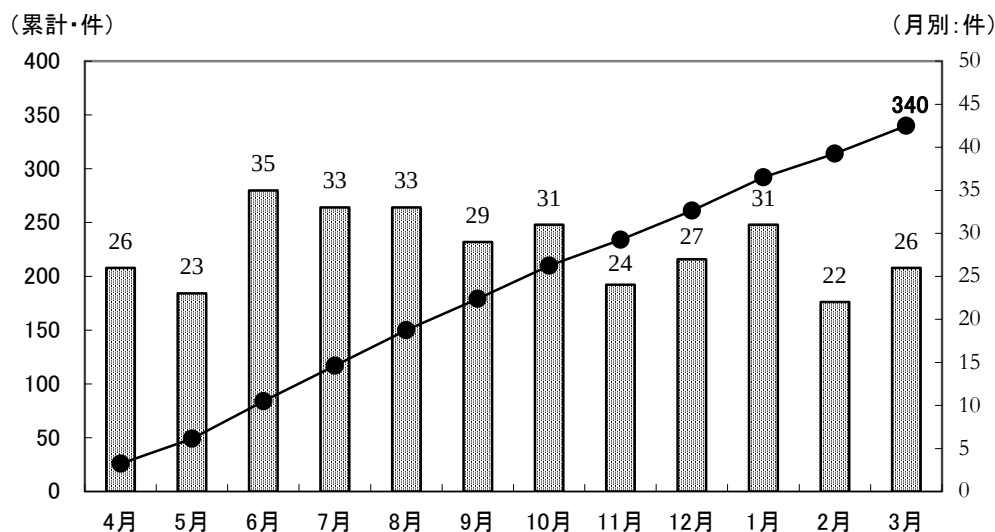
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、03年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、10年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

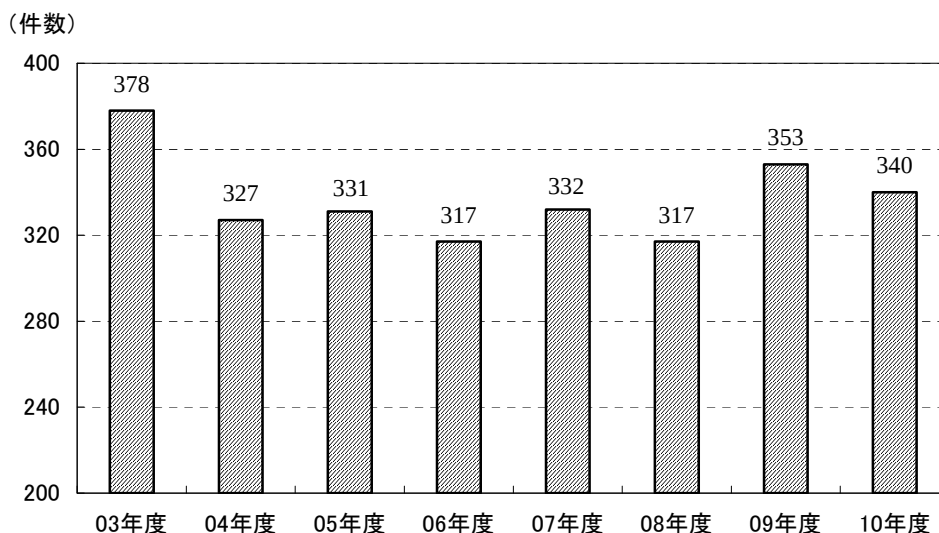
(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした10年度の掲載記事の件数と内容

- 10年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は340件(図表4-2)である。
- 03年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かったが、04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事が毎月コンスタントに掲載されている(図表4-3)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計(10年度)



図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(03年度～10年度)



資料) 図表4-2、4-3ともに「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、10年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(146件)、次いで、朝日新聞(73件)、日経新聞(35件)、読売新聞(31件)、毎日新聞(30件)、その他(九州各県をはじめとする地方新聞、25件)となっている(図表4-4)。

図表4-4 新聞別件数一覧(03年度～10年度)

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
西日本新聞	151	147	149	149	120	119	131	146
朝日新聞	78	52	48	60	74	62	80	73
日本経済新聞	34	32	37	37	50	41	34	35
読売新聞	40	61	46	31	28	36	45	31
毎日新聞	58	31	34	20	32	33	43	30
その他	17	4	17	20	28	26	20	25
計	378	327	331	317	332	317	353	340

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、187件であった(09年度:177件)。
- その内容を、「自主事業／提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、82件、28件、55件、22件であった(図表4-5)。

(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら187件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億3,538万円という結果となっている(図表4-5)。
- 03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事(金額換算対象記事)の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 05年度は「ルル」や「IRON」といった全国展開型の創造事業の公演数が多かったこと、06年度は「時の中の時ーとき」が朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙に掲載された記事が多かった。金額換算時の広告料は全国紙で高いため、05年度と06年度は全体の掲載件数は飛びぬけて多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 07年度以降は、毎月コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになっている。換算金額は03～06年度と比べて低くなっているものの、記事としての掲載件数は減少していない。
- 10年度の掲載内容をみると、西日本新聞、朝日新聞(西部)、読売新聞(西部)での演劇や舞台に関する批評・紹介欄で、定期的に劇場の公演事業に関する記事が掲載されている。九州他県の地方紙でも劇場の公演が紹介されており、北九州市域外での劇場事業の定着

が新聞記事からうかがえる。

- 10年度では、「相対性浮世絵」、「南河内万歳一座」といった公演事業の紹介記事のほか、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」に関する記事がコンスタントに掲載されていることが特徴となっている。学芸事業は過去最多の掲載件数となっている。
- 10年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約3,800万円であり、劇場事業は補助金を大きく上回るパブリシティ効果(約1億3,500万円)を生み出していると言える。

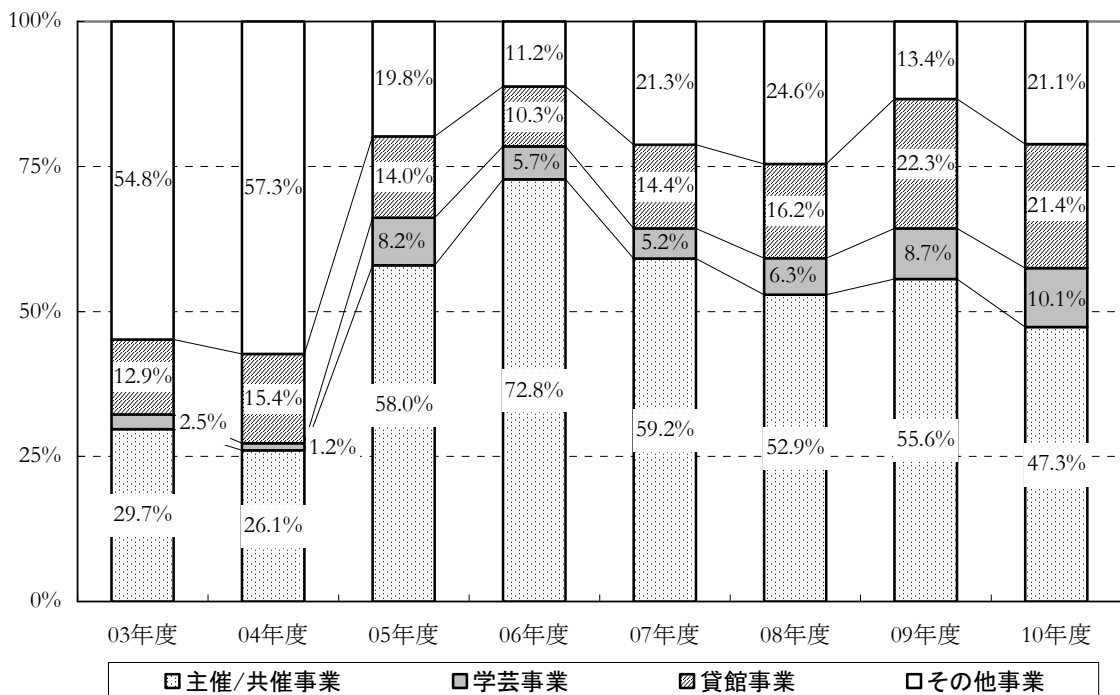
図表4-5 新聞掲載記事の内容と金額換算(03年度～10年度)

	2003年度		2004年度		2005年度		2006年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
主催/共催事業	70	62,140	54	46,211	75	110,044	88	160,243
学芸事業	8	5,331	5	2,141	25	15,505	17	12,451
貸館事業	46	27,072	43	27,235	34	26,622	35	22,741
その他事業	56	114,683	61	101,577	25	37,678	23	24,680
計	180	209,226	163	177,164	159	189,849	163	220,115

	2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)	掲載 件数	金額換算 (千円)
主催/共催事業	85	66,027	55	66,588	86	65,542	82	64,078
学芸事業	12	5,777	12	7,926	11	10,316	28	13,718
貸館事業	31	16,056	50	20,392	57	26,293	55	28,986
その他事業	26	23,737	32	30,961	23	15,755	22	28,598
計	154	111,597	149	125,867	177	117,905	187	135,379

注) 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

図表4-6 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース](03年度～10年度)



第5章 地域文化振興における北九州芸術劇場の役割

——座談会の結果から

今年度のグループインタビュー調査では、地域文化振興における北九州芸術劇場の役割というテーマを設定し、舞台芸術以外の分野（美術、建築、伝統工芸）から北九州市内で活動する以下の3名を迎えて、北九州芸術劇場の館長を交えた座談会を実施した。

- 西村勇晴氏（北九州市立美術館 館長）
- 城水悦子氏（株式会社洋建築計画事務所 代表取締役）
- 築城則子氏（遊生染織工房 主宰）

ここでは、座談会における主要な意見を抽出し、上記のテーマを中心に北九州芸術劇場の事業・運営について、開館以来の成果と課題を検証し、今後の役割と長期的なビジョンを検討した。

(1) 地域における文化資源・人的資源の重要性

- 小倉織を復元した築城氏からは、ご本人の経験から、地域文化が途絶えてしまうことの損失を訴える意見が寄せられた。
- 北九州市立美術館の西村館長からは、かつて美術館の学芸員が入れ替わった事態があったことで、館長就任以来、それまで美術館が有していた人間関係の修復から始めているとの現況の説明があった。
- 地域の文化資源を継承するための伝統技術や、文化資源の保存や活用に関わる人的資源は、一度失われると、その復元や修復は容易ではない。文化資源や人的資源を維持し、日頃から資源を探し、磨き上げていくことの重要性について認識が共有された。
- その上で、北九州芸術劇場として、地域における文化資源の拠点的な機能を担うことに期待が寄せられている。

[座談会の主な意見から]

- 先人たちが確実に続けていてくれた小倉織が途絶えたのは、たった50年だが、大きな損失でもあった。抜け落ちていた50年のために、文化財としての評価が遅れた。
- 北九州市立美術館では、全員が新しい学芸員に入れ替わり、途切れてしまった様々な関係を修復しながらコレクションを調べており、立て直さなくてはならない。しばらくは学芸員の力をつけるために、地域ゆかりの芸術家の調査から始めて、将来的に、5年、10年を経て海外展でもここから発信できるということをやりたい。

(2) 地域外から人を呼ぶ信頼される質の高さ

- 北九州芸術劇場の事業の質の高さを評価する意見が相次いだ。特に演劇に関しては、以前は福岡、大阪、東京でなければ観ることが難しかったような公演が、北九州芸術劇場が開館してからは、北九州で観ることができるようになったとの意見が出された。演劇に関しては、福岡市よりも恵まれた環境にあるとの見方を示す声もあった。
- 北九州芸術劇場での公演の質の高さは、確実に地域外からの観客を誘引しているという座談会参加者の実感につながっている（観客アンケート調査結果の推移からも明らかである）。
- 公演事業のみならず、創造事業や学芸事業は、国が検討する「劇場・音楽堂の活性化に関する法律」で示される劇場の事業だが、それに早くから積極的に取り組んできたことが、高く評価されている。

- 引き続き、事業の質の高さを維持し、さらに高めていくように努めることが求められている。その一方で、公演事業では観客の居住地域の37.4%が地域外(北九州市や北九州周辺エリア以外)である結果を踏まえると、地域内外の集客バランスについても検討していくことが重要だと考えられる。

[座談会の主な意見から]

- 北九州芸術劇場には「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感がある。同じように、演劇が好きな人たちが他都市から北九州にやってくる。
- 5～6年前に北九州以外のところから来ている割合が20数%だったものが、平成22年度は37.4%で、確実に他の都市からの観客は増加している。
- 劇場・音楽堂の活性化に関する法律が論議されているが、北九州芸術劇場は、劇場法以前から法律が目指している活動をやっていて、実際に非常に驚いた。

(3) 劇場以外の場での活動の広がりに対する評価

- 学芸事業でのアウトリーチや市民センターでのワークショップ、北九州演劇フェスティバルで京町銀天街での展開など、劇場以外の場での活動の広がりを高く評価する意見が多く聞かれた。
- 特に、北九州演劇フェスティバルの京町銀天街での取り組みは、演劇愛好家に限らず、その新聞記事や実際の現場を目撃した市民の間で話題となり、幅広い市民の認知を広げていることがうかがえる。
- 門司港美術工芸研究所に携わっている城水氏から、門司エリアでも京町銀天街のような取り組みができれば、との期待が寄せられた。それとともに、劇場以外の場での活動に義務感を持って取り組むのではなく、常に連携を取りやすい関係を形成しておくことが望ましいとの意見が寄せられた。
- 北九州芸術劇場としては、今後も劇場の外に向けた開かれた活動に取り組んでいくためにも、そのために必要な場所や空間などの地域資源について情報を収集し、パートナーとなる団体や個人とのネットワークを構築することが肝要だと考えられる。

[座談会の主な意見から]

- 劇場の中に囲い込むよりも、外で活動されているのが非常に大事だと思う。京町銀天街でされていることを、全市に広げていただければ。
- 演劇が好きではない人たちも、例えば「京町小屋」のことを見聞きしていて、会話の中に出てくる頻度が高い。劇場が劇場としてあるだけなら、そうはならないと思う。劇場が劇場の外に飛び出している活動があるからこそ。
- 京町銀天街でされていることを、大変でしょうけれどもっと全市に広げていただければ。門司港の栄町でもできないかと思っている。
- ただ、「やらなくてはいけない」という義務感を背負うことはしたくない。常に自分の頭の中に「こういうことができるかもしれない」というイメージを持ちながら、何かの時には連携を取りやすい関係がいいのではないかな。

(4) 地域文化のシンボル、シビックプライドの形成

- 今回の座談会の参加者の共通認識となっていることは、北九州芸術劇場が地域文化のシンボルとなっており、市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることである。
- 劇場に足を運ぶことがなくとも、劇場を自慢や誇りに思っている市民がおり、それは北九州

芸術劇場が開館してからの長い時間の蓄積によるものだと考えられる。

- 05年度調査で実施した市民調査(2006年、市内の18～79歳の男女、有効回答数863件)では、「北九州芸術劇場についてあなたはどのように思われますか」との質問に対して「誇りに思う」との選択肢が15.9%だった(複数回答。最も多い選択肢は「これからの時代に必要な施設」(46.0%)、次いで「何をやっているのかわかりにくい」(44.3%))。その後の推移を検証することで、今回の座談会での評価を検証することが考えられる。

[座談会の主な意見から]

- 文化のシンボルとして周囲のプライドをくすぐるところがあって、演劇の公演を観に行くことがないにしても「北九州には芸術劇場があるんですよ」と自信をもって話ができる。これは本音で、改めて感心し、感謝している。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」のことを、いろんなところで聞く。参加した人たちが楽しかったことを次々に言っていくことによって、喜びを共有する市民が増えていく。
- このまちの中では、本当にシンボリックな存在。行っている人も行っていない人も、北九州芸術劇場の存在を「威張る」というと変だが、「芸術劇場ってすごいんだよ」と言う。

(5) 舞台芸術以外の分野との協働の可能性

- 座談会の参加者それぞれの専門の立場から、北九州芸術劇場との協働の可能性について、前向きな意見が多く聞かれた。
- 特に北九州市立美術館の西村館長からは、現代美術センター・CCA北九州と市立美術館と連携して実施した共同プログラム「演じられたポール・セザンヌ」について触れられ、今後も美術館と劇場との協働の可能性が示唆された。
- 考えられる美術館と劇場との協働のあり方としては、①教育普及活動の共同プログラム、②パフォーマンスの空間としての美術館の活用、③作品のクリエーションにおける美術館とのコラボレーションが考えられる。③については、舞台美術や舞台衣装といった美術と演劇の接点を挙げることができる。
- また、北九州の伝統工芸である小倉織の基底にある美的な要素を、演劇の舞台衣装や美術プランに取り入れることも考えられるなど、舞台芸術以外の分野との協働において、より広く地域の文化資源や人的資源を活用することが期待される。

[座談会の主な意見から]

- 2010年に初めて劇場とCCAと美術館が連携し、セザンヌの作品をテーマに劇を作っていた。こういうことは今後もあり得る。
- 美術作品を劇場に運び込むことはできないが、美術館でのパフォーマンスは可能だ。舞台美術や舞台衣装といった要素でも、美術館と劇場、あるいは美術と演劇は、いくらでも接点があるように思える。
- 同じ市の劇場と美術館が共同制作するケースというのは意外とないので、劇場と美術館がタッグを組んで協働し、そこに民間の方も加わっていく可能性もある。
- 小倉織を使った舞台衣装や美術のプランを築城さんに立ててもらうことも、将来的には考えられる。

(6) ジャンルや地区を越えた文化の結節点

- 北九州市には、多様で豊かな文化資源が存在しているが、かつて5市だった地区に情報が散在しており、ジャンルを越えて情報が共有される仕組みが希薄であるといった指摘が

多かった。

- 市内各地に文化施設が整備されて、それぞれの専門性や地域性が発揮されてきてはいるものの、築城氏が言う「一つのまちとしての誇り」を生むような「風通しのいい文化の結合」が求められているのではないかな。
- ジャンルや地区を越えた文化のハブ(結節点)として、北九州芸術劇場が果たすべき役割や機能について、今後の中長期の展望や戦略が求められているのではないだろうか。

[座談会の主な意見から]

- 北九州市は全く違う個性の都市が一緒になって大都市になった。個性はそのまま残っていていいと思うが、芯のようなものが生まれて、一つのまちとしての誇りがほしい。
- 私たちは提携して事業をすることを知らなすぎる。博物館、文学館、美術館が何を持っていて、どのようにそれを発信できるのかという財産のデータベースがない。
- 北九州は文化の蓄積が厚くなってきているが、バラバラになっている財産を、どうつないでいくか。ここが第一番のことではないかと、数年前からずっと思っている。

第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、03年度から10年度までの8ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。07年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、08年度に、(財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表6-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表6-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業
		A-2	創造系事業
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
		A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
		A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

- 10年度は、上記図表6-1の基本フレームに基づいて、03年度から10年度の8ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表6-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した(図表6-3も同様)。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。
- 10年度も、3つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業を展開し、「創る」「育つ」「観る」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 10年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。「創る」「育つ」「観る」の3つの方針をバランス良く実施しつつ、それぞれの質の高さを継続的に追求してきたことが、前年度までの高い評価の継続に繋がっている。その結果、舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率(※)は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の03年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27～28万人で推移しているが、10年度は31万1,000人で、04年度に続いて過去2番目の記録となった。また、この8年間で利用者数は延べ225万人を超えた。11年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約97万3,000人であり、すでに人口の2倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 「観る」

〔観る〕: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 10年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊のほか、ミュージカル・商業演劇など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 10年度の公演事業については、17事業で39回の公演が行われた。入場者数は24,229人、入場率は93%である。
- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、32事業、公演回数は102回。入場者数は35,579人、入場率は93%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催／提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館

年度(03年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。10年度も満足層の割合(※)は97%で、そのうち「たいへん満足」の割合が55%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は91%以上であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。
- 10年度の座談会では、北九州芸術劇場には「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。またその信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。
- また、同じく座談会で、京町銀天街でのフェスティバルなど、劇場以外の場での活動の広がりに対して高く評価する意見があった。また、そうした活動を全市に広げてほしいとの要望が寄せられた。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 09年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 「創る」

〔創る〕: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 10年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- プロデュース作品「BEN」は、東京で計3回の公演を行い、625人が来場した。
- リーディングセッションvol.16「かんしゃく玉」「『かんしゃく棒』改め『オーバーペイ症候群について』」では入場率が100%を超えており、入場率90%以上の創造事業が4事業と、市民への定着度と支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。

②年間延べ観客数

- 10年度、「創る」では、5事業で21回の公演が行われ、入場者は3,124人、入場率は平均で91%と高い入場率となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 10年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せ

られた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。

- 09年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

〔育つ〕:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、劇場に学芸係を設置し、普及系事業を継続的に実施している。10年度は、
 - ワークショップや講座等の事業として、「バックステージツアー」、「チャレンジ！えんげき」、「月1ダンス部」、「劇場塾」、「高校生のための演劇塾」
 - 創造参加として、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 10年度に主に劇場内で実施した事業は11事業、131回のアクティビティが実施された。参加延人数・入場者数の合計は3,455人、受講(入場)者数でカウントすると996人である。09年度の8事業、127回、3,745人とはほぼ同程度のアクティビティの回数、参加者数である。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 北九州芸術劇場では、開館以前から「シアタープロジェクト」として小学校を中心としたアウトリーチに取り組み、継続的な活動を実施している。
- 09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。10年度は3ヶ年計画の2年目で、22回のワークショップで参加延人数が498人となっている。
- また、CCA北九州、北九州市立美術館との共同プログラム「演じられたポール・セザンヌ」を実施するなど、劇場以外の場所で行うアウトリーチ型の事業が増えており、地域や他分野との連携を進めようという方針がより明確になっている。

②学校等と連携したプログラム数と参加者数

- 10年度に、学芸事業の中で実施したアウトリーチプログラムは、「学校出前演劇ワークショップ」、「ドラマ・ワークショップ」の2事業、計29回のアクティビティを実施し、参加延人数の合計は1,384人となっている。また「わたしの青い鳥」のアウトリーチも小学校で行った。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

①ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、10年度は、「シアターコラボ」、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」、「内藤裕敬(南河内万歳一座)市職員向け

WS」などの5事業で43回のワークショップとアウトリーチが実施された。

- 参加延人数・入場者数の合計は2,016人。「シアターコロボ」と「わたしの青い鳥」の公演は90%以上の極めて高い入場率となっている。
- 「シアターコロボ」(前年度までは「シアターラボ」)、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」(08年度以前は「北九州パントマイムフェスティバル」)は開館の03年度あるいは04年度から継続実施されている事業である。入場率も高く、市民に定着していることがうかがえる。
- 10年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

②貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術スタッフの対応はよかった(技術的な助言や援助は適切だった)」は98%と、満足層の割合は大変高い。関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備機器は充実している」、「舞台裏の施設等が使いやすい」をみても、満足層の割合は90%以上となっている。これら項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、09年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)

A-6 地域への貢献①(地域経済などへの波及効果)

①地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市を初めとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増えており(06年度:21%、07年度:31%、08年度:31%、09年度:33%、10年度:37%)、北九州市域以外でも、北九州芸術劇場の舞台芸術の鑑賞拠点としての認知度と評価が定着してきていることがうかがえる。

②公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、10年度の飲食またはショッピングをした人の割合は58%で、毎年ほぼ60%で推移している。
- 飲食をしている割合は48%で平均金額は約1,600円、ショッピングをしている割合は28%で平均金額は約4,600円となっている。

③経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた10年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約6.7億円、主催事業が約2.2億円、主催事業の観客の消費支出が約2.2億円となっている。
- それらの経済波及効果は、約16.4億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約5.9～6.6億円、経済波及効果が約8.2～9.2億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業(観客消費支出含む)で1.48、貸館を含めると1.45となっている。試算を始めた04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.47となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで168～176人、雇用者ベースで146～154人という結

果となっている。

A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップ)

①シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。

②パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する10年度の記事掲載件数は187件である。開館からの8年間のうち10年度は、開館年で話題性の高かった03年度(180件)を超えて最も多い掲載件数となった。
- 新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、10年度は約1億3千500万円となる。
- これは、市の事業に対する補助金約3,800万円の約3.5倍の数字となっており、劇場の事業や運営は高いパブリシティ効果を生み出している。

A-8 広域施設としての役割発揮

①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「シアターコロボ」、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。

②当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。
- 今後の北九州芸術劇場あるいは(財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 10年度の貸館の公演・講演事業数は247事業。計348回の公演・講演が実施され、入場者数は182,867人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度は99%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向も98%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度(※)は、「現在の開館時間が適当である」を除いて約97%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
※「はい」+「どちらかと言えば『はい』」の割合。無回答は除く。
- 05年度(利用者調査開始年度)以降、情報入手や利用問い合わせ、スタッフの対応など多くの項目で満足度は向上しており、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。ただし、「施設利用や予約情報が入手しやすい」での「はい」の割合が、10年度では09年度に比べて10ポイント減少(09年度:87.9%、10年度:77.2%)している。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(03年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、10年度は85%(06年度:79%、07年度:81%、08年度:86%、09年度:87%)となっている。開館から8年が経過し、観客が劇場に慣れてきたこともあろうが、劇場側の情報発信への工夫や努力も大きいと思われる。

②ホスピタリティに関する満足度

- 03年度に満足度が69%であった「劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、10年度は89%(06年度:79%、07年度:82%、08年度:87%、09年度:88%)とさらに上昇している。
- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から8年が経過し、観客が劇場に慣れてきたこともあろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇場側の工夫によるところも大きいといえる。
- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、10年度は96%となっている。

③スタッフの応対や電話応対等に関する満足度

- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の応対」は、継続して高い満足度を保っており、10年度も98%と、満足層の割合はほぼ100%近い。また、「電話予約やチケットカウンターでの応対」についても満足度は96%で、劇場の顧客応対は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、03年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、04年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、10年度は84%となっている。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、10年度は86%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「ホワイエや客席などの雰囲気がいよい」、「舞台設備・機器は充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」については、「はい」への回答がほぼ90%以上と大変高い評価となっている。また、05年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが82%、中劇場が74%、小劇場が79%である。
- 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2010年度の(財)地域創造の悉皆調査結果(2010年10月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72%)と比較しても高い水準にある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の10年度の事業費は約2億2,000万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の68%、市の補助金が17%、文化庁と(財)地域創造、協賛金による外部資金が15%となっている。
- チケット収入の割合は、2007年の(財)地域創造の悉皆調査結果による全国平均の試算値(事業収入:37%)を大幅に上回っている。外部資金の割合についても、北九州芸術劇場の実績は全国平均(11%)を上回っている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。
- 10年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差は、予算額を約3,900万円上回る事業収入があり、補助金収入は予算額から約7,100万円削減されるなど、運営や事業の実施にあたっての経費削減、営業努力がうかがえる。

3. 事業評価の結果から－今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、03年度の開館年度から図表6-2のと通りの調査を行ってきた。

図表6-2 北九州芸術劇場における実施調査

調査内容	03 年 度	04 年 度	05 年 度	06 年 度	07 年 度	08 年 度	09 年 度	10 年 度
【継続調査】								
劇場運営基礎データの収集・分析								→
観客調査(アンケート)								→
貸館利用者を対象としたアンケート調査 (実施:05年度～、整理・分析:07年度)								→
経済波及効果の算出								→
パブリシティ効果の把握								→
【テーマ調査】								
専門家による座談会(開場から1年間の 劇場運営の成果について)		○						
市民意識調査(アンケート)			○					
ワークショップ参加者を対象とした学芸調 査(アンケート/グループインタビュー)		○						
学校を対象とした学芸調査(アンケート)					○			
(舞台芸術の公演による)劇場使用者へ のグループインタビュー				○				
劇場スタッフへのグループインタビュー						○		
北九州芸術劇場の広域的役割と長期的 ビジョンに関するグループインタビュー							○	
舞台芸術以外の分野から見た北九州芸 術劇場の役割(座談会)								○

今後事業評価を進めていくにあたっては、次の6つの点を検討・実施していくことが必要だと考えられる。

1つ目は、継続調査の実施である。経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望ま

れる。

2つ目は、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するための、テーマ調査における定性調査の実施である。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客（あるいはチケットクラブ会員）、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域（市民センターなど）でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要であると考えられる。また、05年度の市民意識調査の実施から6年が経過していることから、今後も、同様の市民調査の実施を検討する必要があるだろう。

3つ目は、劇場内部での事業評価結果の活用である。一昨年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①本事業調査結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的であるPDCAサイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフの関わりを促していくことが必要であると考えられる。

4つ目はさらなる評価結果の発信である。北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目の時期が近づく中で、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い資産だと言えよう。

5つ目は、これまでの事業評価の結果を踏まえた次の北九州芸術劇場の戦略構築である。前年度のグループインタビュー調査、本年度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけではなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館から8年半が経過し、開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業や運営方針の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

そして6つ目が、前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築である。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も設定し直す必要がある。この数年間は、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっていることも考えられる。また、観客や利用者以外にも、舞台芸術以外の分野や劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)を広げていくことが本年度の座談会でも期待されている。そのためにも、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進めることが望まれる。

図表6-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～10年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0	「創る」 「育つ」 「観る」	① 劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	- 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。	3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 - 一方で、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくべきとの意見も。	- 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 - 観客調査の継続。 - 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		② 劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	- 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館年(03年)度から90%以上。 ○10年度 創る:95%、育つ:94%、観る:99% [観客調査/10年度] - 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/05年度] ※ 支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。		
		③ 事業や運営に対する自己評価や振返り、運営データの蓄積	業務の振返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。 [劇場スタッフへのグルイン/08年度]	事業評価データ等を活用し、係を超えた振返りの機会づくりが必要。	
		④ 市民の劇場の認知度や劇場への意見	- 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。 [市民調査/05年度] - 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。 [劇場スタッフへのグルイン/08年度]	運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。	
		⑤ 劇場の来場者(利用者)数	年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27～28万人で推移。10年度は1年間で31万1,000人、開館からの8年間で延べ225万人が来場。	北九州市の人口(11年4月1日現在)は約97万3,000人であり、すでに人口の2倍以上の利用者が来場。	
A-1	「鑑賞系事業」 「観る」 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	① ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	- 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊、ミュージカル・商業演劇など幅広いラインナップの公演事業を実施。 09年度から北九州芸術劇場が注目する演劇人たちをバックアップする「ツドエmeets北九州」を立ち上げた。 - 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳未満:24%、30歳代:27%、40歳代:21%、50歳代:15%、60歳以上:12% 平均年齢:40歳。 ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:29%、1～2回:14%、3～5回:21%、6回以上:29% - 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客が06年度以降は増加を続けている。 06年度:21% ⇒07:31% ⇒08:31% ⇒09:33% ⇒10:37% [観客調査/10年度]	- 小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。 - 公演事業全体で極めて高い入場率。 - 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。	- 観客調査の継続。 - 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 - 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		② 年間延べ観客数	10年度は、公演事業については、17事業、公演回数は39回、入場者数は24,229人である。入場率は93%。 - 創造事業、共催・提携事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、32事業、公演回数は102回、入場者数は35,579人である。入場率は93%。		
		③ 公演に対する観客の満足度	- 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は97%、「たいへん満足」の割合も55%と半数以上を占める。 「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 - 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 03年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97% ○公演のチケット料金 03年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒ 07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91% [観客調査/10年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度]	「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。	
		④ 鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	- 公演事業での劇場利用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、魅力的なものを呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。	- 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。 - 中長期的な市域内と市域外との集客バランスの検討。	

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	【創造系事業】 「創る」 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます	① ミッションに基づいた創造系事業の実施	・全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 ・開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 ・プロデュース作品「BEN」は、東京で公演を実施(計3回の公演を行い、625人が来場)。	・高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 ・「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ・九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 ・今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 ・美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。	・観客調査の継続。 ・創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ・有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		② 年間延べ観客数	・10年度は、5事業で21回の公演が行われ、入場者は3,124人。入場率は平均で91%。 ・「リーディングセッションvol.16「かんしゃく玉」「かんしゃく棒」改め『オーバーペイ症候群』について」の入場率は100%以上。90%以上の事業が4事業。		
		③ 創造系事業の公演に対する観客の満足度	・鑑賞系事業③を参照		
		④ 創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果	・北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] ・[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 ・[専門家との座談会/10年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 ・[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。		
A-3	「育つ」 アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します	① ミッションに基づいた普及系事業の実施	・劇場内に学芸係を設置し、普及系事業を継続的に実施。10年度も、 ○ワークショップや講座事業型の事業として、「バックステージツアー」、「チャレンジ！えんげき」、「月1ダンス部」、「劇場塾」、「高校生のための演劇塾」など ○創造参加として、「シアターコラボ」、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」などの多様なプログラムを実施。	・「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ・ワークショップや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生まれている。 ・学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ・地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。	・事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ・有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 ・長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。
		② 年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数	・10年度は、11事業、131回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数の合計は3,455人。 ※受講(入場)者数でカウントすると996人 ・09年度とほぼ同程度のアクティビティの回数、参加者数である。		
		③ 講座・ワークショップ参加者の満足度	・講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/04年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:98%、うち「たいへん満足」:56% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 講座・ワークショップの内容(63%)、講師(72%)、劇場係員の応対(63%)		
		④ 参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ	・講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/04年度] 「人間関係に広がり生まれた」(67%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(65%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(57%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(50%)、「仕事や活動の幅、可能性が広がった」(43%)など。 ・グループインタビューでも、鑑賞事業だけでは得られない深い効果を指摘する声が多い。[学芸調査・グルイン/04年度]		
A-4	【普及系事業②】 アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)	① 他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容	・09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。10年度は3ヶ年計画の2年目で、22回のワークショップで参加延人数が498人となっている。 ・また、CCA北九州、北九州市立美術館との共同プログラム「演じられたボール・セザンヌ」を実施するなど、劇場以外の場所で行うアウトリーチ型の事業が増えており、地域や他分野との連携を進めようという方針がより明確になっている。		
		② 学校等と連携したプログラム数と参加者数	・学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/07年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、 ・自分の考えや気持ちを表現する力:80% ・豊かな感受性や想像力:61% ・人とコミュニケーションする力:52% については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 ・10年度に実施したアウトリーチプログラムは、「学校出前演劇ワークショップ」、「ドラマ・ワークショップ」の2事業、計29回のアクティビティを実施し、参加延人数の合計は1,384人となっている。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-5	【市民文化活動支援】 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など	① ミッションに基づいた市民活動支援の実施	- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 10年度は、創造参加として、「シアターコラボ」、合唱物語「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」、「内藤裕敬(南河内万歳一座)市職員向けWS」などの5事業で43回のワークショップとアウトリーチが実施された。参加延人数・入場者数の合計は2,016人。 「シアターコラボ(前年度までは「シアターラボ）」、「わたしの青い鳥」、「北九州パントマイム教室」の3事業は、03年度、04年度からの継続事業。 【専門家との座談会/10年度】では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。	- 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 - 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。	- 貸館調査の継続。 - 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 - 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)	- 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「技術スタッフの応対がよかった」は98%の大変高い満足度。 - 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」、「舞台設備機器が充実している」、「舞台裏の施設・設備が使いやすい」も、それぞれ90%以上の高い満足度。[貸館調査/10年度]		
A-6	【地域への貢献①】 地域経済などへの波及効果	① 地域外からの来場者割合	07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市を初めとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加。 ○地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%[観客調査/10年度] - 地域外からの来場者は、小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊、古典芸能で割合が多い。	- 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 - 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 - 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。	- 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 - 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 - 所得増、雇用増、税収増の試算。 - 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 - 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
		② 公演鑑賞に伴う消費行動	- 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、09年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は58%。毎年ほぼ60%で推移。 - 飲食をしている場合の平均金額は約1,600円、ショッピングの場合は約4,600円。[観客調査/10年度]		
		③ 経済波及効果	10年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の運営管理:約6.7億円、主催事業:約2.2億円、主催事業の観客の消費支出:約2.2億円(参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約5.9～6.6億円 ※試算 ○経済波及効果 約16.4億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約8.2～9.2億円 ※試算 - 経済波及効果の誘発係数は、 ○運営管理・主催事業・主催事業観客消費支出:1.48 ○貸館を含めた消費支出:1.45 04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45～1.48で推移。 - 雇用効果は、就業者ベースで168～176人、雇用者ベースで146～154人。		

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-7	【地域への貢献②】 地域アピール、ブランド力のアップ	① シビックプライドの醸成	・北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。 ・その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度]	・毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がり进行评估。 ・新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約3,800万円)を大きく上回っており、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。 ・北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 ・北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。	・より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 ・長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 ・市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。
		② パブリシティ効果	・北九州芸術劇場や劇場事業に関する10年度の記事掲載件数は187件。8年間のうち10年度は、開館年で話題性の高かった03年度(180件)を超えて最も多い掲載件数となった。 ・187件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、10年度は約1億3,500万円(09年度:約1億1,800万円)。 ・「相対性浮世絵」、「南河内万歳一座」といった公演事業の紹介記事のほか、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」に関する記事がコンスタントに掲載されていることが特徴となっている。学芸事業は過去最多の掲載件数となっている。 ・10年度換算金額は03～06年度と比べて減少しているものの、自主事業を中心に毎月コンスタントに記事が掲載され、件数を維持している。		
		③ 劇場・ホール の存在を肯定的に考えている市民の割合	・市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 ・劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 ・一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/05年度] ・劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのが、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度]		
A-8	【広域施設の役割発揮】 圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします *「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定	① 圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携	・舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ・「シアターコラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]	・今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ・「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ・国や他の地方自治体(とくに九州圏域の県や市)との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。	・広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
		② 当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興	・北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度] ・国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ヴィジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]		

B: 管理運営

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1	[場の提供・支援 (貸館事業)]	① ミッションに基づいた貸館事業の実施	・ 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。	・ 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100％近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 ・ 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	・ 貸館調査の継続。 ・ 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		① 貸館における入場者数	・ 10年度の貸館公演・講演は247事業。計348回の公演・講演が行われ、入場者数は182,867人。		
		② 利用者の満足度	・ 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も98%と満足度はたいへん高い。 ・ ソフトに関する9項目のうち、「開館時間が適当である」以外は、満足層の割合が95%以上。貸館事業におけるスタッフの対応への評価は高い。 [貸館調査/10年度] ・ 「施設利用や予約情報が入手しやすい」での「はい」の割合が、10年度では09年度に比べて10ポイント減少(09年度:87.9%⇒10年度:77.2%)している。		
B-2	[施設のホスピタリティ・サービス]	① 公演や催し物情報に関する満足度	・ 開館年度(03年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、10年度には80%以上の満足度となっている。 ○ 公演情報の入手のしやすさ 03年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85% [観客調査/10年度]	・ 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から7年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 ・ 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。	・ 観客調査の継続。 ・ 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
		② ホスピタリティに関する満足度	・ 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のみやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、10年度は89%に上昇。 ・ 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、10年度は96%。 ○ 案内表示 03年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89% ○ デザイン・雰囲気 03年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96% [観客調査/10年度]		
		③ スタッフの対応や電話応対等に関する満足度	・ 「劇場係員の対応」、「電話予約やチケットカウンターの対応」への満足度は大変高い。特に、「劇場係員の対応」については、開館年度から90%以上の満足度を維持している。 ・ 開館年度(03年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、09年度には80%以上の満足度となっている。 ○ 劇場係員の対応 03年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98% ○ 電話・チケットカウンター 03年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96% ○ チケットの予約購入 03年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84% [観客調査/10年度]		
		④ 飲食に関する満足度	・ 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、10年度は86%となっている。 ○ 飲食サービス 03年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86% [観客調査/10年度]		
B-3	[施設の維持管理]	① 施設の維持管理	・ 貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に較べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。 ○ 館内は清潔に保たれていた:100% ○ ホワイエや客席などの雰囲気がよい:100% ○ 舞台設備・機器は充実していた:100% ○ 設備・機器などを安全に使用できた:100% ○ 楽屋など舞台裏の施設が使いやすかった:99% ○ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:95% ○ 搬入・搬出がやりやすかった:92% [貸館調査/10年度]	・ 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 ・ スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。	・ 貸館調査の継続。 ・ 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 ・ 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。
		② 稼働率	・ 施設稼働率は、大ホールが82%、中劇場が74%、小劇場が79%である。 ・ 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は72%)と比較しても高い水準。		

C: 経営

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	【経営努力】	① 外部資金、チケット収入の割合	・ 10年度事業費は約2億2,000万円。財源内訳は、チケット収入:約1億4,900万円(68%)、外部資金:約3,200万円(15%)、市の補助金:約3,800万円(17%)。 ・ チケット収入と外部資金の03年度からの比率をみると次のとおり。 ○チケット収入 03年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68% ○外部資金 03年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15% 全国平均の試算値と比較すると、チケット収入割合(全国平均:37%)が平均を大幅に上回る。外部資金の割合についても、北九州芸術劇場の実績が全国平均(11%)を上回っている。	・ チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。	・ 継続したデータ収集・分析の実施。 ・ 詳細調査の必要性の検討、実施。
		② 事業収支からみた経営努力	・ 10年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差は、予算額を約3,900万円上回る事業収入があり、補助金収入は予算額から約7,100万円削減されるなど、経費削減、営業努力がうかがえる。		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場
事業評価調査
[資料編]



觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象: 2010年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演 30公演
- 配布・回収方法: 各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2010年4月2日～2011年3月20日
- 有効回答数: 2,379件、回収率: 17.5%(配布数: 13,581件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公 演 名	会 場	公演ジャンル	配布 日	配布 数	回収 数	回収率 (%)
春風亭小朝独演会 2010	中劇場	古典芸能	4/2	597	105	17.6
相対的浮世絵	中劇場	小劇場・現代演劇	4/10	617	110	17.8
イッセー尾形のこれからの生活 2010in 小倉	中劇場	小劇場・現代演劇	5/22	434	81	18.7
Doris&Orega Collection Vol.5 「ナンシー」	中劇場	小劇場・現代演劇	6/5	636	112	17.6
イカれた主婦 - ANGRY HOUSEWIVES -	大ホール	ミュージカル・商業演劇	6/14	949	132	13.9
0,1,2 才のための人形劇場てるてるゾウくんとあそぼう!	小劇場	小劇場・現代演劇	6/15	90	19	21.1
合唱物語「わたしの青い鳥 2010」	中劇場	音楽劇	7/11	533	86	16.1
ナイン 100°C 35th SESSION 「2 番目、或いは 3 番目」	中劇場	小劇場・現代演劇	7/31	559	95	17.0
月猫えほん音楽会 2010	中劇場	小劇場・現代演劇	8/5	570	22	3.9
ピーターパン	大ホール	ミュージカル・商業演劇	8/19	1,193	76	6.4
子供のためのシェイクスピア「お気に召すまま」	中劇場	小劇場・現代演劇	9/5	431	118	27.4
リーディングセッション vol.16 「かんしゃく玉」「『かんしゃく棒』改め『オーバーペイ症候群について』	小劇場	小劇場・現代演劇	9/18	138	31	22.5
ツエ meets 北九州 vol.4 表現・さわやか「アソビトロン」	小劇場	小劇場・現代演劇	9/25	148	59	39.9
小松政夫とイッセー尾形のびーめん生活 2010in 小倉	中劇場	小劇場・現代演劇	10/2	518	94	18.1
小林賢太郎演劇作品「ロールシャッハ」	中劇場	小劇場・現代演劇	10/22	589	187	31.7
じゃじゃ馬馴らし	大ホール	小劇場・現代演劇	11/5	1,201	238	19.8
飛ぶ劇場 vol.31 「蛙先生」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/12	75	24	32.0
キャラメルボックス「サンタクロースが歌ってくれた」	大ホール	小劇場・現代演劇	11/13	1,107	283	25.6
MONO 第 38 回公演「トカイを数えたら眠れない」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/20	113	24	21.2
リーディングセッション vol.17 合唱交響曲「わが星」	小劇場	音楽劇	11/27	141	24	17.0
カンパニーデラシネラ「点と線」	中劇場	小劇場・現代演劇	12/12	341	52	15.2
ソドエ meets 北九州 vol.5 劇団 PA!ZOO!!「酒と笑いとシャルロットとうどん」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/18	116	37	31.9
ラッパ屋第 36 回公演「YMO～やっときたヤジ～」	小劇場	小劇場・現代演劇	1/8	123	21	17.1
山海塾「二つの流れ - から・み」	中劇場	ダンス・現代舞踊	1/22	374	41	11.0
南河内万歳一座「ラブレター」	小劇場	小劇場・現代演劇	1/22	122	20	16.4
窓の彼方へ	中劇場	音楽劇	2/11	390	63	16.2
時計じかけのオレンジ	大ホール	ミュージカル・商業演劇	2/18	1,201	177	14.7
BEN	小劇場	小劇場・現代演劇	2/21	115	23	20.0
北九州演劇フェスティバル 2011 「三人姉妹」	小劇場	小劇場・現代演劇	3/12	111	22	19.8
北九州演劇フェスティバル 2011 「演結び」トークイベント	小劇場	小劇場・現代演劇	3/20	49	3	6.1
計	—	—	—	13,581	2,379	17.5

(注) 配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 北九州芸術劇場での鑑賞活動(鑑賞した公演、公演に来た理由、情報入手経路)
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 日頃の芸術鑑賞活動(鑑賞ジャンル、鑑賞頻度、北九州芸術劇場での鑑賞経験)
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア、チケットクラブへの入会)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

①来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ミュージカル・商業演劇」、「古典芸能(歌舞伎・能等)」、「ダンス・現代舞踊」の5つのジャンルに分類した(例年では「パフォーマンス」を加えた6つのジャンルで集計しているが、2010年度は当該分野の事業が行われなかった)。
- 調査対象30公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおり、
 - 小劇場・現代演劇: 22公演 ※下記他ジャンルの8公演以外
 - 音楽劇: 3公演
「合唱物語『わたしの青い鳥2010』」
「リーディングセッション vol.17 合唱交響曲『わが星』」、「窓の彼方へ」
 - ミュージカル・商業演劇: 3公演
「イカれた主婦-ANGRY HOUSEWIVES-」、「ピーターパン」
「時計じかけのオレンジ」
 - 古典芸能(歌舞伎・能等): 1公演 「春風亭小朝独演会2010」
 - ダンス・現代舞踊: 1公演 「山海塾『二つの流れーから・み』」

となっている。

※10年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が多いことを考えると、10年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「チケットクラブへの入会」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の5つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I -2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		2,379	—
来場公演の ジャンル n=2,379	小劇場・現代演劇	1,678	70.5%
	音楽劇	172	7.2%
	ミュージカル・商業演劇	384	16.1%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	105	4.4%
	ダンス・現代舞踊	40	1.7%
	パフォーマンス	0	0.0%
性別 n=2,232	男性	411	18.4%
	女性	1,821	81.6%
年齢層 n=2,162	18歳未満	110	5.1%
	18～29歳	412	19.1%
	30歳代	591	27.3%
	40歳代	461	21.3%
	50歳代	331	15.3%
	60歳以上	257	11.9%
チケットクラブへの 入会 n=2,190	加入	452	20.6%
	未加入	1,738	79.4%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=2,213	今日が初めて	692	31.3%
	1～2回	321	14.5%
	3～5回	500	22.6%
	6～10回	306	13.8%
	11回以上	394	17.8%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

(注2) 無回答の件数は、性別:147件、年齢層:217件、チケットクラブへの入会の有無:189件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:166件である。「来場公演のジャンル」は、調査票にあらかじめ記載された公演名から分類するため、無回答はゼロである。

1 属性

回答者の性別は、「男性」が18.4%、「女性」が81.6%と、「女性」の割合が高い。

[来場公演のジャンル別]

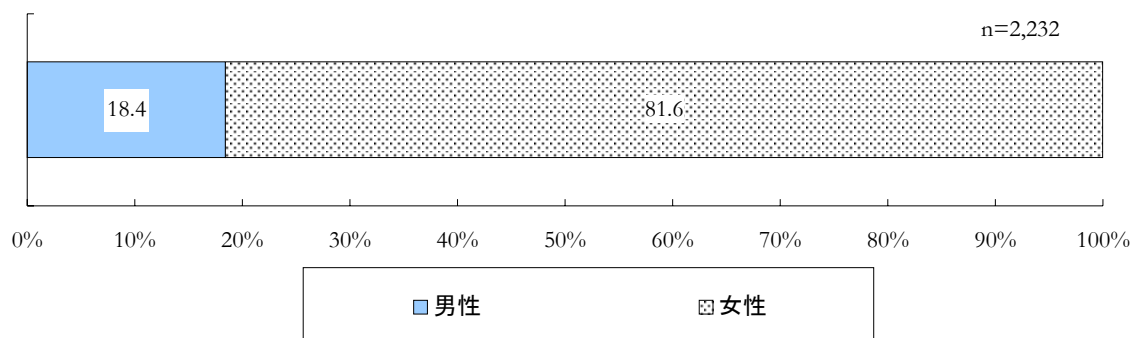
・いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。
・「男性」の割合が全体と比べて高いのは(18%以上)、音楽劇(34.2%)、古典芸能(22.2%)、ダンス・現代舞踊(21.6%)、小劇場・現代演劇(19.0%)である。一方、「女性」の割合が全体と比べて高いのは(82%以上)、ミュージカル・商業演劇(92.2%)である。

[年齢別]

・いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。特に30歳代で「女性」の割合が高い(85.2%)。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高いが、今日が初めてと1～2回で「男性」の割合の中で、若干高い傾向がある。



(単位: %)

（単位：％）

		調査数 (n)	Q12性別	
			男性	女性
全体		2232	18.4	81.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	1587	19.0	81.0
	音楽劇	149	34.2	65.8
	ミュージカル・商業演劇	360	7.8	92.2
	古典芸能(歌舞伎・能)	99	22.2	77.8
	ダンス・現代舞踊	37	21.6	78.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0
性別	男性	411	100.0	0.0
	女性	1821	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	106	32.1	67.9
	18～29歳	411	20.4	79.6
	30歳代	574	14.8	85.2
	40歳代	457	16.2	83.8
	50歳代	331	19.6	80.4
	60歳以上	254	24.4	75.6
チケットクラブ	加入	449	15.1	84.9
	未加入	1731	19.2	80.8
鑑賞経験	今日が初めて	691	21.3	78.7
	1～2回	320	21.3	78.8
	3～5回	495	17.2	82.8
	6～10回	305	14.4	85.6
	11回以上	390	15.6	84.4

※n=2,232は、無回答(147件)を除く。

参考	09年度調査結果	1607	16.6	83.4
	08年度調査結果	1653	19.0	81.0
	07年度調査結果	2901	17.9	82.1
	06年度調査結果	2394	20.6	79.4
	05年度調査結果	2510	18.1	81.9
	04年度調査結果	4089	14.6	85.4
	03年度調査結果	3595	15.9	84.1

* 表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

回答者の平均年齢は40.2歳。「30歳代」が27.3%と最も割合が高いが、「40歳代」が21.3%、「18～29歳」が19.1%、「50歳代」が15.3%、「60歳以上」が11.9%と、18歳未満を除くと年齢層で大きな偏りはなく、幅広い年齢層の観客が来場している。

〔来場公演のジャンル別〕

・平均年齢が最も高いのは古典芸能の58.0歳で、「60歳以上」が58.2%と半数以上を占める。その他のジャンルの平均年齢はおおよそ38～42歳と、大きな差はない。

〔性別〕

・平均年齢は、男性が40.4歳、女性が40.2歳と、大きな偏りはない。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

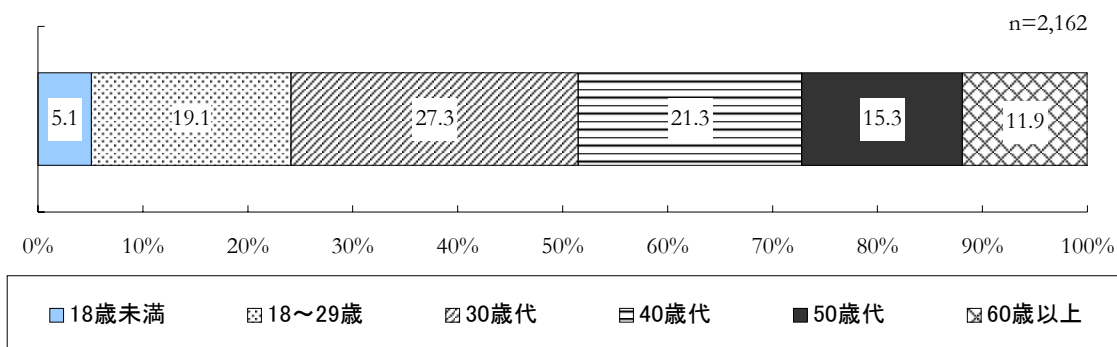
・加入の場合の平均年齢は43.1歳、未加入の場合は39.4歳と、大きな差はない。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど平均年齢は高く、今日が初めてでは「18～29歳」、1回から10回までは「30歳代」の割合が最も高く、11回以上では「40歳代」の割合が最も高い。

〔過去調査と比較して〕

・過去調査でも来場者の平均年齢は40歳台前半となっている。年齢層も大きな偏りがなく、幅広い年齢層の観客が来場しているのは、例年どおりの傾向である。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q13年齢層						平均年齢 (歳)
			18歳未満	18～29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
全体		2162	5.1	19.1	27.3	21.3	15.3	11.9	40.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1545	4.9	21.8	30.0	21.2	13.5	8.5	38.6
	音楽劇	140	7.9	18.6	16.4	16.4	20.7	20.0	42.6
	ミュージカル・商業演劇	345	5.5	11.9	25.8	26.1	19.4	11.3	41.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	98	2.0	2.0	8.2	8.2	21.4	58.2	58.0
	ダンス・現代舞踊	34	5.9	17.6	20.6	35.3	14.7	5.9	39.3
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
性別	男性	406	8.4	20.7	21.4	18.2	16.0	15.3	40.4
	女性	1752	4.2	18.7	28.7	22.0	15.2	11.1	40.2
年齢層	18歳未満	110	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	18～29歳	412	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.3
	30歳代	591	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	34.7
	40歳代	461	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	43.9
	50歳代	331	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	53.8
	60歳以上	257	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	66.2
チケット クラブ	加入	429	3.3	8.9	30.1	25.4	22.4	10.0	43.1
	未加入	1687	5.3	21.9	27.0	20.5	13.3	12.0	39.4
鑑賞 経験	今日が初めて	679	5.6	31.1	27.2	16.8	10.9	8.4	36.2
	1～2回	309	5.5	23.3	31.7	16.2	14.9	8.4	37.9
	3～5回	487	4.9	17.2	27.7	23.4	13.8	12.9	40.7
	6～10回	293	5.5	7.5	27.3	25.3	18.1	16.4	44.0
	11回以上	366	3.0	5.5	24.0	27.9	23.5	16.1	46.0

※n=2,162は、無回答(217件)を除く。

参考	09年度調査結果	1546	3.5	15.1	28.7	22.1	17.5	13.1	42.0
	08年度調査結果	1586	3.9	16.2	23.3	20.9	19.7	15.9	42.9
	07年度調査結果	2818	4.7	18.0	23.0	19.3	16.4	18.5	42.7
	06年度調査結果	2302	5.8	15.6	22.3	19.3	18.0	19.1	43.4
	05年度調査結果	2363	2.8	19.6	22.7	17.6	18.0	18.6	43.4
	04年度調査結果	3867	4.9	17.1	23.4	20.4	17.5	16.7	42.3
	03年度調査結果	3470	3.1	15.1	21.4	16.9	19.9	23.6	45.5

・回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が56.4%（「北九州市」：45.4%、北九州周辺：11.1%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は37.4%と3人に1人の割合を超えた。過去調査と比較すると、北九州市及び周辺以外からの来場者の割合は増加傾向にある。

・福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（83件）、熊本県（46件）、佐賀県（33件）等の記載がある。

〔来場公演のジャンル別〕

・ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、特に、ミュージカル・商業演劇や音楽劇では「北九州市」の割合が高い。

・小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊では、「福岡市+周辺」からの割合が高い（小劇場・現代演劇：16.2%、ダンス・現代舞踊：15.0%）。

・古典芸能では、「山口県」が占める割合が高い（24.8%）。また、ダンス・現代舞踊、小劇場・現代演劇では、北九州・福岡周辺以外の九州各県からの来場が多い。

〔性別〕

・性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高く、性別で顕著な差はない。

〔年齢別〕

・「北九州市」の割合は、18歳未満と50歳代以上で高く、特に18歳未満では63.0となっている。

・一方、18～29歳、30歳代では、「北九州市・福岡周辺以外の九州」からの来場者割合が高い。18～29歳では、「福岡市+周辺」と「北九州市・福岡周辺以外の九州」がそれぞれ約2割（20.7%）の来場者である。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

・加入、未加入ともに「北九州市」の割合が最も高いが、加入の場合は「北九州市」の割合が60.0%と、未加入（44.8%）に比べて高い。

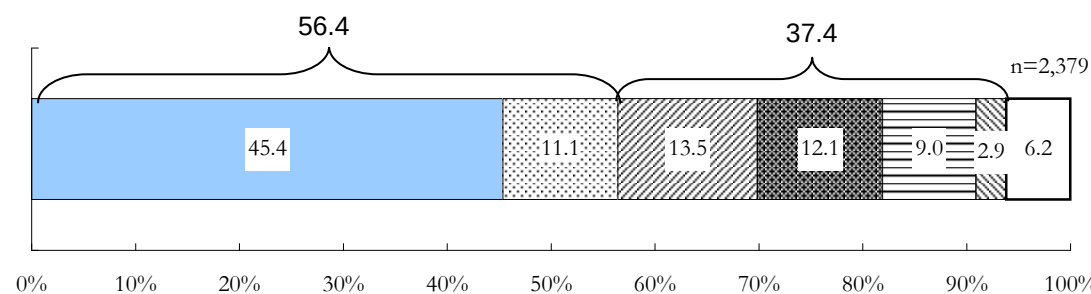
〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

・初めてのグループでは、「北九州市・福岡周辺以外の九州」をはじめとする九州各地からの来場者の割合が高い。

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が6回以上のグループで、「北九州市」からの来場割合が高く、市内に居住していること（＝劇場に来やすいこと）が鑑賞経験にも影響しているものと考えられる。

〔過去調査と比較して〕

・07年度以降は「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が高くなっている。



■ 北九州市 ■ 北九州市周辺 ■ 福岡市+周辺 ■ 左記以外の九州 ■ 山口県 ■ その他 □ 無回答

(単位: %)

		調査数 (n)	Q11居住エリア						
			北九州市	北九州市 周辺	福岡市+ 周辺	北九州・ 福岡周辺 以外の九 州	山口県	その他	無回答
全体		2379	45.4	11.1	13.5	12.1	9.0	2.9	6.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	40.1	11.0	16.2	14.6	9.4	3.6	5.1
	音楽劇	172	59.3	8.1	7.0	4.7	4.7	1.2	15.1
	ミュージカル・商業演劇	384	60.7	12.0	7.6	6.5	5.2	1.0	7.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	53.3	11.4	1.0	2.9	24.8	1.0	5.7
	ダンス・現代舞踊	40	37.5	15.0	15.0	15.0	5.0	5.0	7.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	44.8	10.0	18.2	13.1	9.7	2.9	1.2
	女性	1821	49.0	12.1	13.3	12.7	9.6	3.0	0.3
年齢層	18歳未満	108	63.0	9.3	8.3	5.6	7.4	4.6	1.9
	18～29歳	411	35.0	11.9	20.7	20.7	6.8	4.6	0.2
	30歳代	575	43.0	12.7	15.5	16.0	9.2	3.3	0.3
	40歳代	458	48.5	11.1	14.0	13.8	9.6	2.8	0.2
	50歳代	331	58.3	10.6	10.3	6.0	12.7	1.8	0.3
	60歳以上	254	60.2	13.8	7.5	4.7	13.0	0.8	0.0
チケット クラブ	加入	452	60.0	11.1	9.3	5.1	14.4	0.2	0.0
	未加入	1738	44.8	11.8	15.8	14.9	8.5	3.9	0.5
鑑賞経験	今日が初めて	692	27.5	10.8	22.4	22.5	8.7	7.4	0.7
	1～2回	321	46.7	14.0	14.6	13.7	8.7	1.9	0.3
	3～5回	500	54.4	13.8	10.6	10.4	9.2	1.2	0.4
	6～10回	306	58.2	11.1	10.5	7.2	11.8	1.3	0.0
	11回以上	394	70.1	8.9	7.1	2.5	10.7	0.3	0.5

北九州市 +周辺	北九州市 +周辺 以外のエ リア
56.4	37.4
51.1	43.8
67.4	17.4
72.7	20.3
64.8	29.5
52.5	40.0
0.0	0.0
54.7	44.0
61.1	38.6
72.2	25.9
47.0	52.8
55.7	44.0
59.6	40.2
68.9	30.8
74.0	26.0
71.0	29.0
56.6	43.0
38.3	61.0
60.7	38.9
68.2	31.4
69.3	30.7
78.9	20.6

参考	09年度調査結果	1692	50.7	11.1	14.0	9.6	7.7	1.9
	08年度調査結果	1732	52.9	11.5	12.0	7.6	10.0	1.5
	07年度調査結果	3033	52.6	11.7	11.8	9.3	8.0	2.1
	06年度調査結果	2766	61.9	12.5	8.4	4.6	7.1	1.3
	05年度調査結果	3073	60.7	11.3	11.5	4.3	8.1	1.4
	04年度調査結果	4708	63.3	8.4	10.2	8.5	6.9	1.0
	03年度調査結果	4078	60.5	7.5	7.8	-	-	11.6

61.8	33.2
64.5	31.1
64.3	31.2
74.4	21.4
72.0	25.3
71.7	26.6
68.0	19.4

チケットクラブに入会している割合は19.0%、入会していない割合は73.1%である。

[来場公演のジャンル別]

・チケットクラブに入会している割合(加入率)は、ダンス・現代舞踊(25.0%)で高い。

[性別]

・加入率は、男性が16.5%、女性が20.9%と、女性の割合が若干高い。

[年齢別]

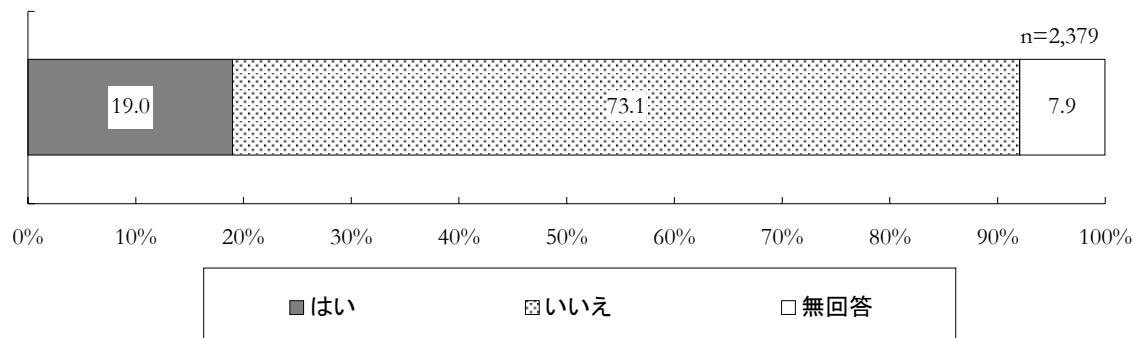
・加入率は、50歳代(29.0%)、40歳代(23.8%)で高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が初めてのグループでは、加入率は2.6%に留まるが、鑑賞経験が多いほど入会している割合は高く、特に、11回以上のグループの加入率は56.3%となっている。

[過去調査と比較して]

・年度ごとに若干の増減はあるが、おおよそ、加入:20%前後、未加入:70%前後の割合で推移しており、大きな変化はない。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q9チケットクラブへの入会		
			はい	いいえ	無回答
全体		2379	19.0	73.1	7.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	19.2	74.1	6.7
	音楽劇	172	6.4	76.2	17.4
	ミュージカル・商業演劇	384	24.7	66.4	8.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	12.4	79.0	8.6
	ダンス・現代舞踊	40	25.0	65.0	10.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	16.5	81.0	2.4
	女性	1821	20.9	76.8	2.3
年齢層	18歳未満	108	13.0	80.6	6.5
	18～29歳	411	9.2	89.8	1.0
	30歳代	575	22.4	76.5	1.0
	40歳代	458	23.8	74.9	1.3
	50歳代	331	29.0	67.7	3.3
	60歳以上	254	16.9	78.7	4.3
チケットクラブ	加入	452	100.0	0.0	0.0
	未加入	1738	0.0	100.0	0.0
鑑賞経験	今日が初めて	692	2.6	96.8	0.6
	1～2回	321	10.3	88.5	1.2
	3～5回	500	14.6	82.0	3.4
	6～10回	306	32.4	63.1	4.6
	11回以上	394	56.3	42.1	1.5
参考	09年度調査結果	1692	22.5	70.7	6.9
	08年度調査結果	1732	18.7	73.8	7.5
	07年度調査結果	3033	20.3	73.6	6.1
	06年度調査結果	2766	23.1	70.6	6.3
	05年度調査結果	3073	24.0	71.0	4.9
	04年度調査結果	4708	23.1	73.4	3.4
	03年度調査結果	4078	33.4	57.3	9.3

(6) チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向

Q9

現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は14.7%、ない割合は52.0%である。無回答の割合も33.3%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

[来場公演のジャンル別]

・今後の入会意向は、ミュージカル・商業演劇が高く(19.2%)、音楽劇で低い(6.9%)。ミュージカル・商業演劇ではチケットの予約や入手が困難な演目が多いためと考えられる。

[性別]

・今後の入会意向に性別でほとんど差はない。

[年齢別]

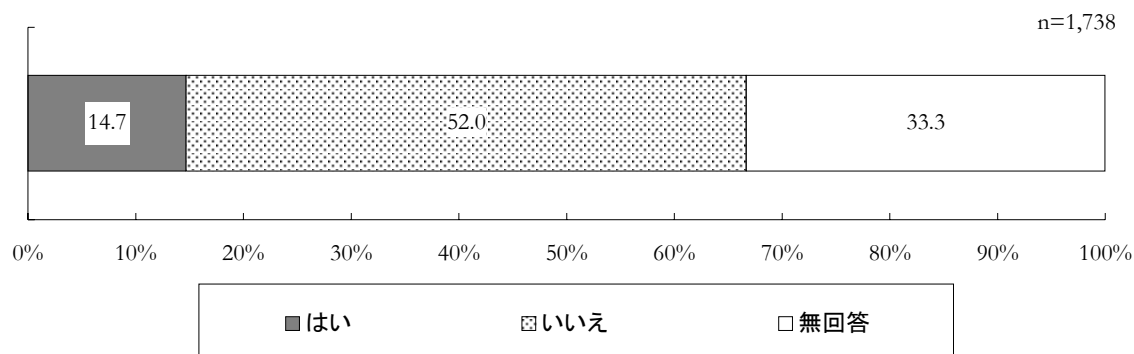
・30歳代、40歳代で入会意向が高い。
・50歳代、60歳以上で無回答の割合が高い傾向があり、50歳台では41.5%が無回答である。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・入会意向は、「6～10回」のグループで若干高くなっている。

[過去調査と比較して]

・07年度以降は入会意向が20%を下回る状況が続いている。



(単位: %)

		全体	Q9-1今後の意向		
			はい	いいえ	無回答
全体		1738	14.7	52.0	33.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	1243	14.6	53.5	31.9
	音楽劇	131	6.9	51.9	41.2
	ミュージカル・商業演劇	255	19.2	48.2	32.5
	古典芸能(歌舞伎・能)	83	14.5	39.8	45.8
	ダンス・現代舞踊	26	11.5	57.7	30.8
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	333	13.8	57.7	28.5
	女性	1398	14.9	50.7	34.3
年齢層	18歳未満	87	10.3	77.0	12.6
	18～29歳	369	11.7	59.9	28.5
	30歳代	440	17.3	50.5	32.3
	40歳代	343	17.5	47.8	34.7
	50歳代	224	15.6	42.9	41.5
	60歳以上	200	13.5	49.5	37.0
鑑賞経験	今日が初めて	670	10.0	57.3	32.7
	1～2回	284	11.3	49.6	39.1
	3～5回	410	18.3	49.3	32.4
	6～10回	193	25.4	44.0	30.6
	11回以上	166	17.5	51.8	30.7
参考	09年度調査結果	1196	17.4	50.5	32.1
	08年度調査結果	1278	18.4	47.6	34.0
	07年度調査結果	2232	17.3	48.3	34.4
	06年度調査結果	1954	25.3	46.4	28.2
	05年度調査結果	2183	20.5	45.1	34.4
	04年度調査結果	3458	30.3	40.3	29.4
	03年度調査結果	2337	37.5	30.1	32.4

* n=1,738は、チケットクラブに入会していないと回答した人の数

2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が70.5%である。そのほかのジャンルについては、「ミュージカル・商業演劇」が16.1%、「音楽劇」が7.2%、「古典芸能」が4.4%、「ダンス・現代舞踊」が1.7%となっている。

※2010年度のアンケート配布30公演のうち、「小劇場・現代演劇」が22公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。

[性別]

・男性、女性ともに、「小劇場・現代演劇」の割合が最も高いが、特に男性で鑑賞割合が高い(男性:73.5%、女性:70.6%)。

[年齢別]

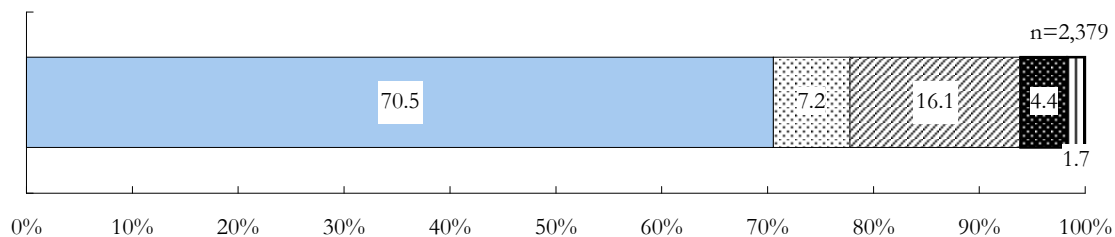
・いずれの年代でも「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、18歳～40歳代で高い。
・50歳代、40歳代、18歳未満では「ミュージカル・商業演劇」、60歳以上では「古典芸能」の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入・未加入ともに「小劇場・現代演劇」の割合が最も高く、大きな差はない。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

・今日が初めての場合、「小劇場・現代演劇」の割合が77.5%となっており、北九州芸術劇場で初めて鑑賞した回答者の4人に3人が「小劇場・現代演劇」に来場した。



小劇場・現代演劇	音楽劇	ミュージカル・商業演劇
古典芸能(歌舞伎・能)	ダンス・現代舞踊	パフォーマンス

		(単位: %)						
		調査数 (n)	ジャンル 小劇場・ 現代演劇	音楽劇	ミュージカ ル・商業 演劇	古典芸能 (歌舞伎・ 能)	ダンス・現 代舞踊	パフォー マンス
全体		2379	70.5	7.2	16.1	4.4	1.7	0.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	音楽劇	172	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ミュージカル・商業演劇	384	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	40	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	73.5	12.4	6.8	5.4	1.9	0.0
	女性	1821	70.6	5.4	18.2	4.2	1.6	0.0
年齢層	18歳未満	108	68.5	10.2	17.6	1.9	1.9	0.0
	18～29歳	411	81.8	6.3	10.0	0.5	1.5	0.0
	30歳代	575	77.9	4.0	15.5	1.4	1.2	0.0
	40歳代	458	71.0	5.0	19.7	1.7	2.6	0.0
	50歳代	331	63.1	8.8	20.2	6.3	1.5	0.0
	60歳以上	254	50.4	11.0	15.4	22.4	0.8	0.0
チケット クラブ	加入	452	71.5	2.4	21.0	2.9	2.2	0.0
	未加入	1738	71.5	7.5	14.7	4.8	1.5	0.0
鑑賞 経験	今日が初めて	692	77.5	5.2	12.9	3.6	0.9	0.0
	1～2回	321	66.4	10.6	15.9	5.3	1.9	0.0
	3～5回	500	68.8	7.6	16.8	5.2	1.6	0.0
	6～10回	306	69.9	4.6	18.0	5.9	1.6	0.0
	11回以上	394	69.0	5.8	19.3	3.0	2.8	0.0
参考	09年度調査結果	1692	70.3	5.3	10.1	5.7	4.1	4.5
	08年度調査結果	1732	43.8	22.1	24.0	5.5	3.6	0.9
	07年度調査結果	3033	26.9	3.8	44.0	16.7	4.6	3.1
	06年度調査結果	2766	35.8	4.5	33.3	22.2	3.3	1.0
	05年度調査結果	3073	27.4	3.0	33.3	16.1	8.9	6.7
	04年度調査結果	4708	45.1	—	24.1	22.0	3.0	—
	03年度調査結果	4078	21.2	6.4	34.7	23.5	2.2	—

↑
「その他のジャンル」

※03年度は、「クラシック音楽」ジャンルが設けられており、割合は10.9%であった。
 ※08年度以降、「その他のジャンル」は、他のジャンルに分類・統合している。

・公演情報の入手経路については、「インターネット・ホームページ」が22.4%、「友人・知人から聞いた」(21.9%)となっており、続いて「ダイレクトメール」(14.8%)、「他の公演会場で配布されたチラシ」(13.1%)がほぼ同割合となっている。

・「雑誌・タウン情報誌」名の具体的な書き込みをみると、「リビング北九州(6件)」、「アヴァンティ(6件)」、「ナッセ(6件)」、「週刊リフレッシュ(6件)」などの地域情報誌(紙)名の記載もある。

・「その他」の具体的な書き込みをみると、「ステージ通信Q」への回答が多い(67件)。そのほか、市民センターでの情報提供、互助会や共済会の幹旋、ファンクラブからの案内などの回答がある。また、幼稚園や学校からの紹介、紹介・誘われて来場した人も多く、情報の入手経路は多様である。

[来場公演のジャンル別]

・公演情報の入手経路は、ジャンルによって特徴があり、

- ・小劇場・現代演劇:「インターネット・ホームページ」(25.7%)
- ・音楽劇:「出演者・公演関係者から聞いた」(31.4%)
- ・ミュージカル・商業演劇:「インターネット・ホームページ」(21.1%)
- ・古典芸能:「新聞」(37.1%)
- ・ダンス・現代舞踊:「ダイレクトメール」(37.5%)

の割合が最も高い。

・小劇場・現代演劇では、他のジャンルに比べて「インターネット・ホームページ」、「ダイレクトメール」、「他の公演で配布されたチラシ」の割合が高い。

[年齢別]

・公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、18歳未満と50歳代は「友人・知人から聞いた」、18歳から40歳代では「インターネット・ホームページ」、60歳代以上では「新聞」の割合が最も高い。「新聞」は年齢層が高いほど割合が高くなっている。

・18歳未満では「街中のチラシ・ポスター」、18歳から30歳代の年齢層では、「友人・知人から聞いた」が第2位となっている。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入している場合、「ダイレクトメール」が37.4%と高い割合を占める。次いで、「他の公演会場で配布されたチラシ」(29.6%)となっており、これら2項目の割合の高さは、未加入と比べて顕著である。

・一方、未加入の場合は、「友人・知人から聞いた」が26.4%と最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」(22.7%)となっている。

・「インターネット・ホームページ」は、加入では3位、未加入では2位となっている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が6回以上のグループでは、「ダイレクトメール」が最も割合が高い。6～10回では「インターネット・ホームページ」が、11回以上では「他の公演で配布されたチラシ」が2位となっている。

・11回以上のグループでは、「その他」への回答が多く、具体的な書き込み内容をみると「ステージ通信Q」が多い。

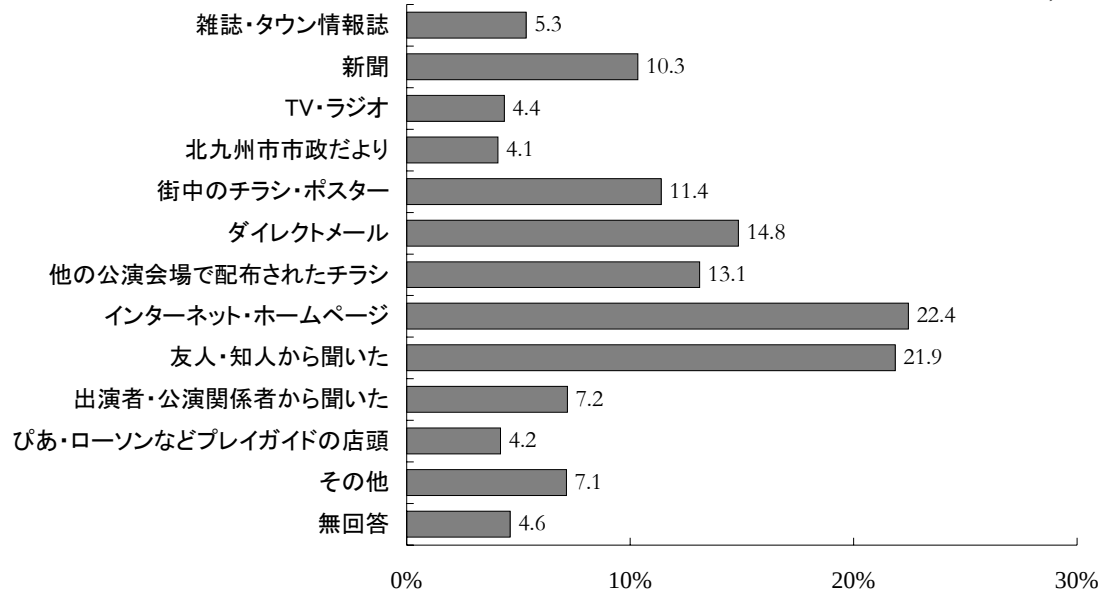
・一方、5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、次いで「インターネット・ホームページ」となっている。

・劇場での鑑賞経験によって情報の入手経路は特徴があるが、「インターネット・ホームページ」はいずれの鑑賞頻度でも19～26%の回答がある。鑑賞頻度に関わらず、便利な情報入手ツールとして使われていることがうかがえる。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となった。一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク(18.7%)として減少している(10年度:10.3%)。

n=2,379



(単位: %)

		調査数 (n)	Q1公演情報の入手経路													無回答
			雑誌・タフ ン情報誌	新聞	TV・ラジ オ	北九州市 市政だより	街中のチ ラン・ポス ター	ダイレク トメール	他の公演 会場で配 布された チラシ	インター ネット・ ホーム ページ	友人・知 人から聞 いた	出演者・ 公演関係 者から聞 いた	ぴあ・ロー ソンなど プレイガイ ドの店頭	その他		
全体		2379	5.3	10.3	4.4	4.1	11.4	14.8	13.1	22.4	21.9	7.2	4.2	7.1	4.6	
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	5.5	8.8	4.2	3.3	11.4	16.5	13.3	25.7	21.8	6.1	4.1	7.6	4.4	
	音楽劇	172	1.2	11.6	1.7	5.2	4.7	5.2	11.0	7.6	30.8	31.4	3.5	1.2	7.0	
	ミュージカル・商業演劇	384	5.7	9.4	6.8	6.3	13.8	9.6	15.6	21.1	20.1	3.1	4.9	8.6	4.9	
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	9.5	37.1	3.8	7.6	15.2	14.3	4.8	1.9	16.2	0.0	6.7	4.8	2.9	
	ダンス・現代舞踊	40	2.5	10.0	2.5	0.0	5.0	37.5	12.5	15.0	17.5	5.0	0.0	7.5	5.0	
性別	バフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	男性	411	3.9	10.9	2.2	3.6	9.2	12.7	10.9	22.6	22.1	10.9	3.2	7.3	5.6	
	女性	1821	5.6	10.0	5.0	4.3	12.1	15.4	14.2	22.8	22.3	6.2	4.6	7.4	3.1	
年齢層	18歳未満	108	4.6	3.7	4.6	6.5	14.8	11.1	1.9	13.0	29.6	4.6	0.9	7.4	11.1	
	18～29歳	411	4.4	2.4	4.1	1.2	10.7	6.1	9.0	33.8	32.1	10.7	3.9	4.1	3.4	
	30歳代	575	5.9	6.4	2.4	2.8	11.0	17.0	16.0	31.7	21.4	4.3	5.0	7.1	2.3	
	40歳代	458	4.6	8.7	3.7	5.0	13.3	17.2	17.9	22.5	17.7	7.2	5.2	9.2	2.4	
	50歳代	331	5.7	17.5	6.0	4.5	10.3	18.7	11.8	13.6	22.4	5.7	3.3	10.9	4.2	
チケット 利用	60歳以上	254	6.3	28.7	9.8	9.8	11.0	15.0	10.2	3.1	16.1	7.9	4.3	5.5	3.9	
	加入	452	6.4	7.7	2.4	4.2	16.2	37.4	29.6	25.2	5.3	4.4	4.9	15.9	2.4	
	未加入	1738	5.0	10.2	4.9	4.1	10.8	9.3	9.6	22.7	26.4	7.7	4.1	5.3	4.0	
鑑賞 経験	今日が初めて	692	3.0	9.0	6.8	3.0	7.2	7.4	3.5	25.9	30.2	6.6	3.6	5.3	4.2	
	1～2回	321	4.7	9.3	4.7	5.3	14.0	8.4	8.4	23.4	25.2	8.1	4.7	4.0	3.4	
	3～5回	500	7.2	11.4	4.0	3.8	12.6	10.0	13.4	19.6	23.8	7.0	3.8	5.0	3.6	
	6～10回	306	5.2	10.5	3.6	4.2	12.1	24.5	19.0	23.5	14.7	5.2	5.9	8.5	2.9	
	11回以上	394	6.9	10.7	2.0	5.8	15.5	33.0	30.7	20.8	10.4	7.6	4.6	15.7	3.3	
参考	09年度調査結果	1692	6.0	11.2	3.5	4.0	12.1	16.1	16.0	16.3	20.3	8.7	4.0	8.9	5.2	
	08年度調査結果	1732	7.1	14.5	2.6	4.2	10.2	17.1	13.1	13.3	23.2	9.4	4.0	10.1	3.5	
	07年度調査結果	3033	7.2	15.9	4.9	5.9	9.8	13.1	12.5	16.5	22.8	6.1	5.7	10.2	2.4	
	06年度調査結果	2766	6.6	18.7	5.7	11.7	11.4	16.6	11.4	12.0	21.6	4.6	6.3	9.2	2.4	
	05年度調査結果	3073	6.3	17.5	5.0	7.8	11.5	19.0	13.2	10.7	24.2	6.2	4.8	9.7	1.3	
	04年度調査結果	4708	7.1	15.6	3.5	9.8	12.1	19.5	13.7	9.5	23.1	5.7	5.4	11.4	1.6	
	03年度調査結果	4078	9.7	17.2	9.7	18.5	15.5	14.9	12.5	6.8	21.9	3.2	5.7	9.5	1.7	

・公演に来た理由については、「出演者・出演団体が好きだから」が60.4%、「公演内容が面白そうだったから」が43.5%となっている。
 ・「その他」の具体的な内容を見ると、出演者やカンパニーのファン、脚本や演出に興味があってという回答が多い。また、前回(以前)みてよかったので、子どもに見せたかったから、という回答も多い。
 ・そのほか、招待やチケット当選、学校での紹介があることから興味があってなど、来場の理由は多様である。

〔来場公演のジャンル別〕

・音楽劇以外のジャンルでは、「出演者・出演団体が好きだから」の割合が最も高い。音楽劇では「出演者や関係者が知り合いだから」が最も高い。
 ・そのほか、ミュージカル・商業演劇では「公演内容が面白そうだったから」、音楽劇では「人に誘われたから」への回答割合も、他のジャンルに比べて高い。

〔性別〕

・男性、女性ともに「出演者・出演団体が好きだから」の割合が最も高く、とくに女性は64.6%と男性に比べて顕著に高い。
 ・顕著な差ではないが、女性では「劇場が近くだったから」、男性では「出演者や関係者が知り合いだから」への割合が高い。

〔年齢別〕

・18歳未満では「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高いが、その他の年代では「出演者・出演団体が好きだから」が最も高い。
 ・40歳代では、2位の「公演内容が面白そうだったから」の高さが他の年代よりも高い(50.0%)。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

・加入、未加入とも「出演者・出演団体が好きだから」の割合が最も高く、特に加入の場合は69.0%と顕著に高い。
 ・加入している場合、そのほかの項目についても回答率が高く、公演に来場する理由は多様である。
 ・加入している場合、「劇場が近くだったから」の割合が33.0%と顕著に高い。
 ・未加入の場合、「人に誘われたから」の割合が14.6%と高い。

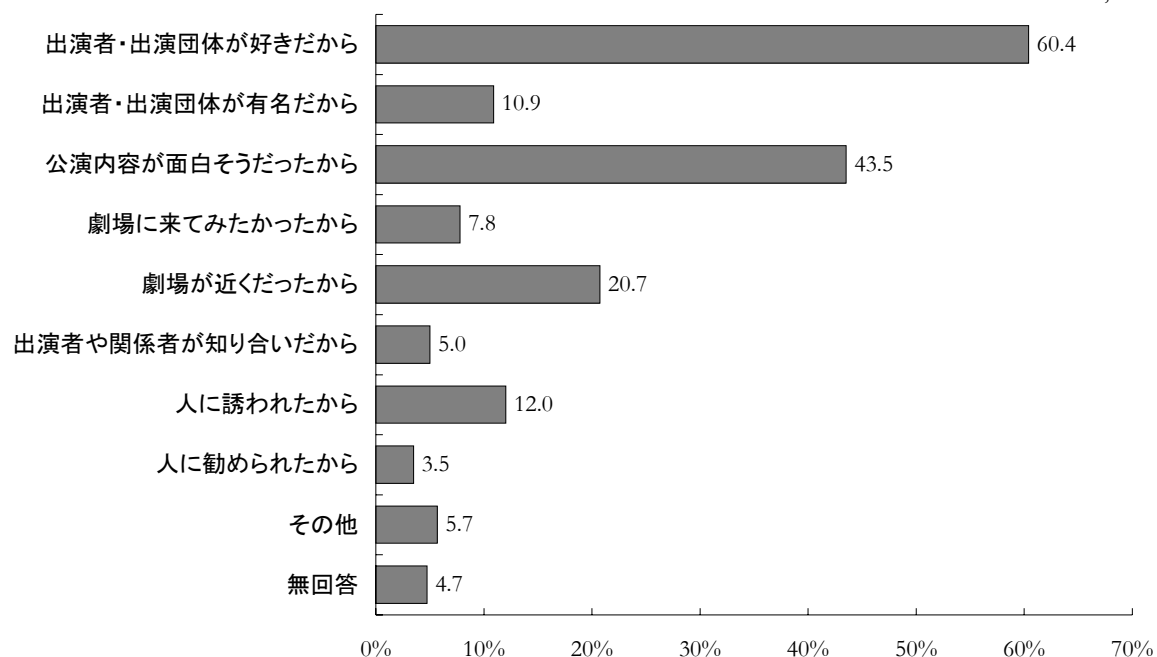
〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

・いずれのグループでも「出演者・出演団体が好きだから」の割合が最も高く、次いで、「公演内容が面白そうだったから」となっているが、特に11回以上のグループでは、これら2項目への回答割合の高さが顕著である。
 ・一方、北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、「人に誘われたから」(18.6%)の割合が高く、鑑賞経験が少ないほど「人に誘われたから」の割合が高い。
 ・また、6回以上のグループでは「劇場が近くだったから」の割合が高い(6～10回:25.2%、11回以上:28.9%)。

〔過去調査と比較して〕

・過去調査と比較して、10年度は「出演者・出演団体が好きだから」の割合が過去最高となっており、「公演内容が面白そうだったから」が08年度以降減少傾向にある。

n=2,379



(単位: %)

		調査数 (n)	Q2公演に来た理由									無回答
			出演者・ 出演団体 が好きだ から	出演者・ 出演団体が有名だ から	公演内容 が面白そ うだったか ら	劇場に 来てみた かったか ら	劇場が近 くだったか ら	出演者や 関係者が 知り合い だから	人に誘わ れたから	人に勧め られたか ら	その他	
全体		2379	60.4	10.9	43.5	7.8	20.7	5.0	12.0	3.5	5.7	4.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	64.4	9.6	44.3	8.3	20.1	3.0	12.5	4.2	5.3	4.1
	音楽劇	172	25.6	7.0	27.9	4.7	14.5	36.6	14.0	1.2	7.6	9.9
	ミュージカル・商業演劇	384	56.0	15.9	51.3	7.8	25.5	1.3	9.9	1.8	6.8	5.2
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	72.4	15.2	33.3	4.8	25.7	0.0	9.5	1.0	2.9	3.8
	ダンス・現代舞踊	40	52.5	22.5	30.0	7.5	12.5	0.0	10.0	5.0	10.0	7.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	46.0	10.5	43.3	9.7	16.5	8.5	14.6	6.8	5.1	6.3
	女性	1821	64.6	11.2	44.2	7.7	22.5	4.2	11.8	2.7	5.9	3.2
年齢層	18歳未満	108	28.7	3.7	41.7	13.9	15.7	4.6	28.7	8.3	4.6	10.2
	18～29歳	411	62.0	12.2	35.5	8.0	20.4	7.8	19.0	7.5	5.1	3.4
	30歳代	575	66.8	9.7	44.0	8.2	20.9	4.2	10.8	2.3	6.8	2.3
	40歳代	458	63.8	11.8	50.0	8.5	25.5	4.6	7.9	3.1	5.7	3.3
	50歳代	331	61.0	13.0	48.0	9.4	23.6	2.4	10.6	1.8	6.3	3.9
	60歳以上	254	55.9	11.8	44.9	3.5	17.3	7.1	10.6	1.6	5.1	4.3
チケット クラブ	加入	452	69.0	16.4	59.5	15.5	33.0	1.5	3.5	1.5	4.9	2.2
	未加入	1738	59.4	9.7	40.2	6.2	18.4	5.9	14.6	4.0	6.0	3.8
鑑賞 経験	今日が初めて	692	61.7	9.0	33.8	2.7	16.5	4.6	18.6	5.1	5.6	3.0
	1～2回	321	57.3	10.0	38.3	7.5	20.9	6.5	15.0	3.4	4.0	2.8
	3～5回	500	60.4	10.0	43.8	7.4	20.6	6.6	10.2	2.8	5.0	4.8
	6～10回	306	59.5	11.4	53.3	13.1	25.2	1.3	7.8	1.6	7.2	5.2
	11回以上	394	65.2	16.5	59.1	14.7	28.9	4.3	5.6	3.3	7.4	3.0
参考	09年度調査結果	1692	56.4	11.0	47.5	8.3	19.7	7.1	13.1	4.1	5.1	4.7
	08年度調査結果	1732	52.9	10.2	49.2	8.0	19.6	8.9	13.7	4.0	10.9	3.2
	07年度調査結果	3033	55.7	11.9	46.0	5.5	12.8	5.1	14.0	4.0	10.7	2.3
	06年度調査結果	2766	55.2	13.3	49.1	6.8	13.7	4.6	13.1	3.6	9.6	2.7
	05年度調査結果	3073	51.8	14.2	48.5	7.7	13.3	5.5	14.4	4.1	11.3	1.3
	04年度調査結果	4708	51.0	13.3	49.6	7.9	15.8	4.8	13.0	4.1	12.1	1.3
	03年度調査結果	4078	51.8	19.1	55.9	28.8	15.0	2.4	10.8	2.7	13.3	0.6

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は57.8%である。飲食をしている場合の平均金額は1,585.0円、ショッピングをしている場合の平均金額は4,610.3円となっており、昨年度と同程度となっている。

[来場公演のジャンル別]

・ミュージカル・商業演劇で飲食・ショッピングをしている割合が高い。

[性別]

・飲食やショッピングをしている割合は、男性が51.1%、女性が63.6%と女性で高い。

[年齢別]

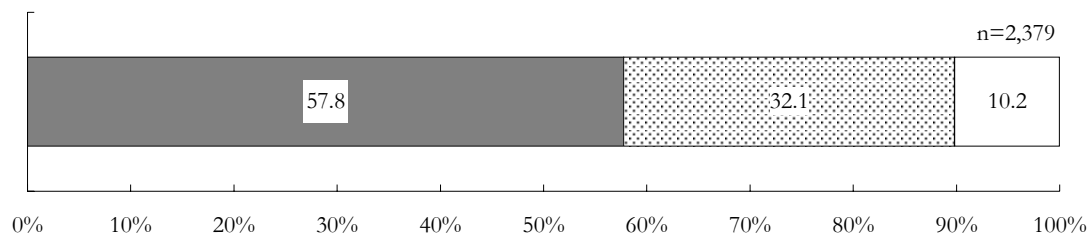
・飲食やショッピングをしている割合は、30～50歳代で高いが、平均金額でみると50歳代が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・チケットクラブの加入・未加入で、顕著な差はみられない。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞経験で顕著な差はみられない。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q6公演前後の飲食・ショッピング		
			はい	いいえ	無回答
全体		2379	57.8	32.1	10.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	58.9	32.1	9.0
	音楽劇	172	45.3	32.0	22.7
	ミュージカル・商業演劇	384	59.4	31.3	9.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	57.1	32.4	10.5
	ダンス・現代舞踊	40	50.0	37.5	12.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	51.1	43.1	5.8
	女性	1821	63.6	31.9	4.6
年齢層	18歳未満	108	52.8	37.0	10.2
	18～29歳	411	54.3	41.4	4.4
	30歳代	575	67.5	29.6	3.0
	40歳代	458	64.8	33.2	2.0
	50歳代	331	64.0	31.1	4.8
	60歳以上	254	58.7	33.1	8.3
チケット クラブ	加入	452	64.2	33.6	2.2
	未加入	1738	60.9	34.4	4.7
鑑賞 経験	今日が初めて	692	60.1	36.0	3.9
	1～2回	321	62.9	31.5	5.6
	3～5回	500	61.2	34.6	4.2
	6～10回	306	62.1	32.7	5.2
	11回以上	394	62.7	33.5	3.8
参考	09年度調査結果	1692	58.9	31.8	9.3
	08年度調査結果	1732	58.6	33.1	8.3
	07年度調査結果	3033	60.5	30.8	8.7
	06年度調査結果	2766	60.3	31.2	8.5
	05年度調査結果	3073	60.7	31.5	7.8
	04年度調査結果	4708	63.3	32.2	4.5
	03年度調査結果	4078	70.5	27.3	2.1

(単位: 円)

飲食をして いる場合の 平均金額 (n=1141)	ショッピングを している場 合の平均 金額 (n=656)
1585.0	4610.3
1542.7	4479.6
2274.0	5052.6
1512.3	4698.1
1693.6	6137.9
1678.6	3583.3
-	-
1898.2	7016.0
1529.7	4246.8
1979.3	2429.4
1269.5	3853.7
1549.3	3741.1
1647.8	4033.9
1749.6	8529.4
1686.7	4899.2
1452.5	5560.8
1614.5	4247.3
1572.2	3917.7
1452.8	4481.5
1705.1	4199.0
1478.5	4241.8
1655.2	6194.7

* 03年度、04年度は、「飲食やショッピング」として一つの質問項目で尋ねているため、04年度以前の数字と、05年度以降の数字の比較には留意が必要である。

・公演や劇場に対する9項目の満足度を満足層(*)の割合でみると、満足層の割合が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「電話予約やチケットカウンターでの対応」、「劇場係員の対応」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の5項目である。その他の4項目についても、満足層の割合はいずれも80%以上である。

*「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

・「たいへん満足」と回答した割合が高い(4割以上)のは、「本日の公演内容」(54.6%)、「劇場係員の対応」(47.5%)、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」(42.2%)の3項目である。

・「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合がいずれも高い。

・過去調査結果と比べて、「公演情報の入手のしやすさ」、「劇場係員の対応」、「劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」については、多少の年度の変化はあるものの「たいへん満足」への回答割合も上昇傾向である。

[来場公演のジャンル別]

・ダンス・現代舞踊では、他のジャンルに比べて多くの項目で「たいへん満足」への回答割合が高い。

[性別]

・男性、女性で顕著な差は見られない。

[年齢別]

・60歳代以上は、ほぼすべての項目で、満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに低く、特に「たいへん満足」への回答割合の低さは顕著である。60歳以上ほどではないが、50歳代でも、満足度は相対的に低くなっている。

・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高いほど低くなり、この傾向は、「劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」のハードに関する2項目で顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入の方が、多くの項目で、満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに概ね高い。

・「劇場係員の対応」については、満足層は加入、「たいへん満足」は未加入が高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

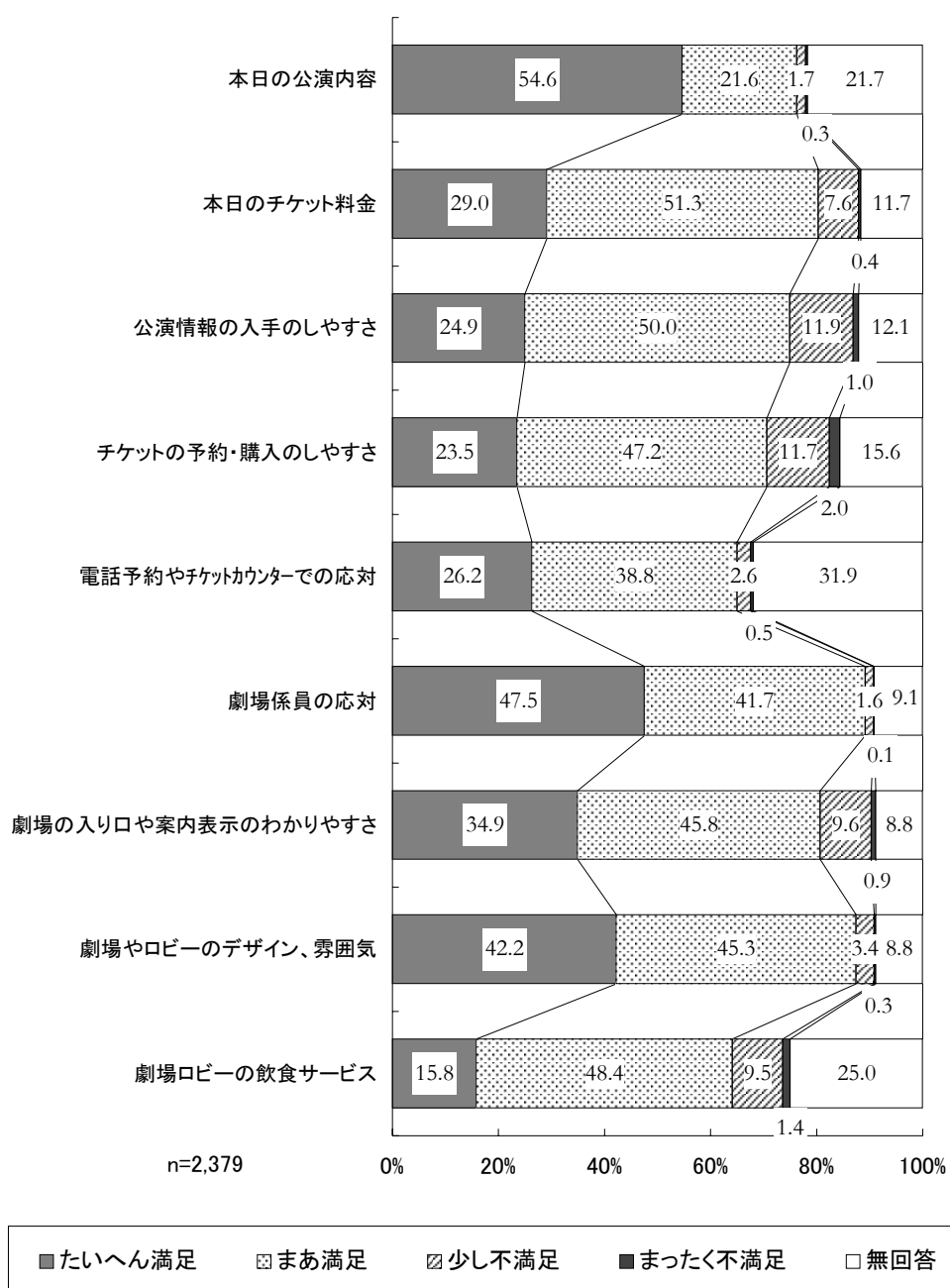
・鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられないが、「公演情報の入手のしやすさ」については、鑑賞経験が多いほど満足度が高い傾向にある。

[過去調査と比較して]

・項目全般について、10年度も高い満足度を維持しており、満足層の割合は、すべての項目で80%以上となっている。

・「公演情報の入手のしやすさ」、「劇場係員の対応」、「劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」については、「たいへん満足」への回答割合も上昇傾向である。

※無回答の割合が20%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「電話予約やチケットカウンターでの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」の3項目である。「電話予約やチケットカウンターでの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、サービスを利用したことがない人が無回答になっていると考えられる。



* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、無回答を除く。

【本日の公演内容】

(単位: %)

		全体	Q3-1本日の公演内容					「無回答」を除いた割合						
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
全体		2379	54.6	21.6	1.7	0.3	21.7	1862	69.8	27.7	2.1	0.4	97.4	2.6
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	56.7	20.4	1.4	0.1	21.3	1320	72.1	26.0	1.7	0.2	98.1	1.9
	音楽劇	172	43.0	29.1	3.5	0.6	23.8	131	56.5	38.2	4.6	0.8	94.7	5.3
	ミュージカル・商業演劇	384	54.2	21.9	1.8	1.3	20.8	304	68.4	27.6	2.3	1.6	96.1	3.9
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	41.9	30.5	2.9	0.0	24.8	79	55.7	40.5	3.8	0.0	96.2	3.8
	ダンス・現代舞踊	40	52.5	15.0	2.5	0.0	30.0	28	75.0	21.4	3.6	0.0	96.4	3.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	47.7	27.0	2.2	0.2	22.9	317	61.8	35.0	2.8	0.3	96.8	3.2
	女性	1821	57.2	20.4	1.5	0.4	20.5	1448	72.0	25.6	1.9	0.5	97.6	2.4
年齢層	18歳未満	108	50.0	25.0	2.8	0.0	22.2	84	64.3	32.1	3.6	0.0	96.4	3.6
	18～29歳	411	63.3	19.2	0.7	0.0	16.8	342	76.0	23.1	0.9	0.0	99.1	0.9
	30歳代	575	64.9	17.7	1.7	0.2	15.5	486	76.7	21.0	2.1	0.2	97.7	2.3
	40歳代	458	55.2	21.6	1.3	0.7	21.2	361	70.1	27.4	1.7	0.8	97.5	2.5
	50歳代	331	51.7	25.4	1.8	0.3	20.8	262	65.3	32.1	2.3	0.4	97.3	2.7
	60歳以上	254	34.6	26.8	2.4	0.8	35.4	164	53.7	41.5	3.7	1.2	95.1	4.9
チケットクラブ	加入	452	57.3	20.8	1.8	0.7	19.5	364	71.2	25.8	2.2	0.8	97.0	3.0
	未加入	1738	55.6	21.6	1.5	0.2	21.1	1372	70.4	27.4	1.9	0.3	97.8	2.2
鑑賞経験	今日が初めて	692	59.1	20.2	1.2	0.1	19.4	558	73.3	25.1	1.4	0.2	98.4	1.6
	1～2回	321	49.8	24.3	1.6	0.0	24.3	243	65.8	32.1	2.1	0.0	97.9	2.1
	3～5回	500	59.0	18.6	1.4	0.2	20.8	396	74.5	23.5	1.8	0.3	98.0	2.0
	6～10回	306	51.3	27.5	1.6	1.0	18.6	249	63.1	33.7	2.0	1.2	96.8	3.2
	11回以上	394	51.8	21.8	3.0	0.8	22.6	305	66.9	28.2	3.9	1.0	95.1	4.9
参考	09年度調査結果	1692	50.9	23.0	1.4	0.1	24.5	1277	67.4	30.5	1.9	0.2	98.0	2.0
	08年度調査結果	1732	51.5	25.8	2.0	0.2	20.6	1376	64.8	32.4	2.5	0.3	97.2	2.8
	07年度調査結果	3033	56.2	24.6	1.8	0.2	17.2	2510	67.9	29.7	2.2	0.2	97.6	2.4
	06年度調査結果	2766	54.2	26.4	2.2	0.2	17.1	2294	65.3	31.8	2.7	0.2	97.1	2.9
	05年度調査結果	3073	52.1	26.2	2.1	0.4	19.2	2483	64.5	32.5	2.6	0.4	97.0	3.0
	04年度調査結果	4708	53.0	26.8	2.8	0.3	17.1	3905	63.9	32.3	3.4	0.4	96.2	3.8
	03年度調査結果	4078	49.8	29.7	3.2	0.4	16.8	3392	59.9	35.7	3.9	0.5	95.6	4.4

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、不満足層は、「少し不満足」+「まったく不満足」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「たいへん満足」+「まあ満足」の割合は満足層の割合と、「少し不満足」+「まったく不満足」の割合は不満足層の割合と、必ずしも一致しない。

【本日の公演のチケット料金】

(単位: %)

	全体	Q3-2本日の公演のチケット料金					「無回答」を除いた割合					満足層	不満足層
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
全体	2379	29.0	51.3	7.6	0.4	11.7	2101	32.9	58.1	8.6	0.5	91.0	9.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	30.0	52.1	7.7	0.1	1508	33.4	58.0	8.6	0.1	91.4	8.6
	音楽劇	172	30.2	46.5	2.3	0.0	136	38.2	58.8	2.9	0.0	97.1	2.9
	ミュージカル・商業演劇	384	23.4	51.3	9.9	2.1	333	27.0	59.2	11.4	2.4	86.2	13.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	26.7	50.5	8.6	0.0	90	31.1	58.9	10.0	0.0	90.0	10.0
	ダンス・現代舞踊	40	45.0	37.5	0.0	2.5	34	52.9	44.1	0.0	2.9	97.1	2.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	28.7	52.6	9.0	0.0	371	31.8	58.2	10.0	0.0	90.0	10.0
	女性	1821	29.6	51.9	7.2	0.5	1626	33.1	58.2	8.1	0.6	91.3	8.7
年齢層	18歳未満	108	25.0	49.1	9.3	0.9	91	29.7	58.2	11.0	1.1	87.9	12.1
	18～29歳	411	30.7	52.8	8.0	0.2	377	33.4	57.6	8.8	0.3	91.0	9.0
	30歳代	575	34.4	51.3	6.3	0.3	531	37.3	55.6	6.8	0.4	92.8	7.2
	40歳代	458	34.7	49.3	8.3	0.7	426	37.3	53.1	8.9	0.7	90.4	9.6
	50歳代	331	23.9	55.9	6.9	0.3	288	27.4	64.2	8.0	0.3	91.7	8.3
	60歳以上	254	16.5	56.3	9.4	0.0	209	20.1	68.4	11.5	0.0	88.5	11.5
チケットクラブ	加入	452	35.4	53.1	4.9	0.9	426	37.6	56.3	5.2	0.9	93.9	6.1
	未加入	1738	28.4	51.7	8.3	0.2	1540	32.1	58.3	9.4	0.3	90.4	9.6
鑑賞経験	今日が初めて	692	28.2	52.5	9.1	0.3	623	31.3	58.3	10.1	0.3	89.6	10.4
	1～2回	321	27.7	49.8	9.3	0.0	279	31.9	57.3	10.8	0.0	89.2	10.8
	3～5回	500	27.8	56.4	5.6	0.6	452	30.8	62.4	6.2	0.7	93.1	6.9
	6～10回	306	25.5	56.5	7.5	0.3	275	28.4	62.9	8.4	0.4	91.3	8.7
	11回以上	394	37.1	44.9	6.6	0.8	352	41.5	50.3	7.4	0.9	91.8	8.2

参考	09年度調査結果	1692	30.4	49.8	6.2	0.3	13.3	1467	35.0	57.5	7.2	0.3	92.5	7.5
	08年度調査結果	1732	34.6	47.6	5.9	0.4	11.4	1534	39.1	53.7	6.7	0.5	92.8	7.2
	07年度調査結果	3033	30.9	49.1	6.8	0.4	12.8	2646	35.4	56.3	7.8	0.5	91.7	8.3
	06年度調査結果	2766	24.5	54.9	8.5	0.3	11.7	2442	27.8	62.2	9.7	0.4	90.0	10.0
	05年度調査結果	3073	29.8	49.7	6.1	0.4	13.9	2645	34.7	57.8	7.1	0.5	92.4	7.6
	04年度調査結果	4708	27.0	52.4	10.3	0.6	9.6	4255	29.9	58.0	11.4	0.7	87.9	12.1
	03年度調査結果	4078	21.7	53.4	11.6	0.7	12.5	3567	24.8	61.1	13.3	0.8	85.9	14.1

【公演情報の入手のしやすさ】

(単位: %)

	全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ					「無回答」を除いた割合					満足層	不満足層	
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足			
	全体	2379	24.9	50.0	11.9	1.0	12.1	2091	28.4	56.9	13.6	1.1	85.3	14.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	27.1	49.9	11.6	1.0	10.4	1504	30.3	55.7	13.0	1.1	85.9	14.1
	音楽劇	172	22.1	46.5	7.6	0.6	23.3	132	28.8	60.6	9.8	0.8	89.4	10.6
	ミュージカル・商業演劇	384	18.0	51.0	16.1	1.6	13.3	333	20.7	58.9	18.6	1.8	79.6	20.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	20.0	52.4	10.5	0.0	17.1	87	24.1	63.2	12.6	0.0	87.4	12.6
	ダンス・現代舞踊	40	25.0	55.0	7.5	0.0	12.5	35	28.6	62.9	8.6	0.0	91.4	8.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	24.6	49.9	12.2	1.7	11.7	363	27.8	56.5	13.8	1.9	84.3	15.7
	女性	1821	25.0	51.5	12.0	0.8	10.7	1626	28.0	57.6	13.5	0.9	85.7	14.3
年齢層	18歳未満	108	34.3	40.7	7.4	0.9	16.7	90	41.1	48.9	8.9	1.1	90.0	10.0
	18～29歳	411	30.7	48.4	13.6	1.5	5.8	387	32.6	51.4	14.5	1.6	84.0	16.0
	30歳代	575	27.8	51.7	12.2	0.9	7.5	532	30.1	55.8	13.2	0.9	85.9	14.1
	40歳代	458	25.3	53.1	13.3	1.1	7.2	425	27.3	57.2	14.4	1.2	84.5	15.5
	50歳代	331	17.8	57.7	10.3	0.9	13.3	287	20.6	66.6	11.8	1.0	87.1	12.9
	60歳以上	254	13.4	50.0	12.2	0.4	24.0	193	17.6	65.8	16.1	0.5	83.4	16.6
チケットクラブ	加入	452	35.8	49.1	9.7	0.9	4.4	432	37.5	51.4	10.2	0.9	88.9	11.1
	未加入	1738	22.7	51.6	12.7	1.0	12.0	1529	25.8	58.7	14.4	1.1	84.5	15.5
鑑賞経験	今日が初めて	692	23.0	51.3	13.7	1.0	11.0	616	25.8	57.6	15.4	1.1	83.4	16.6
	1～2回	321	20.2	52.3	11.5	0.9	15.0	273	23.8	61.5	13.6	1.1	85.3	14.7
	3～5回	500	24.0	51.4	12.6	1.4	10.6	447	26.8	57.5	14.1	1.6	84.3	15.7
	6～10回	306	24.8	54.9	10.8	1.0	8.5	280	27.1	60.0	11.8	1.1	87.1	12.9
	11回以上	394	35.0	45.4	10.4	0.3	8.9	359	38.4	49.9	11.4	0.3	88.3	11.7

参考	09年度調査結果	1692	23.0	52.9	10.5	1.2	12.4	1483	26.2	60.4	12.0	1.4	86.6	13.4
	08年度調査結果	1732	25.8	49.5	10.5	1.6	12.7	1512	29.5	56.7	12.0	1.8	86.2	13.8
	07年度調査結果	3033	19.5	48.4	14.7	1.5	15.9	2550	23.1	57.6	17.5	1.8	80.7	19.3
	06年度調査結果	2766	17.3	50.4	16.0	2.1	14.2	2373	20.1	58.7	18.7	2.4	78.9	21.1
	05年度調査結果	3073	15.2	49.0	16.7	2.0	17.2	2544	18.3	59.2	20.1	2.4	77.5	22.5
	04年度調査結果	4708	14.2	49.3	20.2	3.0	13.3	4081	16.4	56.8	23.3	3.4	73.3	26.7
	03年度調査結果	4078	12.0	43.8	22.6	7.5	14.1	3505	14.0	50.9	26.3	8.7	64.9	35.1

【チケットの予約・購入のしやすさ】

(单位:%)

		全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ					「無回答」を除いた割合					満足層 不足層	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
全体		2379	23.5	47.2	11.7	2.0	15.6	2007	27.8	56.0	13.9	2.3	83.8	16.2
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	25.4	46.5	11.7	2.1	14.2	1439	29.7	54.3	13.6	2.4	83.9	16.1
	音楽劇	172	24.4	47.1	2.3	0.0	26.2	127	33.1	63.8	3.1	0.0	96.9	3.1
	ミュージカル・商業演劇	384	15.1	49.5	16.1	2.9	16.4	321	18.1	59.2	19.3	3.4	77.3	22.7
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	18.1	49.5	12.4	0.0	20.0	84	22.6	61.9	15.5	0.0	84.5	15.5
	ダンス・現代舞踊	40	30.0	47.5	10.0	2.5	10.0	36	33.3	52.8	11.1	2.8	86.1	13.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	25.1	48.2	10.7	2.2	13.9	354	29.1	55.9	12.4	2.5	85.0	15.0
	女性	1821	23.4	48.5	12.1	1.9	14.1	1564	27.2	56.5	14.1	2.2	83.8	16.2
年齢層	18歳未満	108	35.2	43.5	4.6	0.9	15.7	91	41.8	51.6	5.5	1.1	93.4	6.6
	18～29歳	411	29.0	49.1	10.9	1.9	9.0	374	31.8	54.0	12.0	2.1	85.8	14.2
	30歳代	575	24.0	49.6	12.0	2.8	11.7	508	27.2	56.1	13.6	3.1	83.3	16.7
	40歳代	458	22.7	49.3	14.4	2.0	11.6	405	25.7	55.8	16.3	2.2	81.5	18.5
	50歳代	331	19.6	52.9	12.4	1.5	13.6	286	22.7	61.2	14.3	1.7	83.9	16.1
	60歳以上	254	17.3	44.5	11.0	0.8	26.4	187	23.5	60.4	15.0	1.1	84.0	16.0
チケットクラブ	加入	452	27.4	46.5	18.4	3.1	4.6	431	28.8	48.7	19.3	3.2	77.5	22.5
	未加入	1738	23.2	49.0	10.0	1.7	16.1	1459	27.7	58.4	11.9	2.0	86.1	13.9
鑑賞経験	今日が初めて	692	23.3	49.4	10.5	1.6	15.2	587	27.4	58.3	12.4	1.9	85.7	14.3
	1～2回	321	20.2	50.5	9.7	1.9	17.8	264	24.6	61.4	11.7	2.3	86.0	14.0
	3～5回	500	23.2	49.8	10.6	2.4	14.0	430	27.0	57.9	12.3	2.8	84.9	15.1
	6～10回	306	22.2	52.0	13.4	1.6	10.8	273	24.9	58.2	15.0	1.8	83.2	16.8
	11回以上	394	30.5	39.8	16.5	2.0	11.2	350	34.3	44.9	18.6	2.3	79.1	20.9
参考	09年度調査結果	1692	24.1	48.6	10.9	1.4	15.1	1436	28.3	57.2	12.8	1.6	85.6	14.4
	08年度調査結果	1732	25.9	49.9	7.2	1.3	15.8	1459	30.7	59.2	8.5	1.6	89.9	10.1
	07年度調査結果	3033	21.5	47.1	12.0	1.8	17.5	2501	26.1	57.1	14.6	2.2	83.2	16.8
	06年度調査結果	2766	18.7	47.9	13.7	2.7	17.1	2293	22.5	57.8	16.5	3.2	80.3	19.7
	05年度調査結果	3073	17.0	47.8	14.4	2.6	18.2	2514	20.8	58.4	17.6	3.1	79.2	20.8
	04年度調査結果	4708	14.4	47.6	19.1	4.0	14.8	4010	17.0	55.9	22.4	4.7	72.9	27.1
	03年度調査結果	4078	9.7	35.2	24.9	14.8	15.4	3449	11.5	41.6	29.4	17.5	53.1	46.9

【(北九州芸術劇場の)電話予約やチケットカウンターでの対応】

(单位:%)

		全体	Q3-5電話予約やチケットカウンターでの対応					「無回答」を除いた割合					満足層		不満足層	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足				
全体		2379	26.2	38.8	2.6	0.5	31.9	1619	38.5	57.0	3.8	0.7	95.6	4.4		
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	27.4	38.1	2.3	0.4	31.8	1144	40.1	55.9	3.3	0.6	96.1	3.9		
	音楽劇	172	27.3	31.4	0.6	0.0	40.7	102	46.1	52.9	1.0	0.0	99.0	1.0		
	ミュージカル・商業演劇	384	22.4	42.4	4.2	0.8	30.2	268	32.1	60.8	6.0	1.1	92.9	7.1		
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	20.0	44.8	4.8	1.0	29.5	74	28.4	63.5	6.8	1.4	91.9	8.1		
	ダンス・現代舞踊	40	27.5	47.5	2.5	0.0	22.5	31	35.5	61.3	3.2	0.0	96.8	3.2		
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
性別	男性	411	28.5	41.8	1.9	1.0	26.8	301	38.9	57.1	2.7	1.3	96.0	4.0		
	女性	1821	26.1	39.0	2.7	0.3	31.8	1242	38.2	57.2	4.0	0.5	95.5	4.5		
年齢層	18歳未満	108	39.8	41.7	0.9	0.0	17.6	89	48.3	50.6	1.1	0.0	98.9	1.1		
	18～29歳	411	34.3	37.2	1.9	1.0	25.5	306	46.1	50.0	2.6	1.3	96.1	3.9		
	30歳代	575	29.7	36.0	2.4	0.3	31.5	394	43.4	52.5	3.6	0.5	95.9	4.1		
	40歳代	458	24.7	40.2	2.8	0.7	31.7	313	36.1	58.8	4.2	1.0	94.9	5.1		
	50歳代	331	19.0	47.1	4.8	0.0	29.0	235	26.8	66.4	6.8	0.0	93.2	6.8		
	60歳以上	254	16.9	42.5	2.0	0.4	38.2	157	27.4	68.8	3.2	0.6	96.2	3.8		
チケットクラブ	加入	452	40.9	44.9	4.9	0.7	8.6	413	44.8	49.2	5.3	0.7	93.9	6.1		
	未加入	1738	23.0	38.1	2.1	0.4	36.4	1105	36.2	59.9	3.3	0.6	96.1	3.9		
鑑賞経験	今日が初めて	692	26.4	35.8	1.6	0.3	35.8	444	41.2	55.9	2.5	0.5	97.1	2.9		
	1～2回	321	21.8	39.6	2.2	0.3	36.1	205	34.1	62.0	3.4	0.5	96.1	3.9		
	3～5回	500	25.2	39.6	2.2	0.6	32.4	338	37.3	58.6	3.3	0.9	95.9	4.1		
	6～10回	306	26.5	45.8	3.3	0.0	24.5	231	35.1	60.6	4.3	0.0	95.7	4.3		
	11回以上	394	32.2	41.9	4.6	0.8	20.6	313	40.6	52.7	5.8	1.0	93.3	6.7		
参考	09年度調査結果	1692	27.9	38.5	2.8	0.3	30.5	1176	40.1	55.4	4.0	0.4	95.6	4.4		
	08年度調査結果	1732	26.6	38.6	3.2	0.5	31.1	1194	38.6	56.0	4.6	0.8	94.6	5.4		
	07年度調査結果	3033	26.9	41.9	4.1	1.1	26.1	2242	36.4	56.7	5.5	1.4	93.1	6.9		
	06年度調査結果	2766	24.4	45.8	5.0	1.0	23.9	2106	32.0	60.1	6.5	1.4	92.1	7.9		
	05年度調査結果	3073	25.3	43.5	4.6	1.0	25.7	2283	34.0	58.6	6.1	1.3	92.6	7.4		
	04年度調査結果	4708	22.4	46.4	5.8	1.3	24.1	3573	29.5	61.2	7.6	1.7	90.7	9.3		
	03年度調査結果	4078	14.1	46.3	10.3	5.0	24.2	3090	18.7	61.2	13.6	6.5	79.8	20.2		

【劇場係員の対応】

		全体	Q3-6劇場係員の対応					「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
ジャンル	全体	2379	47.5	41.7	1.6	0.1	9.1	2162	52.3	45.8	1.8	0.1	98.1	1.9
	小劇場・現代演劇	1678	49.2	41.7	1.3	0.0	7.9	1545	53.4	45.2	1.4	0.0	98.6	1.4
	音楽劇	172	51.2	31.4	1.7	0.0	15.7	145	60.7	37.2	2.1	0.0	97.9	2.1
	ミュージカル・商業演劇	384	39.6	46.1	2.9	0.5	10.9	342	44.4	51.8	3.2	0.6	96.2	3.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	42.9	41.0	2.9	1.0	12.4	92	48.9	46.7	3.3	1.1	95.7	4.3
	ダンス・現代舞踊	40	50.0	45.0	0.0	0.0	5.0	38	52.6	47.4	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	50.4	39.2	3.2	0.0	7.3	381	54.3	42.3	3.4	0.0	96.6	3.4
	女性	1821	47.9	43.1	1.2	0.1	7.7	1680	51.9	46.7	1.3	0.1	98.6	1.4
年齢層	18歳未満	108	54.6	31.5	1.9	0.9	11.1	96	61.5	35.4	2.1	1.0	96.9	3.1
	18～29歳	411	60.8	33.3	1.2	0.2	4.4	393	63.6	34.9	1.3	0.3	98.5	1.5
	30歳代	575	54.4	38.8	1.4	0.0	5.4	544	57.5	41.0	1.5	0.0	98.5	1.5
	40歳代	458	47.8	46.1	1.5	0.0	4.6	437	50.1	48.3	1.6	0.0	98.4	1.6
	50歳代	331	36.0	53.8	2.4	0.0	7.9	305	39.0	58.4	2.6	0.0	97.4	2.6
	60歳以上	254	33.9	45.7	2.0	0.0	18.5	207	41.5	56.0	2.4	0.0	97.6	2.4
チケットクラブ	加入	452	48.2	46.5	1.1	0.0	4.2	433	50.3	48.5	1.2	0.0	98.8	1.2
	未加入	1738	49.0	41.1	1.7	0.1	8.1	1597	53.3	44.7	1.9	0.1	98.0	2.0
鑑賞経験	今日が初めて	692	54.2	38.6	1.2	0.1	5.9	651	57.6	41.0	1.2	0.2	98.6	1.4
	1～2回	321	46.7	39.9	2.5	0.3	10.6	287	52.3	44.6	2.8	0.3	96.9	3.1
	3～5回	500	47.2	43.0	1.4	0.0	8.4	458	51.5	46.9	1.5	0.0	98.5	1.5
	6～10回	306	43.5	49.0	1.3	0.0	6.2	287	46.3	52.3	1.4	0.0	98.6	1.4
	11回以上	394	45.2	45.2	2.0	0.0	7.6	364	48.9	48.9	2.2	0.0	97.8	2.2
参考	09年度調査結果	1692	44.1	43.5	1.7	0.2	10.5	1514	49.3	48.6	1.8	0.3	97.9	2.1
	08年度調査結果	1732	46.5	40.6	2.3	0.6	10.0	1558	51.7	45.1	2.6	0.6	96.8	3.2
	07年度調査結果	3033	46.5	41.7	2.4	0.5	9.0	2761	51.1	45.8	2.6	0.5	96.9	3.1
	06年度調査結果	2766	43.6	44.6	2.8	0.4	8.6	2527	47.7	48.8	3.1	0.4	96.5	3.5
	05年度調査結果	3073	44.7	42.8	1.7	0.4	10.4	2752	49.9	47.7	1.9	0.4	97.7	2.3
	04年度調査結果	4708	44.1	46.2	2.2	0.3	7.2	4371	47.5	49.8	2.4	0.3	97.3	2.7
	03年度調査結果	4078	26.7	54.2	6.0	1.1	12.1	3585	30.3	61.6	6.8	1.3	91.9	8.1

【劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ】

								「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
		全体	Q3-7劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ					回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答							
全体		2379	34.9	45.8	9.6	0.9	8.8	2169	38.3	50.2	10.6	1.0	88.5	11.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	37.1	45.6	9.2	0.8	7.4	1554	40.0	49.2	9.9	0.8	89.3	10.7
	音楽劇	172	33.1	42.4	6.4	0.6	17.4	142	40.1	51.4	7.7	0.7	91.5	8.5
	ミュージカル・商業演劇	384	28.9	48.4	10.7	1.0	10.9	342	32.5	54.4	12.0	1.2	86.8	13.2
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	19.0	47.6	20.0	1.9	11.4	93	21.5	53.8	22.6	2.2	75.3	24.7
	ダンス・現代舞踊	40	50.0	37.5	5.0	2.5	5.0	38	52.6	39.5	5.3	2.6	92.1	7.9
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	34.3	48.4	9.0	1.0	7.3	381	37.0	52.2	9.7	1.0	89.2	10.8
	女性	1821	35.6	46.1	9.9	0.8	7.6	1683	38.6	49.9	10.7	0.8	88.5	11.5
年齢層	18歳未満	108	45.4	36.1	5.6	0.9	12.0	95	51.6	41.1	6.3	1.1	92.6	7.4
	18～29歳	411	47.7	41.8	6.1	0.0	4.4	393	49.9	43.8	6.4	0.0	93.6	6.4
	30歳代	575	40.5	44.7	8.5	0.7	5.6	543	42.9	47.3	9.0	0.7	90.2	9.8
	40歳代	458	34.1	52.4	9.4	0.4	3.7	441	35.4	54.4	9.8	0.5	89.8	10.2
	50歳代	331	21.8	53.2	14.5	1.8	8.8	302	23.8	58.3	15.9	2.0	82.1	17.9
	60歳以上	254	20.1	46.9	13.8	2.0	17.3	210	24.3	56.7	16.7	2.4	81.0	19.0
チケットクラブ	はい	452	37.8	51.5	6.2	0.9	3.5	436	39.2	53.4	6.4	0.9	92.7	7.3
	いいえ	1738	34.9	45.5	10.8	0.7	8.1	1598	37.9	49.5	11.8	0.8	87.4	12.6
鑑賞経験	今日が初めて	692	38.9	43.5	10.4	1.0	6.2	649	41.4	46.4	11.1	1.1	87.8	12.2
	1～2回	321	34.9	41.4	11.2	0.9	11.5	284	39.4	46.8	12.7	1.1	86.3	13.7
	3～5回	500	32.6	48.0	10.2	1.0	8.2	459	35.5	52.3	11.1	1.1	87.8	12.2
	6～10回	306	34.0	52.3	8.5	0.3	4.9	291	35.7	55.0	8.9	0.3	90.7	9.3
	11回以上	394	34.5	50.5	7.9	0.5	6.6	368	37.0	54.1	8.4	0.5	91.0	9.0
参考	09年度調査結果	1692	30.4	48.9	9.1	1.7	9.9	1524	33.7	54.3	10.1	1.9	88.0	12.0
	08年度調査結果	1732	31.5	47.7	9.5	1.8	9.5	1568	34.8	52.7	10.5	2.0	87.4	12.6
	07年度調査結果	3033	28.4	46.3	13.8	2.8	8.7	2768	31.1	50.7	15.1	3.0	81.8	18.2
	06年度調査結果	2766	24.6	47.1	16.4	3.0	8.8	2522	27.0	51.7	18.0	3.3	78.7	21.3
	05年度調査結果	3073	24.2	45.0	17.5	3.7	9.6	2778	26.8	49.8	19.4	4.1	76.6	23.4
	04年度調査結果	4708	22.3	46.6	20.3	4.1	6.6	4396	23.9	49.9	21.7	4.4	73.9	26.1
	03年度調査結果	4078	17.4	44.3	22.1	5.5	10.7	3643	19.5	49.6	24.7	6.2	69.1	30.9

【劇場やロビーのデザイン、雰囲気】

(単位: %)

		全体	Q3-8劇場やロビーのデザイン、雰囲気					「無回答」を除いた割合						
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
全体		2379	42.2	45.3	3.4	0.3	8.8	2169	46.2	49.7	3.8	0.3	95.9	4.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	45.2	44.3	3.2	0.2	7.1	1559	48.6	47.7	3.5	0.3	96.3	3.7
	音楽劇	172	38.4	40.7	2.3	0.0	18.6	140	47.1	50.0	2.9	0.0	97.1	2.9
	ミュージカル・商業演劇	384	35.2	47.4	5.2	0.8	11.5	340	39.7	53.5	5.9	0.9	93.2	6.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	20.0	62.9	3.8	0.0	13.3	91	23.1	72.5	4.4	0.0	95.6	4.4
	ダンス・現代舞踊	40	57.5	40.0	0.0	0.0	2.5	39	59.0	41.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	42.8	48.2	1.2	0.5	7.3	381	46.2	52.0	1.3	0.5	98.2	1.8
	女性	1821	43.2	45.1	4.0	0.3	7.5	1685	46.7	48.7	4.3	0.3	95.4	4.6
年齢層	18歳未満	108	53.7	32.4	2.8	0.0	11.1	96	60.4	36.5	3.1	0.0	96.9	3.1
	18～29歳	411	61.8	33.1	1.7	0.0	3.4	397	64.0	34.3	1.8	0.0	98.2	1.8
	30歳代	575	51.8	40.3	2.4	0.3	5.0	546	54.6	42.5	2.6	0.4	97.1	2.9
	40歳代	458	42.1	50.4	3.7	0.2	3.5	442	43.7	52.3	3.8	0.2	95.9	4.1
	50歳代	331	23.6	62.2	4.5	0.9	8.8	302	25.8	68.2	5.0	1.0	94.0	6.0
	60歳以上	254	18.9	55.5	5.9	0.4	19.3	205	23.4	68.8	7.3	0.5	92.2	7.8
チケットクラブ	加入	452	45.4	48.2	2.0	0.7	3.8	435	47.1	50.1	2.1	0.7	97.2	2.8
	未加入	1738	43.1	45.3	3.7	0.2	7.7	1605	46.7	49.1	4.0	0.2	95.8	4.2
鑑賞経験	今日が初めて	692	49.1	42.1	3.2	0.1	5.5	654	52.0	44.5	3.4	0.2	96.5	3.5
	1～2回	321	43.0	42.4	2.5	0.3	11.8	283	48.8	48.1	2.8	0.4	96.8	3.2
	3～5回	500	41.2	48.0	3.0	0.2	7.6	462	44.6	51.9	3.2	0.2	96.5	3.5
	6～10回	306	38.6	50.0	5.2	0.3	5.9	288	41.0	53.1	5.6	0.3	94.1	5.9
	11回以上	394	38.8	50.0	3.6	0.8	6.9	367	41.7	53.7	3.8	0.8	95.4	4.6

参考	09年度調査結果	1692	39.7	46.4	3.4	0.3	10.2	1519	44.2	51.7	3.8	0.3	95.9	4.1
	08年度調査結果	1732	38.3	46.6	4.3	0.6	10.2	1555	42.6	51.9	4.8	0.6	94.5	5.5
	07年度調査結果	3033	36.2	48.7	4.5	0.7	9.9	2733	40.2	54.1	5.0	0.8	94.3	5.7
	06年度調査結果	2766	31.9	52.3	5.5	0.5	9.7	2497	35.3	58.0	6.1	0.6	93.3	6.7
	05年度調査結果	3073	31.4	51.3	5.5	0.7	11.0	2735	35.3	57.6	6.2	0.8	92.9	7.1
	04年度調査結果	4708	31.4	52.6	7.3	1.0	7.6	4348	34.0	57.0	7.9	1.1	91.0	9.0
	03年度調査結果	4078	26.5	51.7	9.1	1.2	11.5	3608	30.0	58.5	10.3	1.3	88.4	11.6

【劇場ロビーの飲食サービス】

(単位: %)

		全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス					「無回答」を除いた割合						
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
全体		2379	15.8	48.4	9.5	1.4	25.0	1784	21.0	64.5	12.6	1.8	85.5	14.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	17.0	49.5	8.1	1.5	24.0	1276	22.3	65.0	10.7	2.0	87.4	12.6
	音楽劇	172	13.4	35.5	5.2	1.2	44.8	95	24.2	64.2	9.5	2.1	88.4	11.6
	ミュージカル・商業演劇	384	12.8	49.7	16.9	1.3	19.3	310	15.8	61.6	21.0	1.6	77.4	22.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	8.6	46.7	11.4	1.0	32.4	71	12.7	69.0	16.9	1.4	81.7	18.3
	ダンス・現代舞踊	40	22.5	50.0	7.5	0.0	20.0	32	28.1	62.5	9.4	0.0	90.6	9.4
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	13.4	51.6	9.2	1.9	23.8	313	17.6	67.7	12.1	2.6	85.3	14.7
	女性	1821	16.6	49.5	9.5	1.3	23.1	1400	21.6	64.4	12.4	1.6	86.0	14.0
年齢層	18歳未満	108	25.0	52.8	9.3	1.9	11.1	96	28.1	59.4	10.4	2.1	87.5	12.5
	18～29歳	411	23.1	49.6	5.8	1.7	19.7	330	28.8	61.8	7.3	2.1	90.6	9.4
	30歳代	575	18.6	49.2	11.7	0.9	19.7	462	23.2	61.3	14.5	1.1	84.4	15.6
	40歳代	458	16.6	52.6	9.4	0.7	20.7	363	20.9	66.4	11.8	0.8	87.3	12.7
	50歳代	331	8.2	52.3	12.7	3.0	23.9	252	10.7	68.7	16.7	4.0	79.4	20.6
	60歳以上	254	7.1	44.9	8.3	1.2	38.6	156	11.5	73.1	13.5	1.9	84.6	15.4
チケットクラブ	加入	452	18.8	57.7	8.2	1.8	13.5	391	21.7	66.8	9.5	2.0	88.5	11.5
	未加入	1738	15.7	47.8	9.8	1.3	25.5	1295	21.0	64.2	13.1	1.7	85.2	14.8
鑑賞経験	今日が初めて	692	18.9	44.7	8.5	1.3	26.6	508	25.8	60.8	11.6	1.8	86.6	13.4
	1～2回	321	12.8	52.0	8.7	0.6	25.9	238	17.2	70.2	11.8	0.8	87.4	12.6
	3～5回	500	15.6	49.8	9.4	1.0	24.2	379	20.6	65.7	12.4	1.3	86.3	13.7
	6～10回	306	16.0	52.3	11.8	2.3	17.6	252	19.4	63.5	14.3	2.8	82.9	17.1
	11回以上	394	14.7	55.8	9.9	2.0	17.5	325	17.8	67.7	12.0	2.5	85.5	14.5
参考	09年度調査結果	1692	14.8	47.6	9.5	0.8	27.3	1230	20.4	65.4	13.1	1.1	85.9	14.1
	08年度調査結果	1732	14.4	47.1	11.2	1.5	25.8	1285	19.5	63.4	15.1	2.0	82.9	17.1
	07年度調査結果	3033	15.5	48.4	14.3	1.6	20.2	2421	19.4	60.6	18.0	2.0	80.0	20.0
	06年度調査結果	2766	11.4	51.0	16.7	1.9	19.1	2239	14.0	63.0	20.7	2.3	77.0	23.0
	05年度調査結果	3073	12.6	49.2	14.6	1.7	22.0	2398	16.1	63.0	18.8	2.1	79.1	20.9
	04年度調査結果	4708	11.6	52.1	16.1	2.3	17.8	3868	14.1	63.4	19.6	2.8	77.6	22.4
	03年度調査結果	4078	9.5	46.3	17.5	2.9	23.7	3112	12.5	60.7	22.9	3.9	73.2	26.8

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が97.0%、「たいへん満足」の割合は33.2%である。

[来場公演のジャンル別]

- ・満足層の割合は顕著な差はないが、「たいへん満足」の割合は、ジャンルによってばらつきがある。これは、他の基本分析軸でも同様の傾向である。
- ・「たいへん満足」の割合が高いのはダンス・現代舞踊(40.0%)である。

[性別]

- ・満足度では、男女で顕著な差はない。

[年齢別]

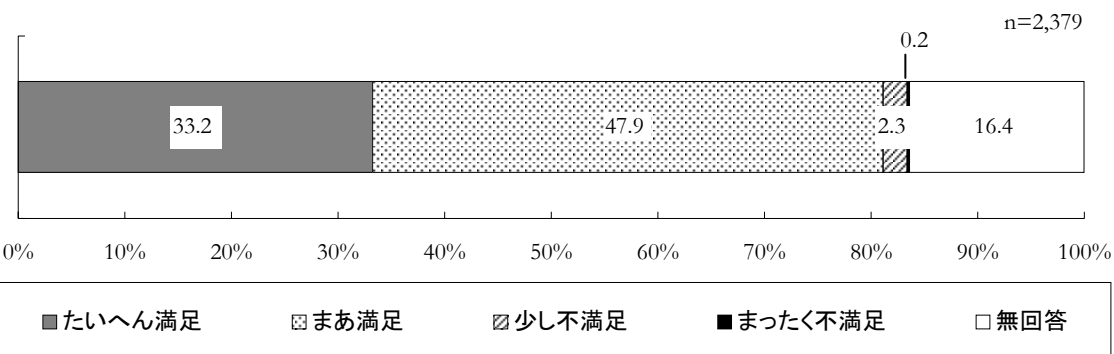
- ・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高くなるほど低くなる傾向がある。「たいへん満足」への回答割合は、29歳までは高く、30歳代以上で低くなる傾向が顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入の場合で、「たいへん満足」の割合が若干高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・鑑賞頻度で顕著な差はないが、11回以上のグループで、「たいへん満足」への回答割合が高い(38.6%)。



		全体	Q4総合的な満足度					「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層
全体		2379	33.2	47.9	2.3	0.2	16.4	1989	39.8	57.3	2.7	0.3	97.0	3.0
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	35.4	46.7	2.1	0.1	15.6	1416	41.9	55.4	2.5	0.1	97.3	2.7
	音楽劇	172	27.9	44.8	1.2	0.0	26.2	127	37.8	60.6	1.6	0.0	98.4	1.6
	ミュージカル・商業演劇	384	30.5	49.2	2.9	0.8	16.7	320	36.6	59.1	3.4	0.9	95.6	4.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	15.2	69.5	3.8	0.0	11.4	93	17.2	78.5	4.3	0.0	95.7	4.3
	ダンス・現代舞踊	40	40.0	40.0	2.5	0.0	17.5	33	48.5	48.5	3.0	0.0	97.0	3.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	32.8	47.7	3.2	0.2	16.1	345	39.1	56.8	3.8	0.3	95.9	4.1
	女性	1821	34.2	49.4	1.9	0.2	14.3	1561	39.9	57.7	2.2	0.2	97.6	2.4
年齢層	18歳未満	108	37.0	29.6	2.8	0.0	30.6	75	53.3	42.7	4.0	0.0	96.0	4.0
	18～29歳	411	42.8	42.8	0.5	0.0	13.9	354	49.7	49.7	0.6	0.0	99.4	0.6
	30歳代	575	39.1	47.3	1.6	0.0	12.0	506	44.5	53.8	1.8	0.0	98.2	1.8
	40歳代	458	36.9	48.5	2.0	0.4	12.2	402	42.0	55.2	2.2	0.5	97.3	2.7
	50歳代	331	24.5	58.9	3.6	0.0	13.0	288	28.1	67.7	4.2	0.0	95.8	4.2
	60歳以上	254	16.1	63.0	3.5	0.8	16.5	212	19.3	75.5	4.2	0.9	94.8	5.2
チケットクラブ	加入	452	38.3	52.0	2.7	0.0	7.1	420	41.2	56.0	2.9	0.0	97.1	2.9
	未加入	1738	33.3	48.2	2.1	0.2	16.2	1457	39.7	57.5	2.5	0.2	97.3	2.7
鑑賞経験	今日が初めて	692	34.5	46.5	1.3	0.0	17.6	570	41.9	56.5	1.6	0.0	98.4	1.6
	1～2回	321	33.0	49.2	1.2	0.3	16.2	269	39.4	58.7	1.5	0.4	98.1	1.9
	3～5回	500	30.4	51.0	3.0	0.4	15.2	424	35.8	60.1	3.5	0.5	96.0	4.0
	6～10回	306	34.3	52.3	2.6	0.3	10.5	274	38.3	58.4	2.9	0.4	96.7	3.3
	11回以上	394	38.6	48.7	3.8	0.0	8.9	359	42.3	53.5	4.2	0.0	95.8	4.2

参考	09年度調査結果	1692	31.3	49.3	2.4	0.1	16.9	1406	37.6	59.4	2.9	0.1	97.0	3.0
	08年度調査結果	1732	30.7	53.0	2.9	0.4	13.0	1507	35.3	60.9	3.3	0.5	96.2	3.8
	07年度調査結果	3033	25.4	55.6	4.4	0.3	14.3	2600	29.6	64.9	5.1	0.4	94.5	5.5
	06年度調査結果	2766	21.0	59.5	4.6	0.3	14.6	2362	24.6	69.6	5.3	0.4	94.3	5.7
	05年度調査結果	3073	20.1	58.0	5.7	0.6	15.6	2594	23.8	68.7	6.8	0.7	92.6	7.4
	04年度調査結果	4708	19.2	60.9	6.2	0.7	13.1	4092	22.0	70.0	7.2	0.8	92.1	7.9
	03年度調査結果	4078	19.7	57.5	6.5	0.5	15.8	3434	23.4	68.2	7.7	0.6	91.6	8.4

「観る」、「創る」、「育つ」いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は90%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は99.1%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も79.5%と高い割合を占める。

[来場公演のジャンル別]

- ・「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が高い。
- ・「創る」、「育つ」:ミュージカル・商業演劇、古典芸能以外のジャンルで「ぜひやってほしい」の割合が半数以上となっている。ミュージカル・商業演劇では、他のジャンルに比べて、「ぜひやってほしい」の割合は低い、「ぜひやってほしい」と「まあやってほしい」の差はわずかである。

[性別]

- ・賛同する割合では、男女で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合は、「観る」については女性で、「創る」と「育つ」については男性で高い。

[年齢別]

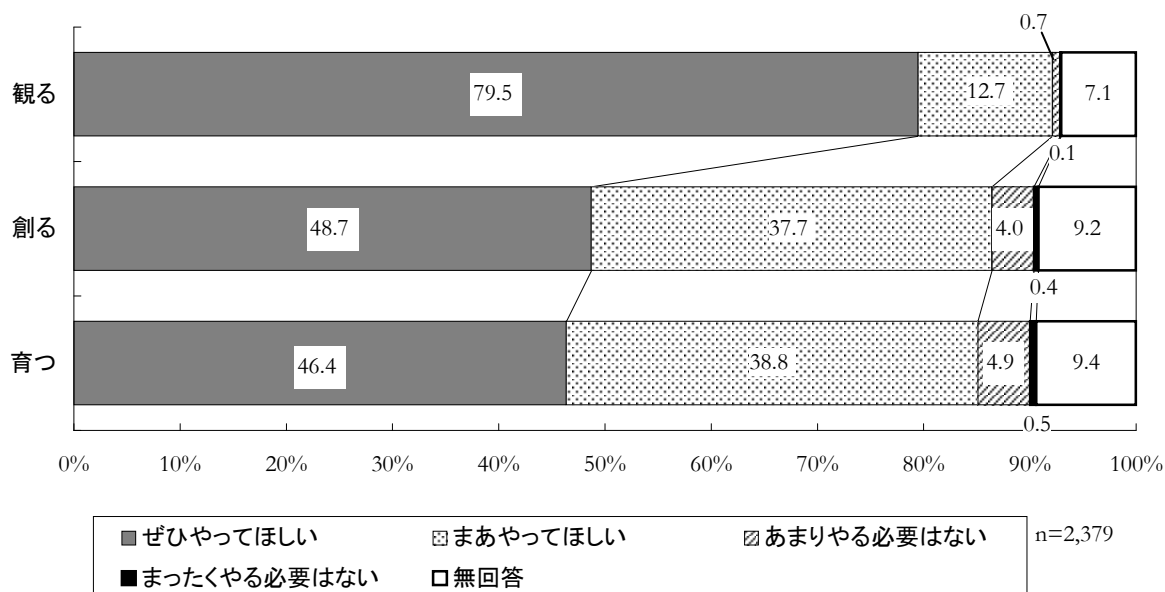
- ・「観る」:いずれの年代でも「ぜひやってほしい」の割合が高い。
- ・「創る」:18歳未満、18～29歳以下、30歳代で「ぜひやってほしい」への割合が高い。
- ・「育つ」:18歳未満、18～29歳以下で「ぜひやってほしい」への割合が高い。18歳未満は61.1%と非常に高い。
- ・60歳以上では、「観る」、「創る」、「育つ」いずれの項目についても、無回答の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入・未加入で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合が、「観る」と「創る」については加入で、「育つ」については未加入で若干高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・「観る」:鑑賞経験が多くなるほど「ぜひやってほしい」の割合が高い。
- ・「創る」:鑑賞経験が11回以上で「ぜひやってほしい」が57.1%と、それ以下の鑑賞頻度に比べて顕著に高い。
- ・「育つ」:鑑賞頻度で顕著な差はみられない。



【観る】

		全体	Q5-1運営方針: 観る					「無回答」を除いた割合					(単位: %)	
			ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	無回答	回答 数	ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	賛同 する割 合	賛同 しない割 合
全体		2379	79.5	12.7	0.7	0.1	7.1	2211	85.5	13.6	0.8	0.1	99.1	0.9
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	80.5	12.4	0.5	0.1	6.5	1569	86.1	13.3	0.6	0.1	99.4	0.6
	音楽劇	172	63.4	17.4	2.3	0.0	16.9	143	76.2	21.0	2.8	0.0	97.2	2.8
	ミュージカル・商業演劇	384	85.4	8.3	0.5	0.3	5.5	363	90.4	8.8	0.6	0.3	99.2	0.8
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	64.8	25.7	1.0	0.0	8.6	96	70.8	28.1	1.0	0.0	99.0	1.0
	ダンス・現代舞踊	40	87.5	10.0	2.5	0.0	0.0	40	87.5	10.0	2.5	0.0	97.5	2.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	73.0	19.2	1.9	0.2	5.6	388	77.3	20.4	2.1	0.3	97.7	2.3
	女性	1821	83.4	11.3	0.4	0.1	4.8	1733	87.7	11.8	0.5	0.1	99.5	0.5
年齢層	18歳未満	108	62.0	24.1	0.9	0.0	13.0	94	71.3	27.7	1.1	0.0	98.9	1.1
	18～29歳	411	79.6	13.1	0.7	0.2	6.3	385	84.9	14.0	0.8	0.3	99.0	1.0
	30歳代	575	86.4	9.6	0.9	0.0	3.1	557	89.2	9.9	0.9	0.0	99.1	0.9
	40歳代	458	84.1	13.8	0.2	0.0	2.0	449	85.7	14.0	0.2	0.0	99.8	0.2
	50歳代	331	83.4	11.2	0.0	0.3	5.1	314	87.9	11.8	0.0	0.3	99.7	0.3
	60歳以上	254	74.4	15.4	2.4	0.0	7.9	234	80.8	16.7	2.6	0.0	97.4	2.6
チケット クラブ	加入	452	91.6	6.4	0.7	0.0	1.3	446	92.8	6.5	0.7	0.0	99.3	0.7
	未加入	1738	79.2	14.2	0.7	0.1	5.7	1639	84.0	15.1	0.8	0.1	99.1	0.9
鑑賞 経験	今日が初めて	692	76.4	16.3	0.6	0.1	6.5	647	81.8	17.5	0.6	0.2	99.2	0.8
	1～2回	321	80.7	13.4	1.2	0.0	4.7	306	84.6	14.1	1.3	0.0	98.7	1.3
	3～5回	500	81.4	12.2	0.8	0.0	5.6	472	86.2	12.9	0.8	0.0	99.2	0.8
	6～10回	306	85.3	10.5	1.0	0.0	3.3	296	88.2	10.8	1.0	0.0	99.0	1.0
	11回以上	394	88.3	8.9	0.3	0.3	2.3	385	90.4	9.1	0.3	0.3	99.5	0.5
参考	09年度調査結果	1692	80.4	12.5	0.5	0.1	6.5	1582	86.0	13.3	0.6	0.1	99.4	0.6
	08年度調査結果	1732	80.5	11.8	0.5	0.1	7.0	1611	86.6	12.7	0.6	0.1	99.3	0.7
	07年度調査結果	3033	79.8	13.1	0.5	0.3	6.4	2840	85.2	13.9	0.5	0.3	99.2	0.8
	06年度調査結果	2766	80.5	12.3	0.9	0.3	5.9	2602	85.6	13.1	0.9	0.3	98.7	1.3
	05年度調査結果	3073	82.2	11.3	0.6	0.1	5.8	2894	87.2	12.0	0.6	0.1	99.3	0.7
	04年度調査結果	4708	83.3	12.1	0.6	0.1	3.9	4523	86.7	12.6	0.6	0.1	99.2	0.8
	03年度調査結果	4078	81.8	9.8	0.7	0.1	7.7	3764	88.6	10.6	0.7	0.1	99.2	0.8

* 賛同する割合は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の計、

不満足層は、「あまりやる必要はない」+「まったくやる必要はない」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合は賛同する割合と必ずしも一致せず、「あまりやる必要はない」+「まったくやる必要はない」の割合は賛同しない割合と、必ずしも一致しない。

【創る】

(单位:%)

		調査 数(n)	Q5-2運営方針・創る					「無回答」を除いた割合						
			ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	無回答	回答 数	ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	賛同す る割合	賛同し ない割 合
全体		2379	48.7	37.7	4.0	0.4	9.2	2160	53.7	41.5	4.4	0.5	95.2	4.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	49.7	38.1	3.3	0.3	8.6	1533	54.4	41.7	3.6	0.3	96.1	3.9
	音楽劇	172	51.2	28.5	2.9	0.0	17.4	142	62.0	34.5	3.5	0.0	96.5	3.5
	ミュージカル・商業演劇	384	42.7	40.4	7.3	1.3	8.3	352	46.6	44.0	8.0	1.4	90.6	9.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	41.0	43.8	4.8	0.0	10.5	94	45.7	48.9	5.3	0.0	94.7	5.3
	ダンス・現代舞踊	40	75.0	20.0	2.5	0.0	2.5	39	76.9	20.5	2.6	0.0	97.4	2.6
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	55.0	34.8	3.4	0.2	6.6	384	58.9	37.2	3.6	0.3	96.1	3.9
	女性	1821	48.5	39.7	4.3	0.5	6.9	1695	52.2	42.7	4.7	0.5	94.8	5.2
年齢層	18歳未満	108	59.3	26.9	1.9	0.0	12.0	95	67.4	30.5	2.1	0.0	97.9	2.1
	18～29歳	411	56.4	32.6	3.6	0.5	6.8	383	60.6	35.0	3.9	0.5	95.6	4.4
	30歳代	575	51.5	39.8	4.5	0.3	3.8	553	53.5	41.4	4.7	0.4	94.9	5.1
	40歳代	458	48.5	43.7	4.6	0.0	3.3	443	50.1	45.1	4.7	0.0	95.3	4.7
	50歳代	331	47.1	39.6	3.9	1.5	7.9	305	51.1	43.0	4.3	1.6	94.1	5.9
	60歳以上	254	37.4	43.7	3.9	0.0	15.0	216	44.0	51.4	4.6	0.0	95.4	4.6
チケット クラブ	加入	452	54.9	38.5	3.8	0.2	2.7	440	56.4	39.5	3.9	0.2	95.9	4.1
	未加入	1738	48.7	38.9	4.2	0.5	7.7	1604	52.7	42.1	4.6	0.6	94.9	5.1
鑑賞 経験	今日が初めて	692	49.9	38.9	3.0	0.1	8.1	636	54.2	42.3	3.3	0.2	96.5	3.5
	1～2回	321	46.1	41.4	4.7	0.0	7.8	296	50.0	44.9	5.1	0.0	94.9	5.1
	3～5回	500	47.2	38.0	5.6	1.0	8.2	459	51.4	41.4	6.1	1.1	92.8	7.2
	6～10回	306	47.1	42.5	4.9	0.3	5.2	290	49.7	44.8	5.2	0.3	94.5	5.5
	11回以上	394	57.1	35.3	3.6	0.8	3.3	381	59.1	36.5	3.7	0.8	95.5	4.5
参考	09年度調査結果	1692	50.1	36.8	3.7	0.3	9.1	1538	55.1	40.5	4.1	0.3	95.6	4.4
	08年度調査結果	1732	47.9	37.3	4.4	0.5	9.8	1562	53.1	41.4	4.9	0.6	94.5	5.5
	07年度調査結果	3033	49.0	36.5	5.1	0.6	8.8	2765	53.8	40.0	5.6	0.6	93.8	6.2
	06年度調査結果	2766	47.3	38.9	5.0	0.6	8.2	2540	51.5	42.4	5.5	0.6	93.9	6.1
	05年度調査結果	3073	48.6	36.8	5.2	0.3	9.1	2794	53.4	40.5	5.7	0.4	94.0	6.0
	04年度調査結果	4708	48.3	39.5	5.4	0.7	6.2	4418	51.5	42.1	5.7	0.7	93.5	6.5
	03年度調査結果	4078	45.0	37.8	4.5	0.4	12.3	3575	51.3	43.1	5.2	0.4	94.4	5.6

【育つ】

(单位:%)

		調査 数(n)	Q5-3運営方針:育つ				
			ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い	無回答
全体		2379	46.4	38.8	4.9	0.5	9.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	46.3	40.3	4.4	0.4	8.7
	音楽劇	172	55.8	24.4	1.7	0.6	17.4
	ミュージカル・商業演劇	384	39.6	41.9	7.8	1.6	9.1
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	44.8	35.2	9.5	0.0	10.5
	ダンス・現代舞踊	40	77.5	15.0	2.5	0.0	5.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	49.9	38.2	5.1	0.5	6.3
	女性	1821	46.7	40.3	5.2	0.6	7.2
年齢層	18歳未満	108	61.1	19.4	8.3	0.0	11.1
	18～29歳	411	54.3	32.6	5.6	0.7	6.8
	30歳代	575	45.2	44.3	6.4	0.0	4.0
	40歳代	458	46.3	45.0	4.1	0.7	3.9
	50歳代	331	42.9	44.7	2.7	1.5	8.2
	60歳以上	254	40.9	39.4	4.7	0.0	15.0
チケット クラブ	加入	452	44.5	45.8	6.0	0.7	3.1
	未加入	1738	48.2	38.6	4.9	0.6	7.7
鑑賞経験	今日が初めて	692	47.7	39.5	4.9	0.3	7.7
	1～2回	321	51.1	33.6	6.5	0.0	8.7
	3～5回	500	43.2	42.8	4.8	1.6	7.6
	6～10回	306	47.1	39.9	6.5	0.3	6.2
	11回以上	394	49.0	42.4	4.1	0.5	4.1

「無回答」を除いた割合						賛同する割合	賛同しない割合
回答 数	ぜひ やって ほしい	まあ やって ほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い			
2155	51.2	42.8	5.4	0.6	94.0	6.0	
1532	50.7	44.1	4.8	0.4	94.8	5.2	
142	67.6	29.6	2.1	0.7	97.2	2.8	
349	43.6	46.1	8.6	1.7	89.7	10.3	
94	50.0	39.4	10.6	0.0	89.4	10.6	
38	81.6	15.8	2.6	0.0	97.4	2.6	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
385	53.2	40.8	5.5	0.5	94.0	6.0	
1689	50.3	43.5	5.6	0.7	93.8	6.2	
96	68.8	21.9	9.4	0.0	90.6	9.4	
383	58.2	35.0	6.0	0.8	93.2	6.8	
552	47.1	46.2	6.7	0.0	93.3	6.7	
440	48.2	46.8	4.3	0.7	95.0	5.0	
304	46.7	48.7	3.0	1.6	95.4	4.6	
216	48.1	46.3	5.6	0.0	94.4	5.6	
438	45.9	47.3	6.2	0.7	93.2	6.8	
1604	52.2	41.8	5.3	0.6	94.1	5.9	
639	51.6	42.7	5.3	0.3	94.4	5.6	
293	56.0	36.9	7.2	0.0	92.8	7.2	
462	46.8	46.3	5.2	1.7	93.1	6.9	
287	50.2	42.5	7.0	0.3	92.7	7.3	
378	51.1	44.2	4.2	0.5	95.2	4.8	

参考	09年度調査結果	1692	47.8	37.3	5.1	0.6	9.2	1537	52.6	41.1	5.7	0.7	93.7	6.3
	08年度調査結果	1732	48.0	35.9	5.6	0.8	9.8	1563	53.2	39.7	6.2	0.9	92.9	7.1
	07年度調査結果	3033	47.2	37.4	5.8	0.7	8.9	2763	51.8	41.0	6.4	0.7	92.9	7.1
	06年度調査結果	2766	47.7	37.6	5.6	0.6	8.5	2531	52.1	41.1	6.1	0.7	93.2	6.8
	05年度調査結果	3073	48.6	36.1	5.7	0.4	9.3	2788	53.5	39.8	6.2	0.5	93.3	6.7
	04年度調査結果	4708	50.3	36.8	5.6	0.6	6.8	4387	53.9	39.5	6.0	0.6	93.4	6.6
	03年度調査結果	4078	45.8	35.6	5.4	0.7	12.6	3564	52.4	40.7	6.2	0.8	93.1	6.9

3 日頃の鑑賞活動

コンサートや演劇に出かける頻度については、「年に1～2回程度」が23.7%と最も割合が高く、ほぼ同じ割合で「年に3～4回程度」(22.6%)、次いで「年に5～9回程度」(15.2%)と続いており、月に1回以上出かける割合は20.8%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。

〔来場公演のジャンル別〕

- ・小劇場・現代演劇では、月1回以上出かける割合が22.8%とジャンル中最も高く、日頃の鑑賞頻度が高い人が多い。
- ・ダンス・現代舞踊、ミュージカル・商業演劇も月1回以上の割合は高い(ダンス・現代舞踊:22.5%、ミュージカル・商業演劇:17.2%)。
- ・古典芸能は「年に3～4回程度」の割合が最も多い。

〔性別〕

- ・男性では「年に1～2回程度」の割合が最も高く、女性では「年に1～2回程度」と「年に3～4回程度」が同割合で最も高いが、月1回以上出かける割合をみると、男性は23.4%、女性は21.8%と、男性の割合が高い。

〔年齢別〕

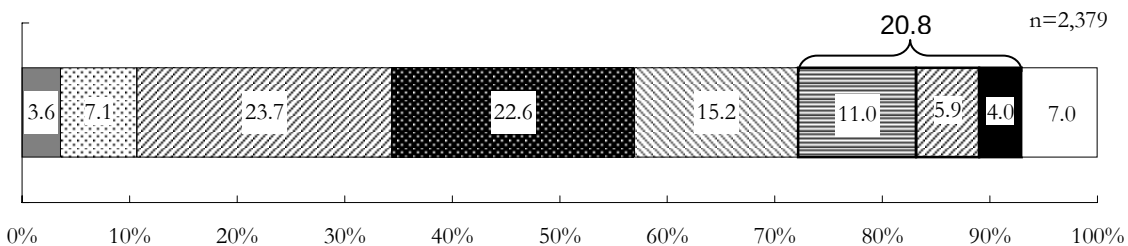
- ・18歳未満では「年に1～2回程度」の割合が最も高く、他の年代に比べて、「今日が初めて」「ほとんど行かない」の割合も高い。
- ・18歳以上では、鑑賞経験は幅広く分布している。
- ・月1回以上の割合が最も高いのは40歳代(24.2%)であるが、30歳代、50歳代、60歳以上いずれも、月1回以上の割合は20%を超えている。

〔チケットクラブへの加入・未加入別〕

- ・加入の場合は「月に1回程度」(23.0%)、未加入の場合は「年に1～2回」(29.0%)の割合が最も高い。また加入の場合は「月に1回以上」の割合が約半数(49.6%)を占めており、日頃からコンサートや演劇に出かける頻度がかかなり高いことがわかる。

〔北九州芸術劇場での鑑賞経験別〕

- ・北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。
- ・北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、「月に1回程度」の割合が最も高く26.1%、次いで「年に5～9回程度」の割合が24.9%であり、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.4%を占める。
- ・北九州芸術劇場での鑑賞が初めて、あるいは1～2回のグループでは、「年に1～2回程度」の割合が最も高く、「今日が初めて」や「ほとんど行かない」へも回答はある。



■ 今日が初めて □ ほとんど行かない ▨ 年に1～2回程度 ■ 年に3～4回程度 ▩ 年に5～9回程度
 ▤ 月に1回程度 ▥ 月に2回程度 ■ 月に3回以上 □ 無回答

		調査数 (n)	Q7コンサートや演劇に出かける頻度									月1回以上 の割合
			今日が初 めて	ほとん ど行か ない	年に1～2 回程度	年に3～4 回程度	年に5～9 回程度	月に1回 程度	月に2回 程度	月に3回 以上	無回答	
全体		2379	3.6	7.1	23.7	22.6	15.2	11.0	5.9	4.0	7.0	20.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	3.7	7.3	22.8	22.5	15.0	11.5	6.6	4.7	5.8	22.8
	音楽劇	172	3.5	9.3	26.2	17.4	13.4	8.7	2.9	2.9	15.7	14.5
	ミュージカル・商業演劇	384	3.1	6.0	26.8	22.7	16.4	9.9	4.9	2.3	7.8	17.2
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	4.8	4.8	22.9	33.3	15.2	8.6	1.9	1.0	7.6	11.4
	ダンス・現代舞踊	40	0.0	5.0	22.5	20.0	20.0	15.0	7.5	0.0	10.0	22.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	5.6	10.7	27.3	20.2	11.4	10.7	5.6	7.1	1.5	23.4
	女性	1821	3.4	6.9	24.7	24.7	17.0	11.9	6.4	3.5	1.5	21.8
年齢層	18歳未満	108	12.0	13.9	31.5	14.8	9.3	10.2	4.6	0.0	3.7	14.8
	18～29歳	411	6.1	13.9	27.7	20.0	13.1	11.2	5.4	1.5	1.2	18.0
	30歳代	575	3.7	5.9	22.4	25.9	18.1	9.9	7.3	5.7	1.0	23.0
	40歳代	458	1.3	5.7	27.3	25.1	15.3	12.9	6.6	4.8	1.1	24.2
	50歳代	331	2.1	6.3	23.9	27.8	18.4	10.6	6.6	3.9	0.3	21.1
	60歳以上	254	3.9	4.7	26.0	22.8	16.5	14.6	4.7	3.9	2.8	23.2
チケット クラブ	加入	452	0.9	1.1	10.0	17.5	19.9	23.0	14.4	12.2	1.1	49.6
	未加入	1738	4.6	9.1	29.0	25.7	15.3	8.9	4.2	2.1	1.1	15.2
鑑賞 経験	今日が初めて	692	11.1	16.3	31.5	21.5	10.8	5.1	1.7	0.7	1.2	7.5
	1～2回	321	1.9	10.9	39.6	22.4	12.1	9.0	2.5	0.6	0.9	12.1
	3～5回	500	0.2	3.2	30.4	33.4	16.8	8.4	4.2	2.2	1.2	14.8
	6～10回	306	0.0	1.3	17.0	32.7	20.9	15.7	6.2	4.9	1.3	26.8
	11回以上	394	0.0	0.0	2.5	11.7	24.9	26.1	19.5	14.7	0.5	60.4
参考	09年度調査結果	1692	2.5	5.7	22.1	22.4	16.0	12.5	7.9	4.8	6.0	25.2
	08年度調査結果	1732	2.8	5.8	22.0	23.0	16.7	12.2	7.4	4.6	5.5	24.2
	07年度調査結果	3033	4.2	5.9	24.5	21.9	16.4	11.7	6.7	3.4	5.3	21.9
	06年度調査結果	2766	3.7	5.0	23.2	24.9	18.1	10.0	5.9	3.7	5.5	19.5
	05年度調査結果	3073	3.0	5.6	21.2	25.6	18.6	11.1	6.2	4.8	3.8	22.1
	04年度調査結果	4708	2.7	4.9	20.6	24.7	19.4	12.6	7.8	4.6	2.6	25.0
	03年度調査結果	4078	2.7	4.5	22.4	24.1	18.9	11.5	7.1	4.4	4.5	23.0

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「今日が初めて」が29.1%と最も高いが、次いで、「3～5回」(21.0%)、「11回以上」(16.6%)、「1～2回」(13.5%)、「6～10回」(12.9%)と、偏りなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。

[来場公演のジャンル別]

- いずれのジャンルも、初めてからリピーターまで幅広い観客層となっているが、ダンス・現代舞踊は「11回以上」の割合が最も高く、小劇場・現代演劇とミュージカル・商業演劇は、「今日が初めて」の割合が最も高い。
- 小劇場・現代演劇に関しては、初めて来場した人からリピーターまで鑑賞者層は幅広い。
- 音楽劇、古典芸能は、「3～5回」の割合が最も高い。

[性別]

- 男性、女性ともに「今日が初めて」の割合が最も高いが、分布は幅広い。女性は6回以上来場している割合が32.4%と高い。

[年齢別]

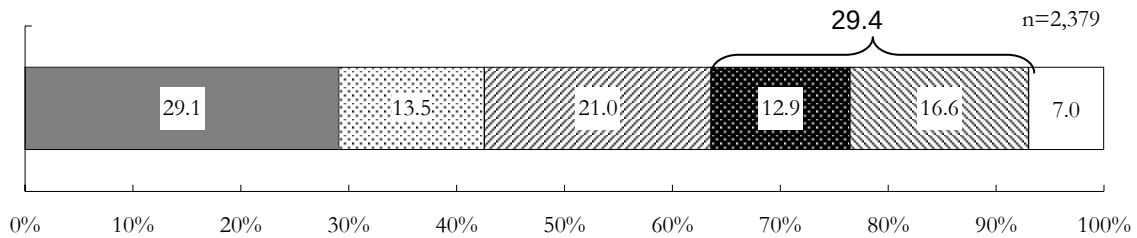
- 50歳代は、「11回以上」の割合が最も高く、また、6回以上の割合も、42.0%と鑑賞頻度が高い。しかし、いずれの年代も、分布は幅広い。60歳以上も6回以上来場している割合は41.7%となっている。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- 加入の場合は「11回以上」が49.1%と顕著に高く、6回以上の割合も71.0%となっている。一方、未加入の場合は「今日が初めて」が38.6%と最も高く、6回以上来場している割合は20.7%となっている。

[過去調査と比較して]

- 6回以上の割合は、09年度までの調査では若干の増加傾向で、過去2年間は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と高止まりし、「今日が初めて」の割合が伸びた。



■ 今日が初めて ▨ 1～2回 ▩ 3～5回 ▤ 6～10回 ▦ 11回以上 □ 無回答

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験						6回以上の割合
			今日が初めて	1～2回	3～5回	6～10回	11回以上	無回答	
全体		2379	29.1	13.5	21.0	12.9	16.6	7.0	29.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	31.9	12.7	20.5	12.8	16.2	5.9	29.0
	音楽劇	172	20.9	19.8	22.1	8.1	13.4	15.7	21.5
	ミュージカル・商業演劇	384	23.2	13.3	21.9	14.3	19.8	7.6	34.1
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	23.8	16.2	24.8	17.1	11.4	6.7	28.6
	ダンス・現代舞踊	40	15.0	15.0	20.0	12.5	27.5	10.0	40.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	35.8	16.5	20.7	10.7	14.8	1.5	25.5
	女性	1821	29.9	13.8	22.5	14.3	18.1	1.4	32.4
年齢層	18歳未満	108	35.2	14.8	21.3	14.8	10.2	3.7	25.0
	18～29歳	411	51.3	17.3	20.4	5.4	4.9	0.7	10.2
	30歳代	575	31.0	16.0	23.1	13.9	15.1	0.9	29.0
	40歳代	458	24.7	10.7	24.7	16.2	22.3	1.5	38.4
	50歳代	331	22.4	13.9	20.2	16.0	26.0	1.5	42.0
	60歳以上	254	22.0	10.2	24.4	18.9	22.8	1.6	41.7
チケットクラブ	加入	452	4.0	7.3	16.2	21.9	49.1	1.5	71.0
	未加入	1738	38.6	16.3	23.6	11.1	9.6	0.9	20.7
鑑賞経験	今日が初めて	692	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1～2回	321	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3～5回	500	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6～10回	306	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	394	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0

参考	09年度調査結果	1692	21.7	15.1	23.8	15.4	17.7	6.3	33.1
	08年度調査結果	1732	22.9	15.9	21.7	17.1	16.1	6.4	33.2
	07年度調査結果	3033	32.8	15.2	21.4	12.7	12.4	5.4	25.2
	06年度調査結果	2766	28.7	16.8	25.2	12.5	11.4	5.4	23.9
	05年度調査結果	3073	30.8	17.1	25.7	12.3	10.4	3.7	22.7
	04年度調査結果	4708	33.1	20.9	25.2	11.6	6.4	2.7	18.0
	03年度調査結果	4078	—	—	—	—	—	—	—

普段興味を持っているジャンルについては、「映画」(51.0%)、「小劇場・現代演劇」(49.9%)、「有名俳優の演劇」(49.8%)、「ミュージカル・宝塚歌劇」(47.7%)への回答割合が高く、興味のあるジャンルは多様である。

[来場公演のジャンル別]

- ・いずれのジャンルでも自分が来場した公演ジャンルへの興味が高いが、来場した公演のジャンル以外にも、多様な芸術文化ジャンルへの興味を持っていることがうかがえる。
- ・また、ジャンルを問わず、「ミュージカル・宝塚歌劇」、「映画」への興味は高い。

[性別]

- ・男性は、「小劇場・現代演劇」と「映画」が51.1%と最も割合が高く、次いで「寄席・演芸・お笑い・独演会など」(43.1%)と続く。一方女性は、「有名俳優の演劇」が57.5%と最も高く、次いで「映画」(55.0%)、「ミュージカル・宝塚歌劇」(54.4%)、「小劇場・現代演劇」(53.3%)となっている。

[年齢別]

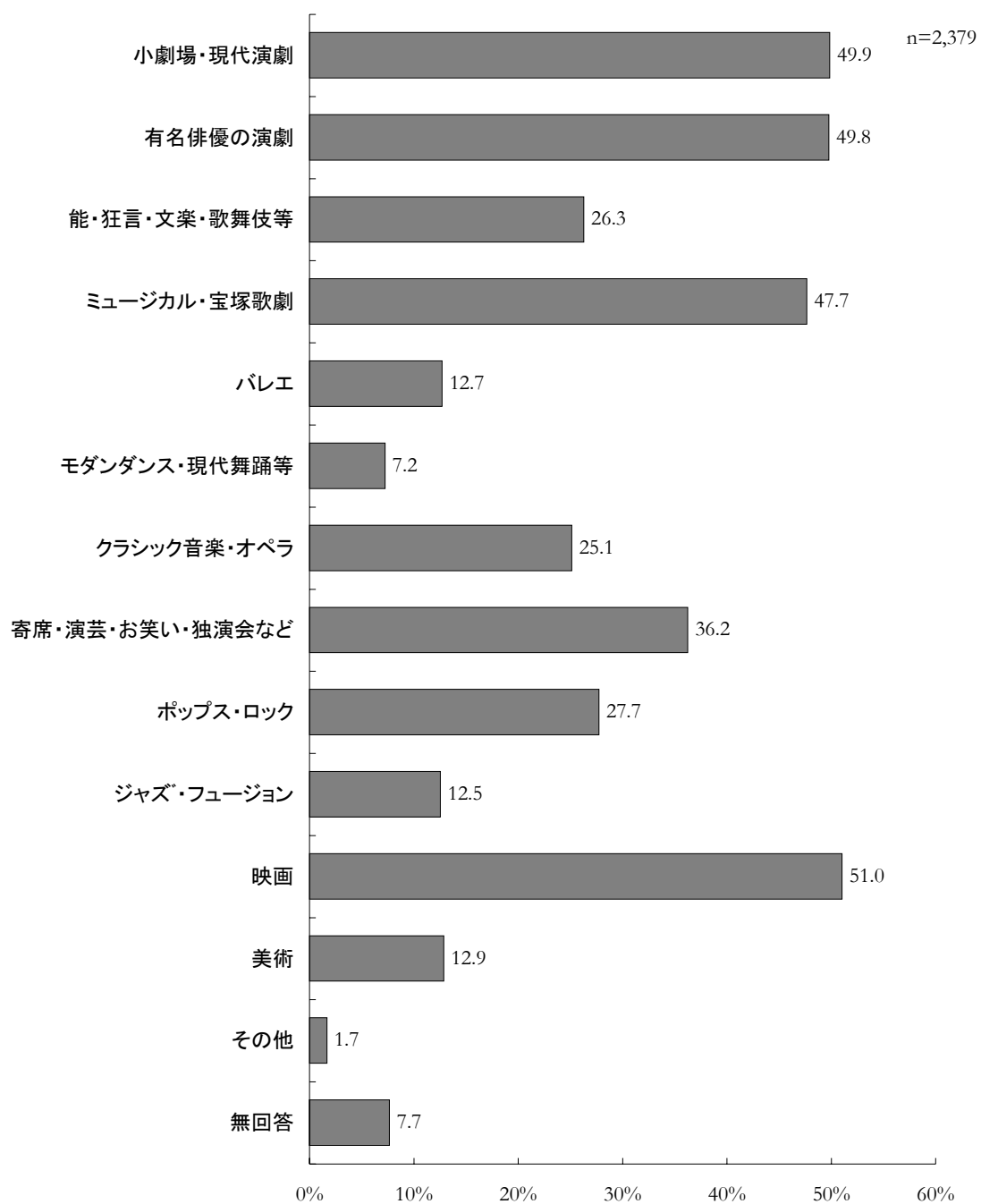
- ・30歳代と40歳代は「小劇場・現代演劇」の割合が最も高い。次いで、ほぼ同じ割合で「映画」となっている。
- ・29歳以下は、「映画」への回答割合が高く、60歳代は、「寄席・演芸・お笑い・独演会など」の割合が最も高い。
- ・年齢を問わず、「映画」のほか、「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・宝塚歌劇」など演劇系の舞台芸術への興味は高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入している場合、すべてのジャンルでも、未加入より回答割合が高く、特に、舞台芸術全般に関する興味の高さが顕著である。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど、「小劇場・現代演劇」、「有名俳優の演劇」、「ミュージカル・宝塚歌劇」への興味は高い。
- ・また、11回以上では、ほとんどすべての項目について回答割合が高く、舞台芸術以外でも、さまざまな文化・芸術に興味を持っていることがうかがえる。



	Q10
--	-----

(单位:%)

		調査数 (n)	Q10興味のあるジャンル									
			小劇場・ 現代演劇	有名俳優 の演劇	能・狂言・ 文楽・歌 舞伎等	ミュージカ ル・宝塚 歌劇	パレエ	モダンダン ス・現代 舞踊等	クラシッ ク音楽・オペ ラ	寄席・演 芸・お笑 い・独演会 など	ポップス・ ロック	ジャズ・ フュージョ ン
全体		2379	49.9	49.8	26.3	47.7	12.7	7.2	25.1	36.2	27.7	12.5
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	56.4	49.5	26.6	46.2	12.3	7.3	24.0	37.7	28.4	12.3
	音楽劇	172	29.1	25.6	14.5	38.4	13.4	5.8	42.4	22.1	23.3	15.1
	ミュージカル・商業演劇	384	37.2	64.3	25.5	63.5	13.0	4.7	20.8	26.8	29.4	10.4
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	23.8	47.6	31.4	33.3	7.6	4.8	26.7	76.2	18.1	14.3
	ダンス・現代舞踊	40	55.0	32.5	55.0	35.0	37.5	42.5	37.5	20.0	27.5	25.0
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	51.1	33.1	20.0	34.3	7.1	8.0	21.9	43.1	27.3	18.7
	女性	1821	53.3	57.5	29.7	54.4	15.0	7.6	27.8	37.5	30.1	12.1
年齢層	18歳未満	108	41.7	28.7	16.7	42.6	15.7	6.5	25.0	26.9	25.0	9.3
	18～29歳	411	59.6	47.4	18.7	48.4	9.2	10.0	20.2	39.9	40.1	14.4
	30歳代	575	59.5	52.9	29.0	49.0	13.7	7.1	25.6	33.7	37.6	13.7
	40歳代	458	58.1	56.1	34.1	53.7	18.8	8.5	25.8	36.9	30.6	15.1
	50歳代	331	45.0	62.5	28.7	58.3	13.3	6.3	33.2	43.2	19.6	14.5
	60歳以上	254	31.1	52.4	34.3	45.7	8.7	5.5	33.9	54.3	9.1	9.4
ネット 利用	加入	452	67.9	69.0	44.0	60.0	20.6	11.7	30.5	41.6	32.7	15.3
	未加入	1738	49.7	48.9	24.1	48.6	11.7	6.8	25.7	37.7	28.8	12.9
鑑賞 経験	今日が初めて	692	41.6	42.1	17.1	42.3	9.5	5.8	21.7	36.0	32.1	13.2
	1～2回	321	42.4	51.1	23.4	47.7	10.3	6.2	25.9	35.8	31.8	11.8
	3～5回	500	58.6	53.6	25.4	51.8	14.2	7.0	27.6	37.8	30.8	12.0
	6～10回	306	55.9	60.1	32.7	52.6	11.4	5.9	27.5	46.1	23.2	12.4
	11回以上	394	72.1	66.0	49.5	64.2	23.4	14.0	34.5	39.8	27.2	17.5

参考	09年度調査結果	1692	51.5	48.9	34.8	49.3	16.1	11.0	27.9	36.2	27.2	15.4
	08年度調査結果	1732	43.9	53.9	31.6	57.0	15.3	9.3	25.8	37.4	25.5	15.9
	07年度調査結果	3033	41.2	52.2	31.6	52.4	16.6	9.3	26.0	39.8	25.4	14.5
	06年度調査結果	2766	41.5	53.6	33.5	52.7	16.5	8.9	27.7	43.6	24.0	14.8
	05年度調査結果	3073	44.6	53.2	37.6	51.2	17.0	12.3	29.6	38.9	24.7	18.0
	04年度調査結果	4708	43.8	55.0	42.7	56.3	19.9	11.5	29.5	32.2	24.0	16.6
	03年度調査結果	4078	36.2	—	44.5	67.1	20.2	10.0	*	28.3	34.3	

(单位:%)

		調査数 (n)	Q10興味のあるジャンル			
			映画	美術	その他	無回答
全体		2379	51.0	12.9	1.7	7.7
ジャンル	小劇場・現代演劇	1678	51.5	13.1	1.4	6.7
	音楽劇	172	47.7	8.1	0.6	16.9
	ミュージカル・商業演劇	384	53.1	11.2	3.1	7.6
	古典芸能(歌舞伎・能)	105	45.7	14.3	1.9	8.6
	ダンス・現代舞踊	40	40.0	35.0	2.5	7.5
	パフォーマンス	0	0.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	411	51.1	13.9	2.2	2.7
	女性	1821	55.0	13.7	1.7	1.8
年齢層	18歳未満	108	53.7	9.3	8.3	6.5
	18～29歳	411	63.7	14.4	1.7	1.7
	30歳代	575	53.6	14.8	1.2	1.4
	40歳代	458	56.8	12.7	1.3	0.4
	50歳代	331	51.7	14.8	2.1	2.4
	60歳以上	254	42.5	13.4	1.2	2.4
チケット クラブ	加入	452	59.1	19.7	2.0	1.1
	未加入	1738	53.6	12.3	1.7	1.8
鑑賞 経験	今日が初めて	692	58.2	13.3	1.6	2.3
	1～2回	321	52.0	12.8	2.5	1.6
	3～5回	500	51.4	9.8	0.8	1.0
	6～10回	306	52.6	13.7	2.0	2.0
	11回以上	394	55.1	20.1	2.8	2.3

參考	09年度調查結果	1692	53.7	17.0	0.9	6.3
	08年度調查結果	1732	49.2	12.2	1.6	6.1
	07年度調查結果	3033	49.2	14.9	1.6	5.4
	06年度調查結果	2766	52.2	14.6	1.7	5.0
	05年度調查結果	3073	52.6	17.1	1.6	3.7
	04年度調查結果	4708	51.5	17.1	1.8	3.0
	03年度調查結果	4078	20.5	19.5	2.4	4.5

*03年度と04年度以降で一部ジャンルを変更。03年度は、「クラシック音楽」と「オペラ」は個別に尋ねている(35.5%、19.1%)

参考 | 調査票

北九州芸術劇場 自主事業公演アンケート		公演名 (〇〇〇〇)
お帰りの際にロビー備え付けの回収箱にお入れいただくか、後日、 郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。		FAX 送付先： 093-562-2633
北九州芸術劇場 アンケート係	〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11	TEL: 093-562-2620

本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、△△△△△の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。

Q 1 今日の公演は何でお知りになりましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 雑誌・タウン情報誌 (誌名: _____) | 2 新聞 (紙名: _____) |
| 3 TV・ラジオ | 4 北九州市 市政だより |
| 5 街中のチラシ・ポスター | 6 ダイレクトメール |
| 7 他の公演会場で配布されたチラシ | 8 インターネット・ホームページ |
| 9 友人・知人から聞いた | 10 出演者、公演関係者から聞いた |
| 11 ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭 | 12 その他 (具体的に _____) |

Q 2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 出演者、出演団体が好きだから | 2 出演者、出演団体が有名だから |
| 3 公演内容が面白そうだったから | 4 劇場に来てみたかったから |
| 5 劇場が近くだったから | 6 出演者や関係者が知り合いだから |
| 7 人に誘われたから | 8 人に勧められたから |
| 9 その他 (具体的に _____) | |

Q 3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。(〇は各項目ひとつずつ)

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足
(記入見本)	1	②	3	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
(北九州芸術劇場の) 電話予約やチケットカウンターでの応対	1	2	3	4
劇場係員の応対	1	2	3	4
劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	1	2	3	4
劇場ロビーの飲食サービス	1	2	3	4

Q 4 総合的にみて北九州芸術劇場に対するあなたのご意見をお聞かせください。(〇はひとつ)

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

Q 5 北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

(〇は各項目ひとつだけ)

		1 ぜひやっ てほしい	2 まあやっ てほしい	3 あまり やる必要 はない	4 まったく やる必要 がない
観る	東京、大阪など舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創ります	1	2	3	4
育つ	アーティストを小・中学校のクラスに派遣するなどの活動を通じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4

Q 6 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ
「1 はい」とお答えになった方へ。だいたいいくらぐらい
お使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。
飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食 円ぐらい

ショッピング 円ぐらい

Q 7 日頃、コンサートや演劇などの公演にどのくらいの頻度でお出かけになっていますか。(○はひとつだけ)

- 1 今日が初めて 2 ほとんど行かない 3 年に1～2回程度 4 年に3～4回程度
5 年に5～9回程度 6 月に1回程度 7 月に2回程度 8 月に3回以上

Q 8 では、今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1～2回 3 3～5回 4 6～10回 5 11回以上

Q 9 あなたは北九州芸術劇場のチケットクラブ会員ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ (→今後入会をお考えですか 1 はい 2 いいえ)

Q 10 普段、興味をお持ちのジャンルに○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 小劇場・現代演劇 2 有名俳優の演劇(「博多座」の公演など)
3 能・狂言・文楽・歌舞伎等 4 ミュージカル(四季含む)・宝塚歌劇
5 バレエ 6 モダンダンス、現代舞踊等
7 クラシック音楽・オペラ 8 寄席・演芸・お笑い・独演会など
9 ポップス・ロック 10 ジャズ・フュージョン
11 映画 12 美術 13 その他(具体的に)

Q 11 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、前原市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に) 6 福岡県以外の九州(具体的に)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に)
9 その他(具体的に)

Q 12 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q 13 ご年齢をお答えください。

ご年齢 歳

Q 14 最後に、今後、北九州芸術劇場で観てみたいアーティスト、劇団、作品、あるいは北九州芸術劇場へのご要望などについて自由にご記入ください。

※本日の座席番号 階 列 番

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

■お名前 (フリガナ)
■ご住所 〒
■Tel ■E-mail

今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで・両方で) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

II

貸館利用者
調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2010年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 配布件数:250件
- 回答数(回収率):145件(58.0%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や応対に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

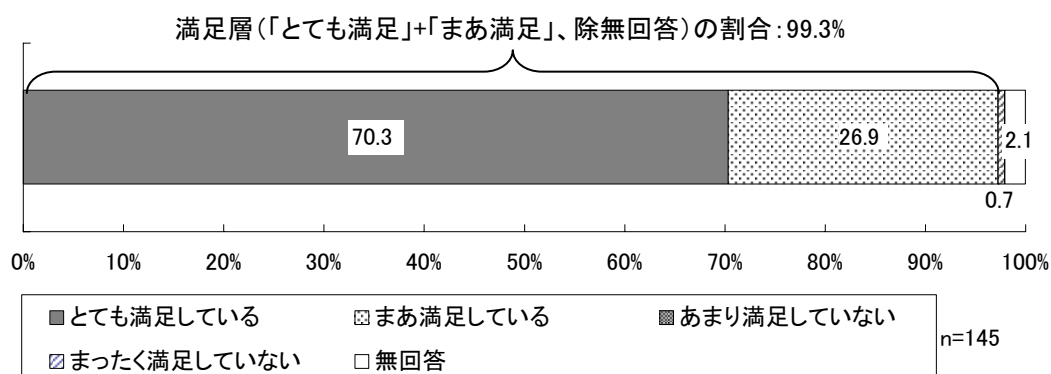
利用者調査結果

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度

Q1

・北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が70.3% (102件)、「まあ満足している」が26.9% (39件)であり、無回答を除いた満足層の割合は99.3% (141件)である。劇場利用者の満足度は大変高い。

・経年変化でみると、この5年間では「とても満足している」の割合はおおよそ6割から8割の間を推移している。



	調査数	Q1 使いごちに関する総合的な意見				
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
10年度	145 100.0	102 70.3	39 26.9	0 0.0	1 0.7	3 2.1
09年度	149 100.0	113 75.8	31 20.8	2 1.3	0 0.0	3 2.0
08年度	126 100.0	82 65.1	40 31.7	3 2.4	0 0.0	1 0.8
07年度	44 100.0	34 77.3	10 22.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	12 60.0	8 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

141
99.3

*1 回答母数が少ないので、回答件数と%を併記する。

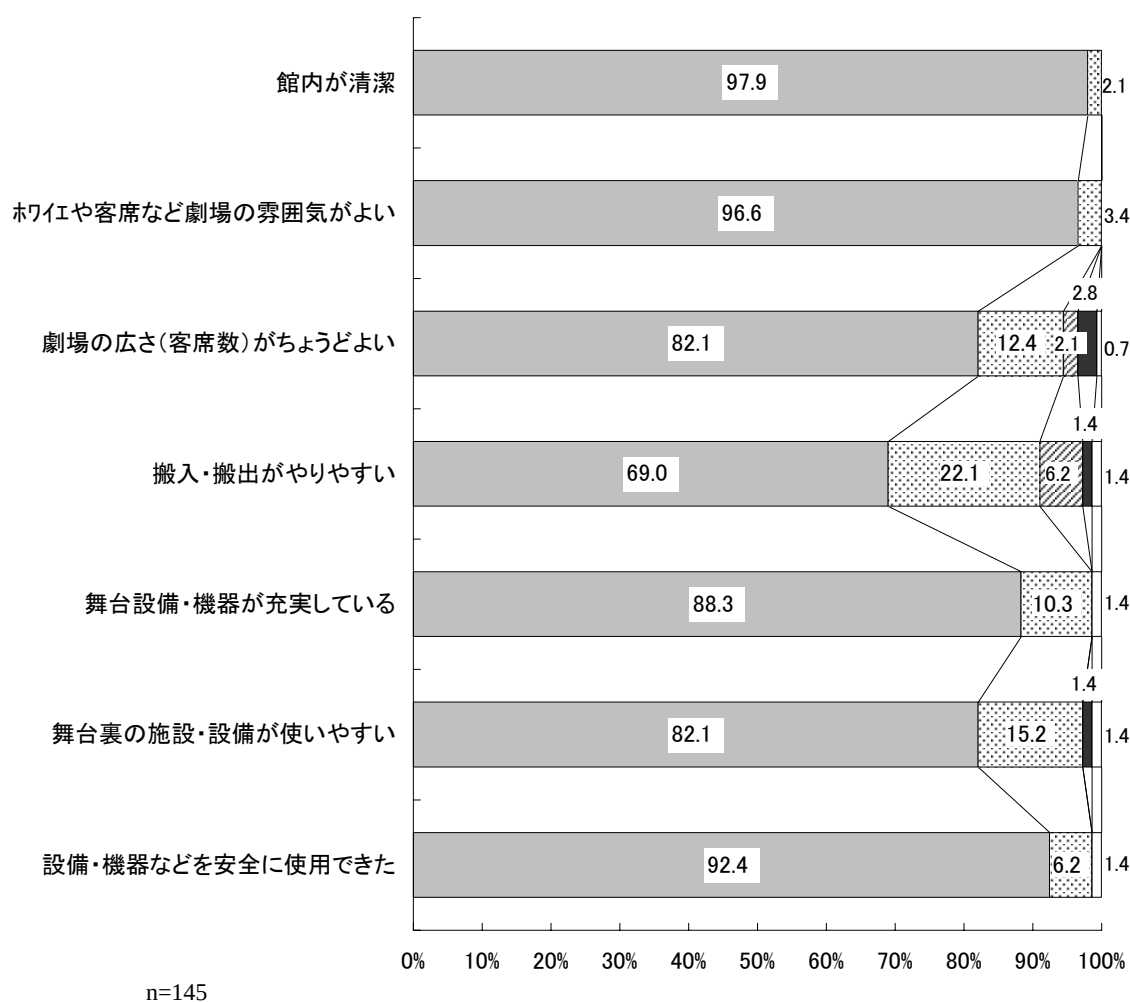
*2 表の上段は件数、下段は%である。また、網掛け部分は、最も回答が多い項目である。

*3 集計表には、参考として06年度～09年度の各年度の数字を掲載している。

・劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」の4項目で100%となっており、「搬入・搬出がやりやすかった」以外の6項目は、95%以上となっている。

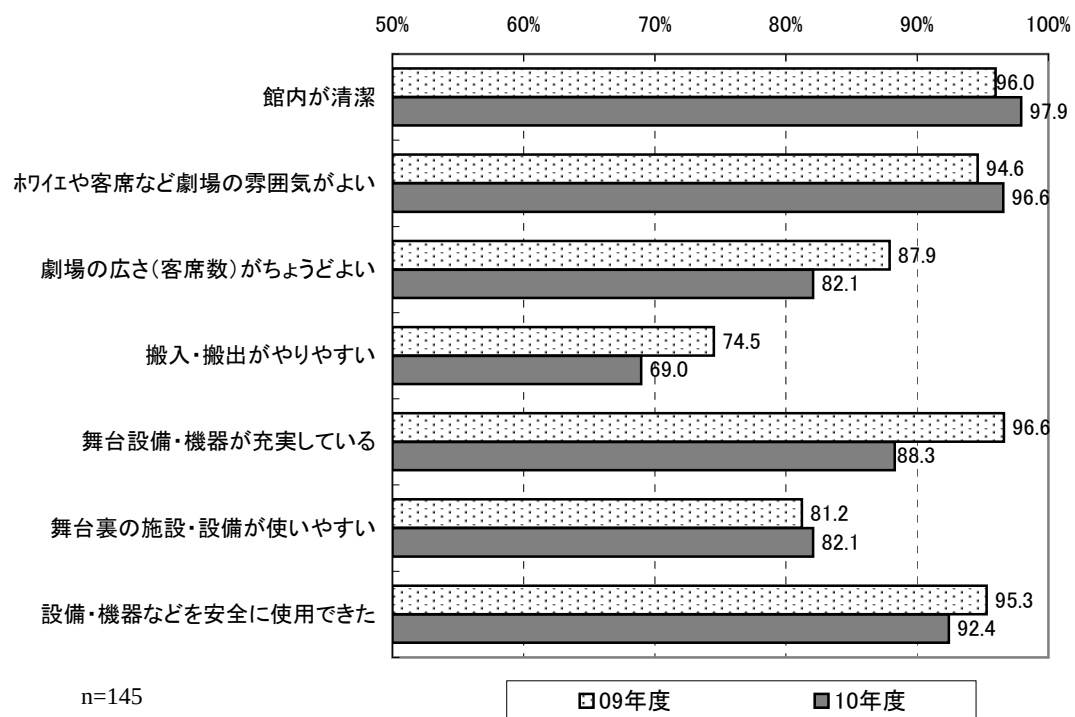
・「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「設備・機器などを安全に使用できた」の3項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。

・「搬入・搬出がやりやすい」は、他の項目に比べると「はい」への回答割合が低くなっており、自由回答でも、複合施設ゆえであると思うが、「搬入・搬出がしづらい」、「駐車場からの動線がわかりづらい」といった意見が記載されている。しかし、経年変化でみると、「搬入・搬出がやりやすかった」については、06年度以降「はい」への回答割合は向上しているものの、昨年度に比べるとやや減少した(09年度:74.5% → 10年度:69.0%)。



☐ 「はい」
 ☐ 「どちらかといえばはい」
 ☐ 「どちらかといえばいいえ」
 ☐ 「いいえ」
 ☐ 無回答

【「はい」の割合比較 09年度・10年度】



	Q2
--	----

【館内が清潔】

	調査数	Q2-施設① 館内が清潔				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	142 97.9	3 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	6 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	122 96.8	4 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
07年度	44 100.0	43 97.7	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	20 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

145
100.0

* 満足層は、「はい」+「どちらかといえばはい」の割合。無回答を除く。

【ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい】

	調査数	Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	140 96.6	5 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	141 94.6	7 4.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	117 92.9	8 6.3	1 0.8	0 0.0	0 0.0
07年度	44 100.0	41 93.2	1 2.3	2 4.5	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	18 90.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

145
100.0

【劇場の広さ(客席数)がちょうどよい】

	調査数	Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	119 82.1	18 12.4	3 2.1	4 2.8	1 0.7
09年度	149 100.0	131 87.9	16 10.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0
08年度	126 100.0	104 82.5	15 11.9	5 4.0	2 1.6	0 0.0
07年度	44 100.0	37 84.1	5 11.4	2 4.5	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

137
95.1

	Q2
--	----

【搬入・搬出がやりやすい】

	調査数	Q2-施設④ 搬入・搬出がやりやすい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	100 69.0	32 22.1	9 6.2	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	111 74.5	23 15.4	9 6.0	3 2.0	3 2.0
08年度	126 100.0	75 59.5	34 27.0	14 11.1	2 1.6	1 0.8
07年度	44 100.0	29 65.9	8 18.2	5 11.4	1 2.3	1 2.3
06年度	20 100.0	12 60.0	6 30.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0

満足層
132 92.3

【舞台設備・機器が充実している】

	調査数	Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	128 88.3	15 10.3	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	144 96.6	3 2.0	1 0.7	0 0.0	1 0.7
08年度	126 100.0	114 90.5	11 8.7	1 0.8	0 0.0	0 0.0
07年度	44 100.0	38 86.4	6 13.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
143 100.0

【舞台裏の施設・設備が使いやすい】

	調査数	Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	119 82.1	22 15.2	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	121 81.2	22 14.8	4 2.7	0 0.0	2 1.3
08年度	126 100.0	102 81.0	17 13.5	6 4.8	1 0.8	0 0.0
07年度	44 100.0	36 81.8	6 13.6	1 2.3	1 2.3	0 0.0
06年度	20 100.0	17 85.0	2 10.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0

満足層
141 98.6

	Q2
--	----

【設備・機器などを安全に使用できた】

	調査数	Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	134 92.4	9 6.2	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	142 95.3	7 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	111 88.1	12 9.5	1 0.8	0 0.0	2 1.6
07年度	44 100.0	41 93.2	3 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
06年度						

満足層
143 100.0

* 濃い網掛けは、当該年度の調査票には設定されていない項目。

(3) 劇場に関する意見【運営・対応について】

Q2

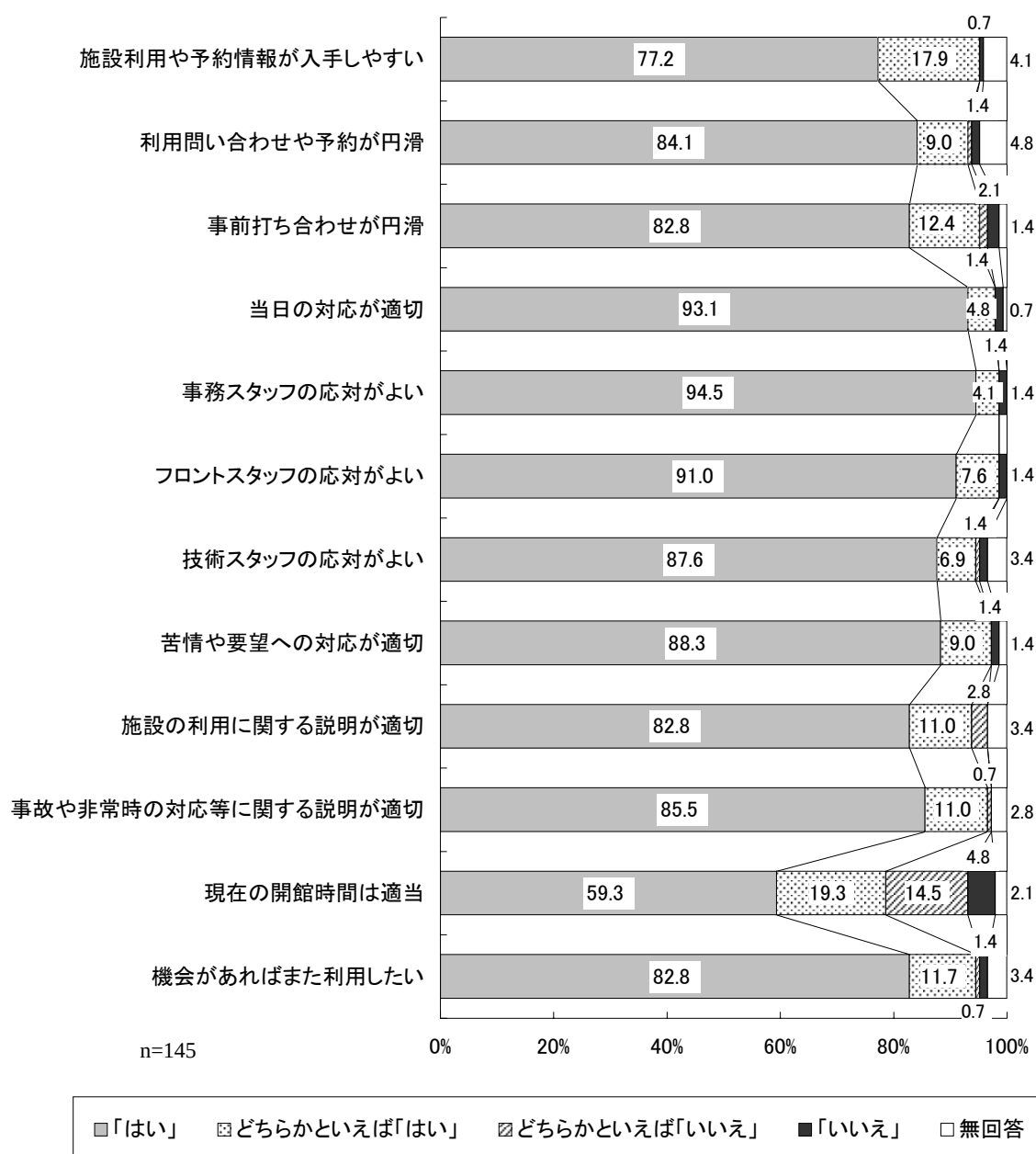
・劇場の運営や対応に関する12項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で95%以上となっている。

・また、「現在の開館時間は適当」、「施設利用や予約情報が入手しやすい」以外については、「はい」への回答割合も80%以上と高い評価となっている。特に、当日の対応や事務スタッフ、フロントスタッフの対応に関する項目は、90%以上が「はい」と回答している。

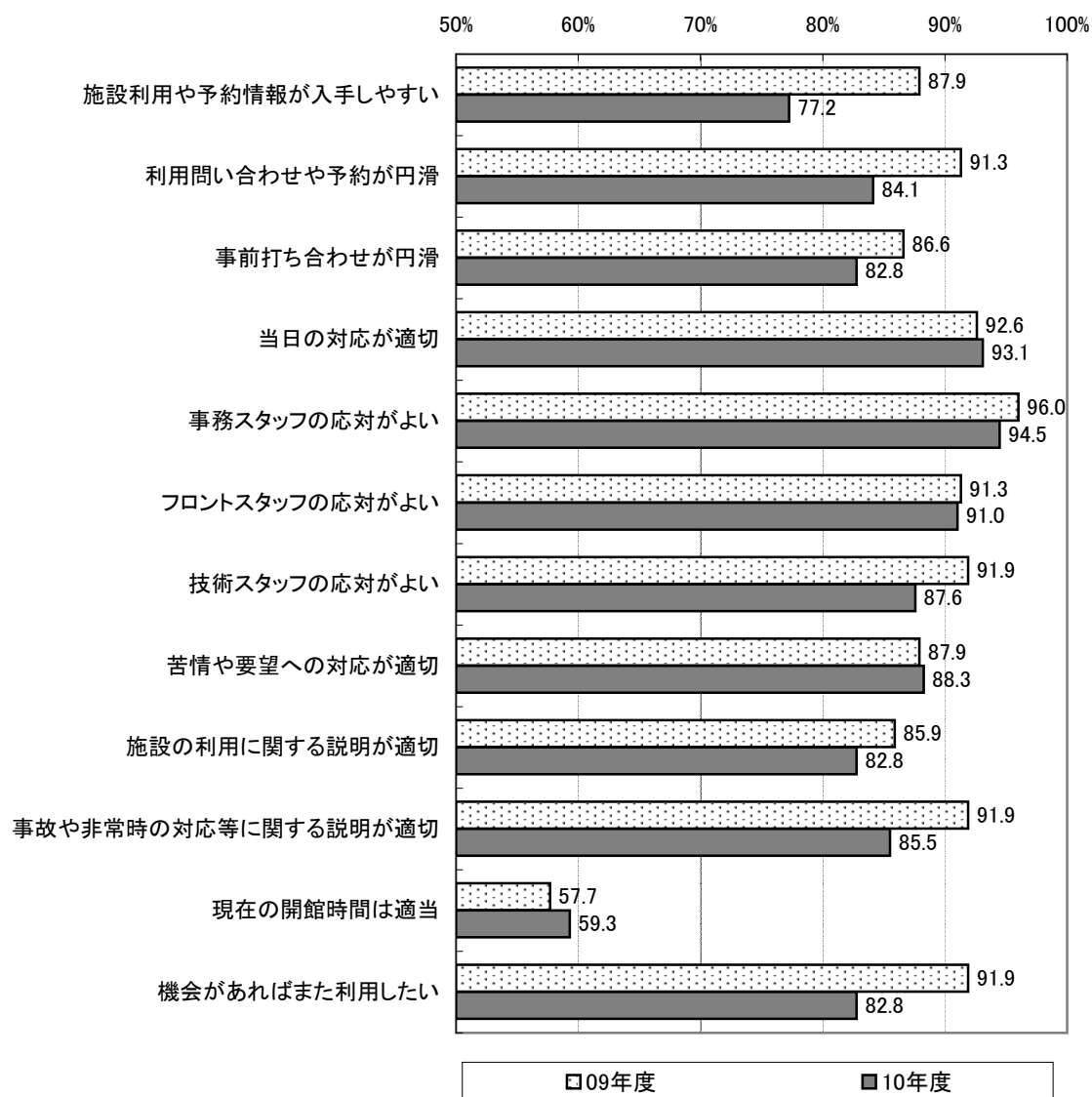
・「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「どちらかといえば『いいえ』」(14.5%・21件)、「いいえ」(4.8%・7件)の回答が多くなっており、自由回答でもより長い開館時間を求める声や柔軟な利用時間の設定を求める意見が記載されている。

・10年度は、「当日の対応が適切」、「苦情や要望への対応が適切」で09年度よりも「はい」への回答率が上がっている。

・今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が82.8%(120件)となっており、劇場を利用したきっかけ(Q4)でも最も割合が高いのは「前回使用して良かったため」(58.6%)である。利用者の劇場使用に対する満足度の高さがうかがえる。



【「はい」の割合比較 09年度・10年度】



	Q2
--	----

【施設利用や予約情報が入手しやすい】

	調査数	Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	112 77.2	26 17.9	0 0.0	1 0.7	6 4.1
09年度	149 100.0	131 87.9	17 11.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	97 77.0	22 17.5	2 1.6	1 0.8	4 3.2
07年度	44 100.0	36 81.8	5 11.4	2 4.5	0 0.0	1 2.3
06年度	20 100.0	12 60.0	6 30.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0

満足層
138 99.3

【利用問い合わせや予約が円滑】

	調査数	Q2-運営・対応② 利用問い合わせや予約が円滑				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	122 84.1	13 9.0	1 0.7	2 1.4	7 4.8
09年度	149 100.0	136 91.3	10 6.7	1 0.7	0 0.0	2 1.3
08年度	126 100.0	101 80.2	17 13.5	3 2.4	1 0.8	4 3.2
07年度	44 100.0	39 88.6	3 6.8	1 2.3	0 0.0	1 2.3
06年度	20 100.0	15 75.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0

満足層
135 97.8

【事前打ち合わせが円滑】

	調査数	Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	120 82.8	18 12.4	2 1.4	3 2.1	2 1.4
09年度	149 100.0	129 86.6	13 8.7	5 3.4	0 0.0	2 1.3

満足層
138 96.5

【当日の対応が適切】

	調査数	Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	135 93.1	7 4.8	0 0.0	2 1.4	1 0.7
09年度	149 100.0	138 92.6	10 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層
142 98.6

	Q2
--	----

【事務スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	137 94.5	6 4.1	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	5 3.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	117 92.9	6 4.8	2 1.6	0 0.0	1 0.8
07年度	44 100.0	40 90.9	1 2.3	1 2.3	0 0.0	2 4.5
06年度	20 100.0	19 95.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
143 98.6

【フロントスタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	132 91.0	11 7.6	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	136 91.3	8 5.4	2 1.3	0 0.0	3 2.0

満足層
143 98.6

【技術スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	127 87.6	10 6.9	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7
08年度	126 100.0	111 88.1	10 7.9	2 1.6	2 1.6	1 0.8
07年度	44 100.0	41 93.2	3 6.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	16 80.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
137 97.9

	Q2
--	----

【苦情や要望への対応が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応が適切				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	128 88.3	13 9.0	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	131 87.9	14 9.4	1 0.7	0 0.0	3 2.0
08年度	126 100.0	105 83.3	16 12.7	2 1.6	1 0.8	2 1.6
07年度	44 100.0	38 86.4	4 9.1	1 2.3	0 0.0	1 2.3
06年度	20 100.0	17 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
141 98.6

【施設の利用に関する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	120 82.8	16 11.0	4 2.8	0 0.0	5 3.4
09年度	149 100.0	128 85.9	17 11.4	2 1.3	0 0.0	2 1.3
08年度	126 100.0	105 83.3	14 11.1	3 2.4	1 0.8	3 2.4
07年度	44 100.0	37 84.1	5 11.4	1 2.3	0 0.0	1 2.3
06年度	20 100.0	17 85.0	3 15.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層
136 97.1

【事故や非常時の対応等に関する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	124 85.5	16 11.0	1 0.7	0 0.0	4 2.8
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7
08年度	126 100.0	112 88.9	10 7.9	0 0.0	1 0.8	3 2.4
07年度	44 100.0	37 84.1	5 11.4	2 4.5	0 0.0	0 0.0
06年度	20 100.0	15 75.0	4 20.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0

満足層
140 99.3

	Q2
--	----

【現在の開館時間は適当】

	調査数	Q2-運営・応対⑪ 現在の開館時間は適当				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	86 59.3	28 19.3	21 14.5	7 4.8	3 2.1
09年度	149 100.0	86 57.7	37 24.8	16 10.7	7 4.7	3 2.0
08年度	126 100.0	72 57.1	24 19.0	21 16.7	6 4.8	3 2.4
07年度	44 100.0	24 54.5	8 18.2	8 18.2	4 9.1	0 0.0
06年度						

満足層
114 80.3

【機会があればまた利用したい】

	調査数	Q2-運営・応対⑫ 機会があればまた利用したい				
		「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答
10年度	145 100.0	120 82.8	17 11.7	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0
08年度	126 100.0	109 86.5	13 10.3	2 1.6	1 0.8	1 0.8
07年度	44 100.0	37 84.1	3 6.8	2 4.5	0 0.0	2 4.5
06年度						

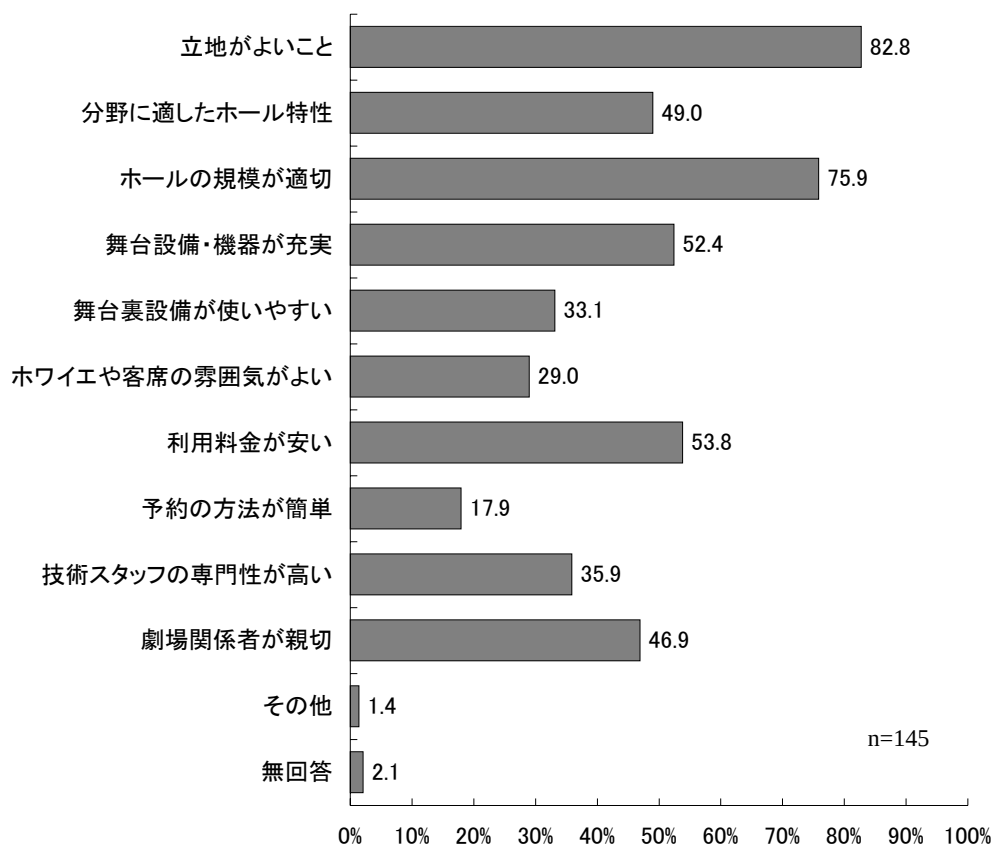
満足層
137 97.9

* 濃い網掛けは、当該年度の調査票には設定されていない項目。

(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

・施設を利用する際重視することとして最も回答が多いのは、「立地がよいこと」(82.8%・120件)、次いで「ホールの規模が適切」(75.9%・110件)となっている。
 ・次いで、「舞台設備・機器が充実」、「分野に適したホール特性」がそれぞれ50%前後となっており、ハードの条件への回答が多くなっている。
 ・一方、「利用料金が安い」(53.8%・78件)、「劇場関係者が親切」(46.9%・68件)、「技術スタッフの専門性が高い」(35.9%・52件)など、運営面を重視する声も多い。



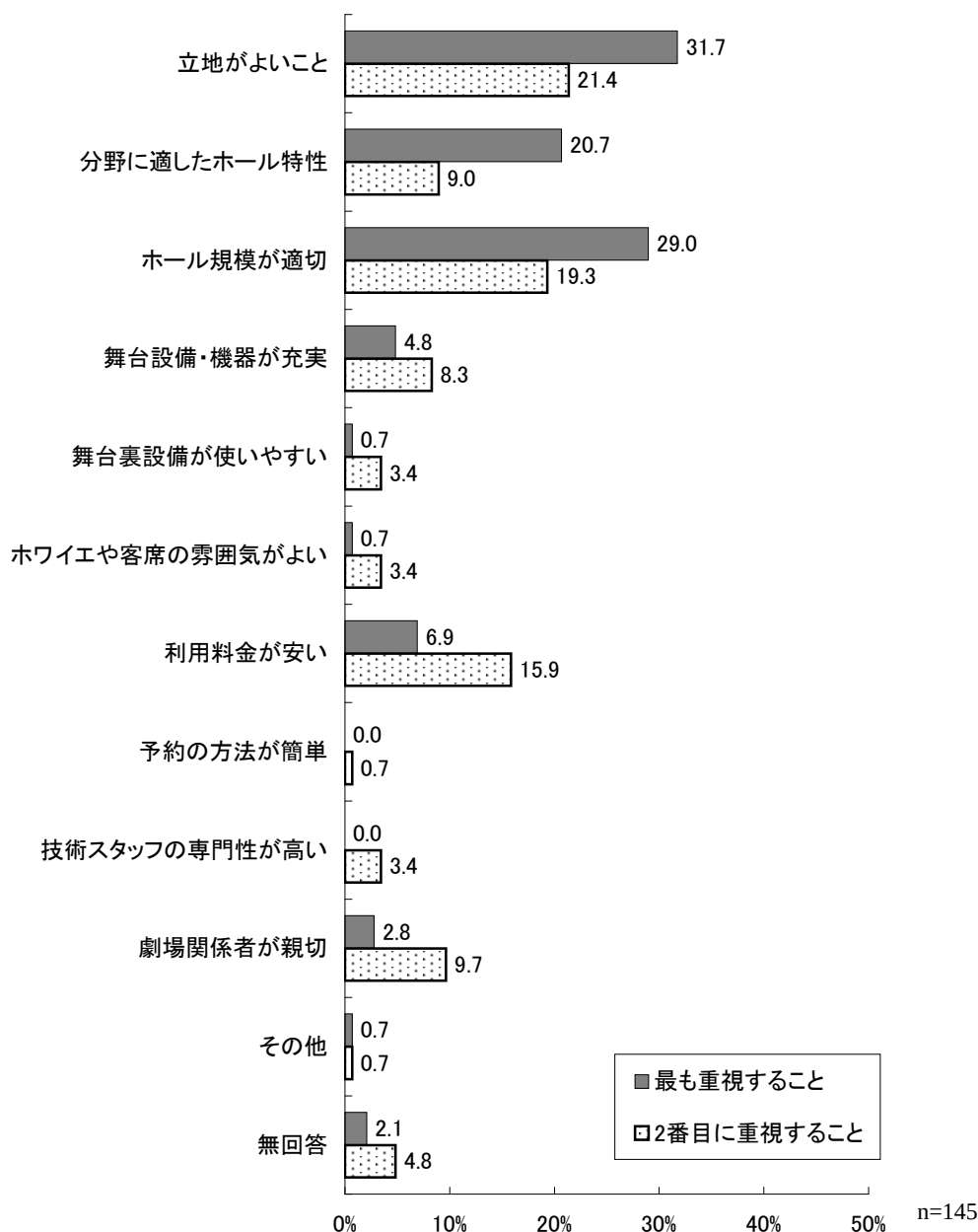
	調査数	Q3 施設利用の際、重視すること											
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	ホワイエや客席の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	無回答
10年度	145 100.0	120 82.8	71 49.0	110 75.9	76 52.4	48 33.1	42 29.0	78 53.8	26 17.9	52 35.9	68 46.9	2 1.4	3 2.1
09年度	149 100.0	129 86.6	89 59.7	127 85.2	89 59.7	51 34.2	54 36.2	84 56.4	32 21.5	60 40.3	87 58.4	0 0.0	1 0.7
08年度	126 100.0	111 88.1	69 54.8	100 79.4	68 54.0	43 34.1	44 34.9	72 57.1	23 18.3	41 32.5	59 46.8	1 0.8	2 1.6
07年度	44 100.0	38 86.4	31 70.5	37 84.1	34 77.3	16 36.4		21 47.7	9 20.5	17 38.6	19 43.2	1 2.3	0 0.0
06年度	20 100.0	15 75.0	11 55.0	18 90.0	10 50.0	3 15.0		9 45.0	1 5.0	5 25.0	7 35.0	1 5.0	0 0.0

* 濃い網掛けは、当該年度の調査票には設定されていない項目。

(4) 施設を利用する際、最も重視すること・2番目に重視すること

Q3

・最も重視することは、「立地がよいこと」(31.7%・46件)が最も多く、「ホール規模が適切」(29.0%・42件)、「分野に適したホール特性」(20.7%・30件)と続いており、その他の項目は10%未満である。
 ・2番目に重視することは、「立地がよいこと」(21.4%・31件)が最も多く、次いで「ホール規模が適切」(19.3%・28件)だが、「利用料金が安い」についても10%以上の回答がある。



* Q3・SQ1は回答が一つ(シングル・アンサー)のため、本来であれば帯グラフでの表示が適当であるが、選択肢の数が多いため、見やすさから棒グラフを用いた。

	Q3
--	----

【最も重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-① 最も重視すること											
		立地が よいこと	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機器 が充実	楽屋等 舞台裏 設備が 使いや すい	劇場の 雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフの 専門性 が高い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
10年度	145 100.0	46 31.7	30 20.7	42 29.0	7 4.8	1 0.7	1 0.7	10 6.9	0 0.0	0 0.0	4 2.8	1 0.7	3 2.1
09年度	149 100.0	38 25.5	34 22.8	51 34.2	4 2.7	0 0.0	2 1.3	11 7.4	0 0.0	2 1.3	5 3.4	1 0.7	1 0.7
08年度	126 100.0	43 34.1	28 22.2	34 27.0	5 4.0	1 0.8	5 4.0	7 5.6	0 0.0	2 1.6	1 0.8	0 0.0	0 0.0
07年度	43 100.0	16 36.4	10 22.7	7 15.9	3 6.8	1 2.3		2 4.5	0 0.0	0 0.0	3 6.8	0 0.0	1 2.3
06年度	17 100.0	7 35.0	6 30.0	6 30.0	0 0.0	0 0.0		1 5.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

【2番目に重視すること】

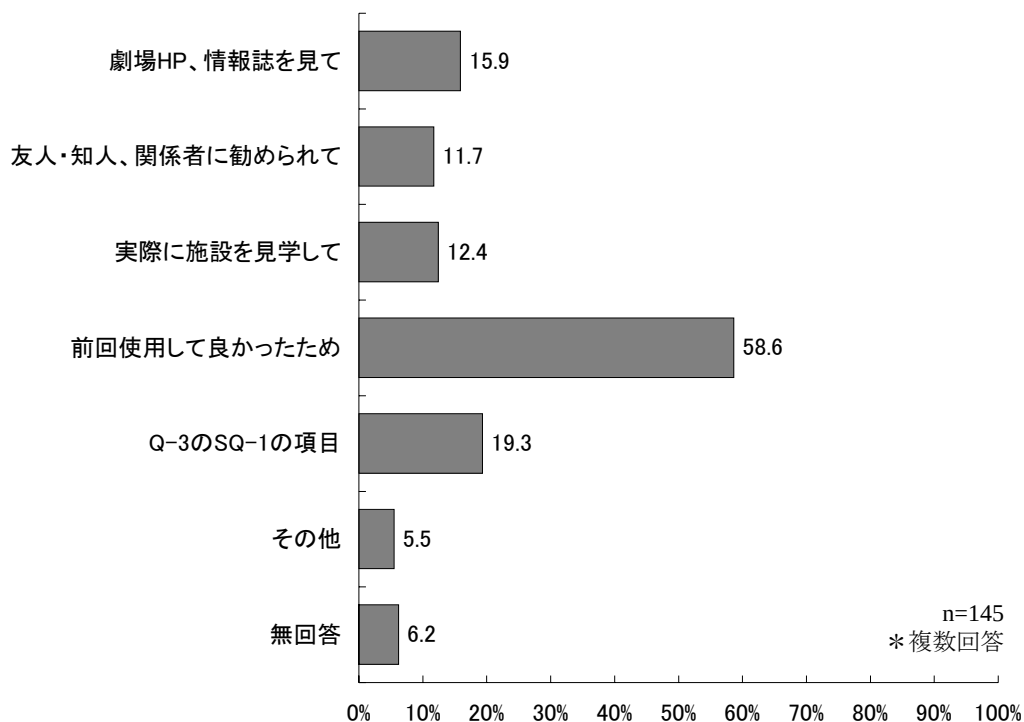
	調査数	Q3 SQ1-② 2番目に重視すること											
		立地が よいこと	分野に 適した ホール 特性	ホール の規模 が適切	舞台設 備・機器 が充実	舞台裏 設備が 使いや すい	ホワイエ や客席 の雰囲気 がよい	利用料 金が安 い	予約の 方法が 簡単	技術ス タッフの 専門性 が高い	劇場関 係者が 親切	その他	無回答
10年度	145 100.0	31 21.4	13 9.0	28 19.3	12 8.3	5 3.4	5 3.4	23 15.9	1 0.7	5 3.4	14 9.7	1 0.7	7 4.8
09年度	149 100.0	44 29.5	17 11.4	33 22.1	21 14.1	2 1.3	4 2.7	13 8.7	2 1.3	6 4.0	6 4.0	0 0.0	1 0.7
08年度	126 100.0	27 21.4	17 13.5	29 23.0	10 7.9	5 4.0	5 4.0	17 13.5	1 0.8	3 2.4	10 7.9	0 0.0	2 1.6
07年度	43 100.0	10 22.7	6 13.6	11 25.0	4 9.1	3 6.8		3 6.8	0 0.0	2 4.5	2 4.5	0 0.0	3 6.8
06年度	17 100.0	3 15.0	2 10.0	9 45.0	3 15.0	0 0.0		0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

* 濃い網掛けは、当該年度の調査票には設定されていない項目。

(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

・劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、58.6%(85件)を占めている。劇場への満足度が高いこと、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。
 ・次いで、「Q-3のSQ-1の項目」(19.3%・28件)となっており、「立地がよいこと」、「ホールの規模が適切」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。



	調査数	Q4 劇場を利用したきっかけ						
		劇場HP、情報誌を見て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
10年度	145 100.0	23 15.9	17 11.7	18 12.4	85 58.6	28 19.3	8 5.5	9 6.2
09年度	149 100.0	18 12.1	24 16.1	23 15.4	85 57.0	45 30.2	10 6.7	2 1.3

参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-2655/ FAX 093-562-2588

Q－1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（○は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q－2 本日ご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに○をつけてください。（○は各項目1つずつ）

（施設について）

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気 が良かったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうどよ かったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかつ たですか。	1	2	3	4	

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項 目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打ちは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前１０ 時～午後１０時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3. ホールの規模(客席数)が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気がいよいこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他(具体的に: _____)

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視
すること

2番目に重視
すること

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

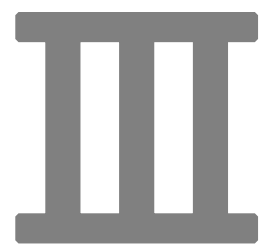
1. 劇場のホームページ、情報誌(チラシなどを含む)を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他(具体的に: _____)

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべきだと感じた点について、ご意見をお聞かせください。
また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名(個人の場合はお名前)	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日() ~ 月 日()
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 (いずれか1つに〇)

ご協力ありがとうございました。

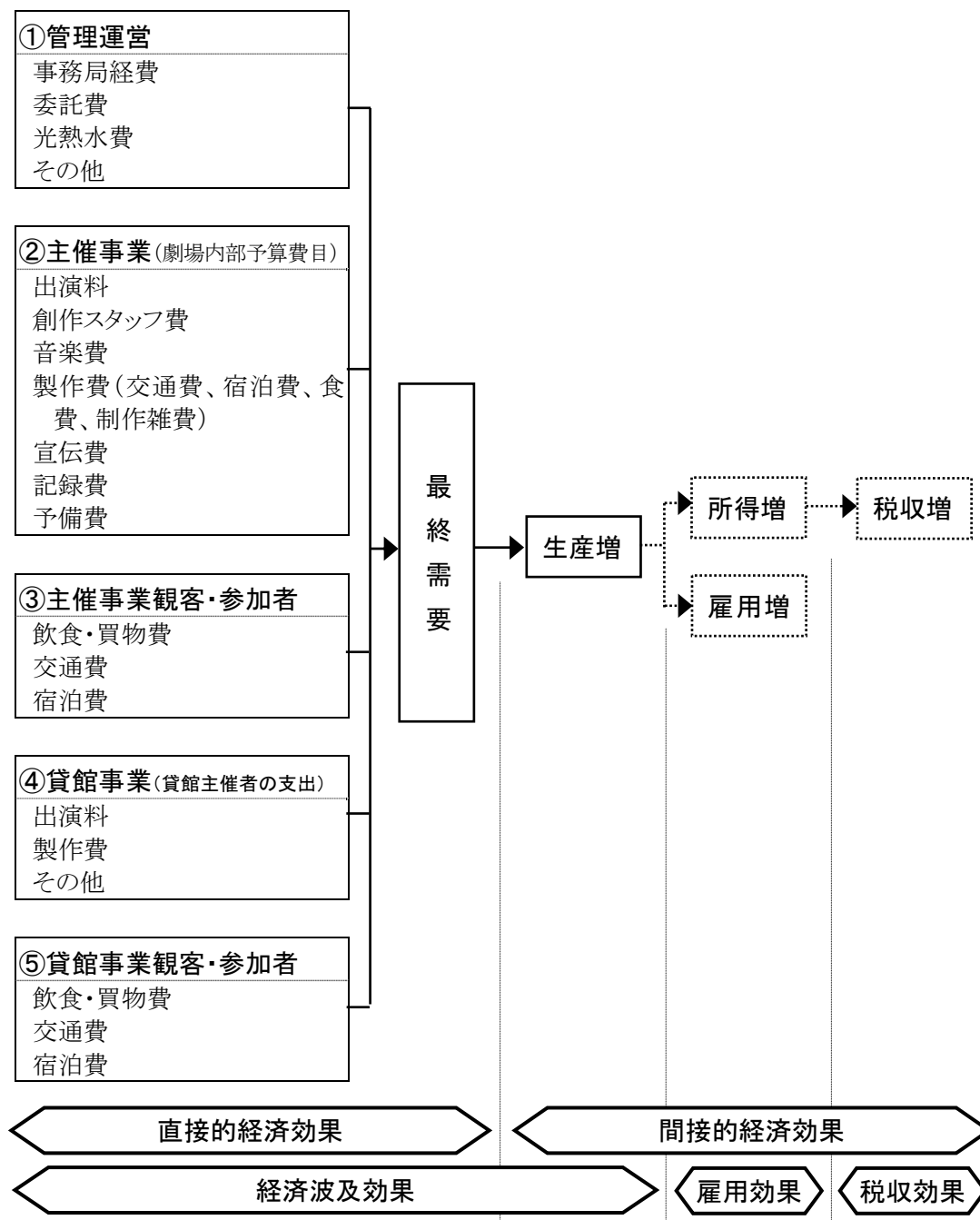


經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅲ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅲ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施

に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅲ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅲ-2 産業連関表(平成17年度・34部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 窯業・土石製品					
9 鉄鋼					
10 非鉄金属					
11 金属製品					
12 一般機械					
13 電気機械					
14 情報・通信機器					
15 電子部品					
16 輸送機械					
17 精密機械					
18 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
19 建設					
20 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
21 水道・廃棄物処理	上下水道費				
22 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
23 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
24 不動産					
25 運輸	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費
26 通信・放送	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費
27 公務					
28 教育・研究					
29 医療・保健・社会保障					
30 その他の公共サービス					
31 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、 新聞・雑誌等) 事務用品賃貸 委託(清掃・警 備、舞台技術)	広告(TV・ラジ オ、新聞・雑誌 等)		広告(TV・ラジ オ、新聞・雑誌 等)	
32 対個人サービス	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)
33 事務用品	事務用品	事務用品		事務用品	
34 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅲ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
18 その他の製造工業製品	印刷製本費	845	190	1,035	
20 電力・ガス・熱供給	光熱水料費	157,615	0	157,615	電気・ガス
21 水道・廃棄物処理	光熱水料費	9,064	0	9,064	
22 商業	消耗品費	0	0	0	物品購入(小売)
23 金融・保険	保険料	4,931	616	5,547	
25 運輸	旅費交通費	2,793	593	3,386	交通費
	通信運搬費	1,092	0	1,092	宅配便
26 通信・放送	雑費・通信運搬費・支払負担金	389	4,979	5,368	郵便・電話等
31 対事業所サービス	広告宣伝費	25,375	6,256	31,631	
	委託費(舞台技術・フロントスタッフ)	101,836	43,455	145,291	
	支払負担金(清掃)	39,277	0	39,277	
	支払負担金(警備)	18,274	0	18,274	
	その他	223,880	20,757	244,637	
32 対個人サービス	ケータリング費	44	46	90	
	旅費交通費	0	344	344	宿泊費
33 事務用品	消耗品費他	6,976	129	7,105	
計		592,391	77,365	669,756	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億7,000万円で、うち88.4%(約5億9,000万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅲ-4である。
- 主催事業では、北九州までの交通費などの運輸、スタッフ経費などの対事業所サービス、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、委託費(出演料)が最も大きく(年間約1,030万円)、次いで北九州市に滞在する出演者や関係者の招聘旅費交通費(年間約930万円)、ケータリング費(年間約310万円)とあわせると、約2,270万円が北九州市内で使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約2億2,000万円、うち37.9%(約8,300万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅲ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目		財団支出費目	金額(千円)			備考
			北九州市内	市外	合計	
18	その他の製造工業製品	印刷製本費	5,985	1,014	6,999	チラシ・ポスター
20	電力・ガス・熱供給	光熱水料費・燃料費	11	0	11	電気・灯油
21	水道・廃棄物処理	光熱水料費・委託費	63	1	64	上下水道、廃棄物処理
23	金融・保険	保険料	168	68	236	
25	運輸	旅費交通費	22,955	2,264	25,219	交通費
		委託費	38	1,224	1,262	運搬
		通信運搬費	1,056	4	1,060	宅配便
26	通信・放送	通信運搬費	1,565	0	1,565	電話・郵便
31	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ、フロントスタッフ)	18,713	410	19,123	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	477	113,491	113,968	
		支払負担金(公演負担金)	0	600	600	
		委託費(調律)	139	59	198	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	1,120	1,297	2,417	
		委託費(デザイン費)	121	457	578	デザイン
		賃借料・その他	3,027	1,195	4,222	著作権使用料
32	対個人サービス	委託費(出演料)	10,306	9,575	19,881	興行団、芸術家業
		諸謝金(スタッフ等)	156	249	405	
		委託費(撮影・映像編集)	575	668	1,243	
		招聘旅費交通費	9,281	1,104	10,385	宿泊費
		ケータリング費	3,077	1,572	4,649	食費
		その他	351	9	360	雑費
33	事務用品	消耗品費	3,690	607	4,297	
		消耗什器備品費	80	28	108	
計			82,954	135,896	218,850	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅲ-5)。
- 10年度の観客アンケートの調査結果を見ると、57.8%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食をした人の割合(金額を記入した人の割合)は48.0%、一人あたりの平均金額は1,585円、ショッピングした人(金額を記入した人の割合)の割合は27.6%、一人あたりの平均金額は4,610円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の3倍程度となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業、演劇フェスティバルなどの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者は3万4,954人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約2,700万円、ショッピングの支出額は約4,400万円、計7,100万円と推計される。なお、10年度は、北九州芸術劇場での公演回数が09年度に比べて増加し、したがって入場者数も増加したことから、北九州市内での観客の消費支出も増加している(09年度:5,600万円)。
- 同様に、北九州市以外(東京)での公演についても、入場者(625人)が同様の支出をしたと仮定すると、飲食の支出額は約47万円、ショッピングの支出額は約80万円、計127万円と推計される。

図表-資Ⅲ-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
消費行動の割合	48.0%	27.6%
一人あたりの平均金額（円）	1,585	4,610

	観客数 （人）	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	34,945	26,572	44,436	71,008
北九州市外での公演	625	475	795	1,270
合計	35,579	27,047	45,231	72,277

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものであり、小数点以下の数字の影響で、千円未満を四捨五入した数字で計算したものと異なる場合、合計値が一致しない場合がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JRとも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までのJR運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべてJR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資Ⅲ-6のとおり、合計で約2億2,200万円と推計される。

図表-資Ⅲ-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 商業	ショッピング(公演前後)	44,436	795	45,231	
23 運輸	旅費・交通費	16,488	95,876	112,364	
30 対個人サービス	食費(公演前後)	26,572	475	27,047	
	宿泊費	24,948	0	24,948	
	食費(宿泊に伴う)	12,474	0	12,474	
合計		124,918	97,146	222,064	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。

- 貸館事業の公演・講演回数(348回)から試算した果は下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約2億円、30%のケースで約3億円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅲ-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	198,958	0	198,958	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	298,437	0	298,437	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約4億3,900万円であった(図表-資Ⅲ-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。ため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 10年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、182,867人とした。

図表-資Ⅲ-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
22 商業	ショッピング(公演前後)	185,979	0	185,979	
25 運輸	旅費・交通費	141,539	0	141,539	
32 対個人サービス	食費(公演前後)	111,211	0	111,211	
合計		438,729	0	438,729	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成17年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出にともなう経済波及効果は、「平成17年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2010年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資Ⅲ-9)は、北九州市内が約8億1,100万円、北九州市外が約1億3,200万円、合計が約9億4,300万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.37、1.71、1.41である。
- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約1億1,600万円、北九州市外が約2億3,300万円、合計が約3億4,900万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.40、1.71、1.60である。

- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約12億9,000万円で、生産誘発係数は1.45である。

図表-資Ⅲ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			(千円)
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	合計
最終需要(支出額)	592,391	77,365	669,756	82,954	135,896	218,850	888,606
農林水産業	12	98	110	67	671	738	848
鉱業	878	41	919	10	87	97	1,015
飲食料品	31	95	126	552	1,500	2,052	2,179
繊維製品	133	163	295	27	308	336	631
パルプ・紙・木製品	2,123	1,135	3,258	644	2,114	2,758	6,016
化学製品	969	1,112	2,081	289	2,138	2,427	4,508
石油・石炭製品	1,379	660	2,039	262	1,517	1,779	3,818
窯業・土石製品	608	253	860	99	470	568	1,428
鉄鋼	869	1,094	1,963	101	1,892	1,993	3,956
非鉄金属	173	305	479	24	533	557	1,035
金属製品	1,057	429	1,486	162	801	963	2,449
一般機械	4,292	2,541	6,832	357	4,275	4,633	11,465
電気機械	719	672	1,391	52	1,126	1,177	2,568
情報・通信機器	9	125	134	1	210	211	345
電子部品	2,025	1,087	3,112	174	1,816	1,989	5,101
輸送機械	1,542	3,946	5,487	170	6,659	6,829	12,316
精密機械	56	54	110	7	92	99	209
その他の製造工業製品	9,218	3,274	12,493	7,448	6,285	13,733	26,226
建設	7,666	572	8,238	621	1,067	1,687	9,925
電力・ガス・熱供給	165,235	964	166,199	1,180	1,994	3,174	169,373
水道・廃棄物処理	11,740	293	12,033	926	792	1,718	13,751
商業	16,360	3,776	20,136	3,724	7,485	11,209	31,345
金融・保険	35,017	5,638	40,655	3,795	8,717	12,511	53,166
不動産	5,339	1,005	6,345	1,320	1,765	3,085	9,429
運輸	22,582	3,286	25,868	29,755	8,725	38,480	64,348
通信・放送	33,445	14,697	48,142	4,716	15,677	20,394	68,536
公務	716	151	867	110	251	360	1,228
教育・研究	4,659	911	5,569	296	1,502	1,798	7,368
医療・保健・社会保障・介護	7	2	9	3	4	6	15
その他の公共サービス	1,403	225	1,627	231	421	653	2,280
対事業所サービス	468,387	81,923	550,310	30,489	136,533	167,022	717,331
対個人サービス	1,085	699	1,784	24,089	13,754	37,843	39,627
事務用品	8,270	323	8,593	3,969	980	4,949	13,542
分類不明	2,891	541	3,432	442	896	1,339	4,771
合計	810,893	132,089	942,981	116,109	233,057	349,166	1,292,148
生産誘発係数	1.37	1.71	1.41	1.40	1.71	1.60	1.45

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資Ⅲ-10)をみると、北九州市内が約1億7,200万円、北九州市外が約1億7,600万円、合計が約3億4,800万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.38、1.81、1.57となっている。

図表-資Ⅲ-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

	(千円)		
	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	124,918	97,146	222,064
農林水産業	173	96	269
鉱業	17	393	410
飲食料品	1,483	102	1,586
繊維製品	44	191	234
パルプ・紙・木製品	368	1,330	1,698
化学製品	230	631	861
石油・石炭製品	261	10,204	10,465
窯業・土石製品	162	198	361
鉄鋼	117	828	944
非鉄金属	22	186	209
金属製品	311	499	810
一般機械	114	641	755
電気機械	26	244	270
情報・通信機器	0	48	48
電子部品	46	293	339
輸送機械	88	3,473	3,561
精密機械	19	22	40
その他の製造工業製品	1,215	1,725	2,940
建設	1,116	1,546	2,662
電力・ガス・熱供給	2,589	2,178	4,767
水道・廃棄物処理	1,964	774	2,738
商業	49,794	6,086	55,880
金融・保険	5,907	7,505	13,413
不動産	2,733	2,145	4,878
運輸	24,093	109,324	133,417
通信・放送	4,295	4,290	8,585
公務	167	199	366
教育・研究	381	707	1,089
医療・保健・社会保障・介護	4	7	11
その他の公共サービス	390	216	606
対事業所サービス	8,373	18,294	26,667
対個人サービス	64,760	624	65,383
事務用品	438	268	706
分類不明	672	712	1,384
合計	172,371	175,980	348,352
生産誘発係数	1.38	1.81	1.57

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料Ⅲ-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約2億600万円、30%の場合は約3億900万円で、生産誘発係数はともに1.38である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約6億1,400万円、生産誘発係数は1.40である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資Ⅲ-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	149,333	223,999	438,729
農林水産業	71	107	306
鉱業	12	18	62
飲食料品	590	884	2,592
繊維製品	44	66	148
パルプ・紙・木製品	743	1,114	1,284
化学製品	385	577	516
石油・石炭製品	249	374	1,541
窯業・土石製品	149	224	438
鉄鋼	200	300	439
非鉄金属	45	68	68
金属製品	252	378	1,077
一般機械	1,048	1,572	409
電気機械	171	257	96
情報・通信機器	2	3	1
電子部品	495	743	184
輸送機械	413	620	543
精密機械	16	24	62
その他の製造工業製品	7,180	10,770	3,988
建設	859	1,289	4,226
電力・ガス・熱供給	1,556	2,334	8,198
水道・廃棄物処理	1,073	1,610	4,877
商業	5,284	7,926	200,943
金融・保険	7,392	11,088	24,567
不動産	1,785	2,678	10,834
運輸	25,443	38,164	176,501
通信・放送	9,133	13,700	15,044
公務	196	295	660
教育・研究	558	837	1,514
医療・保健・社会保障・介護	3	5	17
その他の公共サービス	413	620	1,005
対事業所サービス	110,486	165,729	34,918
対個人サービス	25,712	38,569	112,801
事務用品	3,364	5,046	1,581
分類不明	793	1,190	2,664
合計	206,117	309,176	614,104
生産誘発係数	1.38	1.38	1.40

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資Ⅲ-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約168人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で146人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約176人、雇用者数(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で154人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。
- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅲ-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	2	1	2	2
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
水道・廃棄物処理	1	1	1	1
商業	29	26	29	26
金融・保険	4	3	4	3
運輸	18	17	18	18
情報通信	3	3	3	3
教育・研究	1	1	1	1
対事業所サービス	71	62	77	67
対個人サービス	35	28	37	29
合計	168	146	176	154

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅲ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約11億1,100万円で、そのうち、72.1%にあたる約8億円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約16億4,000万円で、そのうち67.0%にあたる約10億9,900万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.48、北九州市内で1.37である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約8億2,000万円～9億2,300万円で、生産誘発係数は1.39である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約24億6,100万円～25億6,400万円で、北九州市内に限ってみると、約19億2,000万円～20億2,300万円となっている。これは、2009年度に較べて総合計は低いものの、北九州市内では増加しており、(2009年度は、総合計:約24億7,300万円～25億9,800万円、北九州市内:約18億1,800万円～19億4,300万円)、誘発係数はやや増加して1.45となっている(2009年度は1.42)。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約168～176人、雇用者ベースで約146～154人である。

図表-資Ⅲ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	⇒ 6億7,000万円 (5億9,200万円)	⇒ 9億4,300万円 (8億1,100万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	⇒ 2億1,900万円 (8,300万円)	⇒ 3億4,900万円 (1億1,600万円)	1.6 (1.40)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	⇒ 2億2,200万円 (1億2,500万円)	⇒ 3億4,800万円 (1億7,200万円)	1.57 (1.38)
	小計	⇒ 11億1,100万円 (8億円)	⇒ 16億4,000万円 (10億9,900万円)	1.48 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	⇒ 1億4,900万円 ～2億2,400万円	⇒ 2億600万円 ～3億900万円	1.38
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	⇒ 4億3,900万円	⇒ 6億1,400万円	1.40
	小計(参考値)	⇒ 5億8,800万円 ～6億6,300万円	⇒ 8億2,000万円 ～9億2,300万円	1.39
	合計(参考値)	⇒ 16億9,900万円 ～17億7,300万円 (13億8,800万円 ～14億6,300万円)	⇒ 24億6,100万円 ～25億6,400万円 (19億2,000万円 ～20億2,300万円)	1.45 (1.38)
		⇓		
		雇用効果 (北九州市内)	168～176人(就業者ベース) 146～154人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

IV

パブリシティー覧

1. 主催／提携・協力事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
情報キング＝第9回ふくおか市民狂言会＝メルヘンの世界 ほか 2010/04/01 西日本新聞夕刊 3ページ 2487 文字	西日本	夕	136
ガイド＝平岡祐太さんら主演の舞台「相対的浮世絵」を上演 2010/04/02 西日本新聞朝刊 25ページ 351 文字	西日本	朝	351
北九州芸術劇場「ハコブネ」――同世代の作家、地元と一丸（アプローチ九州） 2010/04/08 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34頁 絵写表有 706 文字	日経地方経済面	―	706
CHIKUHOUお出かけガイド・近隣ネット＝俳優の平岡祐太さんら主演 2010/04/09 西日本新聞朝刊 23ページ 370 文字	西日本	朝	370
木の実ナナさん主演ミュージカル「イカれた主婦」上演 2010/04/10 西日本新聞朝刊 29ページ 329 文字	西日本	朝	329
近隣ネット＝ミュージカル「イカれた主婦」 木の実ナナさんら6月上演 2010/04/15 西日本新聞朝刊 21ページ 318 文字	西日本	朝	318
乳幼児向けの人形劇 6月15日、平常さんが上演 北九州芸術劇場 2010/04/24 西日本新聞朝刊 25ページ 272 文字	西日本	朝	272
イッセー尾形さんが22日に一人芝居公演 北九州芸術劇場 2010/05/20 西日本新聞朝刊 20ページ 294 文字	西日本	朝	294
公演：イッセー尾形さん、きょう小倉で「ここは半分私のルーツ」 2010/05/22 毎日新聞 地方版 21ページ 714 文字	毎日地方版	―	714
第8回はなしょうぶまつり、演劇「ナンシー」、他（がいでガイド） 2010/05/25 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 677 文字 PDF有	日経地方経済面	―	139
ほぼしら＝北九州芸術劇場で俳優イッセー尾形さんの公演を見た… 2010/05/28 西日本新聞朝刊 24ページ 301 文字	西日本	朝	301
劇評＝木の実ナナ主演「イカれた主婦」 元気が出るミュージカル 2010/06/10 西日本新聞夕刊 4ページ 711 文字	西日本	夕	711
思い思いに楽しんだよ 北九州・小倉北で乳幼児向け人形劇 県 2010/06/16 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 362 文字	朝日西部	朝	362
ガイド＝小さな音楽会 ティエラ11 ほか／京築・北九州 2010/06/25 西日本新聞朝刊 27ページ 3038 文字	西日本	朝	278
子供のためのシェイクスピアシリーズ：演出の山崎清介 せりふ整理しギャグも 2010/06/30 毎日新聞 夕刊 3ページ 877 文字	毎日全国	夕	877
ガイド＝ティータイムライブあくびー弾き語りVol.3 ほか／京築・北九州 2010/07/02 西日本新聞朝刊 25ページ 2885 文字	西日本	朝	163
情報キング＝第6回まほろばコンサート ほか 2010/07/08 西日本新聞夕刊 2ページ 2288 文字	西日本	夕	116
CHIKUHOUお出かけガイド＝第8回九州マントリンアンサンブルフェスティバルほか 2010/07/10 西日本新聞朝刊 33ページ 845 文字	西日本	朝	167
公演「2番目、或いは3番目」 2010/07/14 佐賀新聞 8ページ 479 文字	佐賀	―	479
【トピック】「ピーターパン」30回目の夏「夢の国」女優飛躍 2010/07/16 東京読売新聞 朝刊 26ページ 写 2136 文字	東京読売	朝	2136
月猫えん音楽会2010、福津ふるさと劇場2010、他（がいでガイド） 2010/07/20 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 663 文字 PDF有	日経地方経済面	―	663
廃虚に生き残った善と悪が絡み合う 劇団ナイロン100℃「2番目、或いは3番目」 2010/07/22 西日本新聞夕刊 4ページ 466 文字	西日本	夕	466
イッセー尾形さん＆小松政夫さん 間合い絶妙2人芝居 2010/07/30 西日本新聞朝刊 25ページ 320 文字	西日本	朝	320
ピーターパン 夢と冒険30年 8代目・高畑充希 北九州市など全国公演／裕・遊・悠 2010/08/05 西日本新聞夕刊 4ページ 1010 文字	西日本	夕	1010
ミュージカル「ピーターパン」／歌とフライング／魅了し続け30年／夢だけでなく哀愁も盛り込み 2010/08/06 東奥日報 夕刊 5ページ 1202 文字	東奥日報	夕	1202
子どものためのシェイクスピア劇「お気に召すまま」上演 2010/08/18 西日本新聞朝刊 27ページ 459 文字	西日本	朝	459
（イイかも！）表現・さわやか公演「アラン！ドロン！」 東京発コント 県 2010/09/02 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 542 文字	朝日西部	朝	542
ガイド＝柴幸男さん演出のミュージカル「わが星」出演者募集 2010/09/03 西日本新聞朝刊 25ページ 383 文字	西日本	朝	383
ゆりつくす日曜百円寄席、アクロス・文化であい塾、演劇「香華」、他（がいでガイド） 2010/09/07 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 673 文字 PDF有	日経地方経済面	―	138
舞台：地元で育てる演劇を披露――あすから北九州芸術劇場で 2010/09/17 毎日新聞 地方版 20ページ 443 文字	毎日地方版	―	443

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
ガイド＝昼下がりのジャズ・コンサート ほか／京築・北九州 2010/09/17 西日本新聞朝刊 29ページ 3065 文字	西日本	朝	355
リーディング劇注目 有名演出家とセッションも 2010/09/24 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 1223 文字	西部読売	夕	1223
3週間で芝居つくろう 期間限定の劇団シアターコロボ 参加者を募集 2010/09/25 西日本新聞朝刊 31ページ 368 文字	西日本	朝	368
飛ぶ劇場が11月 新作の「蛙先生」 小倉北区で上演 2010/10/13 西日本新聞朝刊 25ページ 423 文字	西日本	朝	423
「ハーイ！」現代の病理あぶり出す「飛ぶ劇場」 2010/10/15 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 285 文字	西部読売	夕	285
クリスマスめぐるコメディ 芸術劇場で11月初演 京都拠点の劇団「MONO」 2010/10/23 西日本新聞朝刊 29ページ 394 文字	西日本	朝	394
カンパニーデラシネラ「点と線」観劇前レクチャー、他(がいどガイド) 2010/10/26 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 647 文字 PDF有	日経地方経済面	—	647
「ラブレター」 今月から再演 南河内万歳一座 2010/11/06 岩手日報朝刊 21ページ 390 文字	岩手日報	朝	390
情報キング＝太宰府へ贈る 愛の賛歌－関雅子シャンソンコンサート ほか 2010/11/11 西日本新聞夕刊 3ページ 2427 文字	西日本	夕	175
「点と線」ダンスの疾走感 カンパニーデラシネラ 来月、北九州公演 2010/11/12 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 1179 文字	西部読売	夕	1179
京都の劇団「MONO」「地元意識芽生え」福岡で新作初演 20、21日 2010/11/12 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 582 文字	西部読売	夕	582
うどんテーマに新作演劇 福岡市の劇団「PA!ZOO」 12月18、19日 2010/11/13 西日本新聞朝刊 31ページ 432 文字	西日本	朝	432
「評」蛙先生 「負け組」が問うたもの 2010/11/26 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 749 文字	西部読売	夕	749
合唱風ラップでミュージカル あす市民23人出演 北九州芸術劇場 2010/11/27 西日本新聞朝刊 29ページ 421 文字	西日本	朝	421
「劇団の原点感じて」「南河内万歳一座」来年1月に公演 「ラブレター」再演 2010/11/30 西日本新聞朝刊 22ページ 544 文字	西日本	朝	544
日仏融合 魅惑のダンス「体」と「身」の交流 人間存在の意味 2010/12/03 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 1058 文字	西部読売	夕	1058
10—60代市民が「町人貴族」上演 18、19日、北九州芸術劇場 2010/12/04 西日本新聞朝刊 31ページ 313 文字	西日本	朝	313
「佐藤順一読演会8」、ゆりつくす日曜百円寄席、他(がいどガイド) 2010/12/07 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 661 文字 PDF有	日経地方経済面	—	155
年末年始も舞台は熱い 2010/12/10 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 1238 文字	西部読売	朝	577
山海塾、新作を日本初演 1月22、23日、北九州芸術劇場 主宰天児氏 2010/12/11 西日本新聞朝刊 29ページ 577 文字	西日本	朝	577
プロの世界に刺激受け 北九州芸術劇場で演劇に挑戦する高校生 溝越万莉さん 2010/12/15 西日本新聞朝刊 23ページ 433 文字	西日本	朝	433
「時空の旅シリーズ」第3弾／「3人姉妹」2月公演／県立芸術劇場が自主制作 2010/12/22 宮崎日日新聞朝刊 12ページ 815 文字	宮崎日日	朝	815
演劇「抜け穴の会議室」、他(がいどガイド) 2010/12/28 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 667 文字 PDF有	日経地方経済面	—	135
情報キング＝映画のある毎日に。vol・8「初笑い！山田広野の活弁天国」ほか 2011/01/06 西日本新聞夕刊 2ページ 2199 文字	西日本	夕	118
「ラブレター」北九州でも 30周年の南河内万歳一座が再演 2011/01/06 西日本新聞夕刊 4ページ 356 文字	西日本	夕	356
南河内万歳一座 ラブレター ほか 2011/01/07 西日本新聞朝刊 21ページ 2742 文字	西日本	朝	174
文楽 3月5日に公演 戸畑市民会館 「忠臣蔵」や「曾根崎心中」 2011/01/08 西日本新聞朝刊 27ページ 337 文字	西日本	朝	337
TOTOとタッグ トイレテーマ ユニーク舞台 2月、北九州芸術劇場 2011/01/08 西日本新聞朝刊 28ページ 481 文字	西日本	朝	481
小栗 旬 究極の暴力に挑む「不思議なエネルギーが生まれる舞台」 2011/01/12 西日本新聞夕刊 4ページ 743 文字	西日本	夕	743
「373ワイド 芸ナビ」山海塾「から・み」22、23日国内初演／北九州市・芸術劇場 2011/01/12 南日本新聞朝刊 13ページ 543 文字	南日本	朝	543
人体という宇宙、舞踏で表現 山海塾の新作「から・み」 2011/01/13 朝日新聞 夕刊 4ページ 絵写表有 800 文字	朝日西部	夕	800

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
トイレの街、うんと笑わす 北九州で喜劇「BEN」 TOTOも制作協力【西部】 2011/01/14 朝日新聞 夕刊 9ページ 絵写表有 728 文字	朝日西部	夕	728
パリで発表の新作、日本上演、天児牛大さん——体の表・内、踊りで考察。 2011/01/18 日本経済新聞 夕刊 20ページ 絵写表有 505 文字	日経全国	夕	505
宮崎発古典劇、初の県外上演 チューホフ「三人姉妹」に挑む 2011/01/18 朝日新聞 朝刊 22ページ 絵写表有 743 文字	朝日西部	朝	743
山海塾：天児牛大が新作「から・み」上演——東京で26～30日 2011/01/19 毎日新聞 夕刊 5ページ 419 文字	毎日全国	夕	419
演劇：「窓の彼方へ」公演 来月11日、北九州芸術劇場 2011/01/20 毎日新聞 地方版 16ページ 393 文字	毎日地方版	—	393
北九州「BEN」 宮崎「三人姉妹」劇場制作の公演 九州定着 2011/01/21 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 1329 文字	西部読売	夕	1329
「トイレには人生が見える」 北九州芸術劇場制作 演劇「BEN」 2011/01/31 西日本新聞夕刊 4ページ 833 文字	西日本	夕	833
舞台「焼肉ドラゴン」再び 7日から日韓で公演 2011/02/03 朝日新聞 夕刊 4ページ 絵写表有 630 文字	朝日全国	夕	630
★舞台進行形★ 「焼肉ドラゴン」日韓で再び 在日一家の絆 深化 2011/02/05 岩手日報朝刊 21ページ 絵写表有 731 文字	岩手日報	朝	731
〈おおむた寄席〉林家木久扇・林家木久蔵親子会、他(がいどガイド) 2011/02/08 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 661 文字 PDF有	日経地方経済面	—	110
話題の舞台「焼肉ドラゴン」、日韓で再び 高度成長期の在日コリアン描く 2011/02/09 秋田魁新報 朝刊 23ページ 714 文字	秋田魁新報	朝	714
6月、北九州芸術劇場で上演「散歩する侵略者」劇団主宰の前川知大氏 2011/02/18 西日本新聞朝刊 25ページ 392 文字	西日本	朝	392
国際理解教育事例発表会、人形浄瑠璃「文楽」、他(がいどガイド) 2011/02/22 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 667 文字 PDF有	日経地方経済面	—	667
(評・演劇)北九州芸術劇場プロデュース公演「BEN」 2011/03/01 朝日新聞 朝刊 32ページ 絵写表有 832 文字	朝日西部	朝	832
トイレの進化を通し昭和の生活を喜劇に あすから豊島で /東京都 2011/03/03 朝日新聞 朝刊 35ページ 374 文字	朝日全国	朝	374
昭和の庶民生活をトイレ通じ描く 喜劇、あすから池袋で /東京都 2011/03/03 朝日新聞 朝刊 35ページ 320 文字	朝日全国	朝	320
米国の傑作戯曲で初共演 歌手の石丸幹二、俳優の坂東三津五郎 2011/03/03 熊本日日新聞夕刊 6ページ 328 文字 PDF有	熊本日日	夕	328
人生重ね初舞台 北九州、65—81歳のエキストラ 無言の演技で「万感」 2011/03/09 西日本新聞夕刊 7ページ 932 文字	西日本	夕	932
情報キング・PICK UP＝「焼肉ドラゴン」を再演 4月16—17日、北九州芸術劇場 2011/03/10 西日本新聞夕刊 2ページ 339 文字	西日本	夕	339
日韓合作舞台 3年ぶり再演 2011/03/16 佐賀新聞 25ページ 635 文字 PDF有	佐賀	—	635
近況往来＝演劇の魅力知り、初の演出へ 映画監督、作家 青山真治さん 2011/03/28 西日本新聞朝刊 9ページ 1024 文字	西日本	朝	1024
計			82件

2. 学芸事業

記事タイトル・記事情報	換算	紙名／版	朝／夕
フレーバーズカフェ：おやじウエーターがダンス リバーウォーク7周年で開店 2010/04/18 毎日新聞 地方版 21ページ 639 文字	毎日地方版	—	639
リバーウォーク 7周年キャンペーン始まる おやじカフェで盛り上げ＝北九州 2010/04/18 西部読売新聞 朝刊 29ページ 写 461 文字	西部読売	朝	461
月1ダンス部 参加者を募集 北九州芸術劇場＝北九州 2010/04/28 西部読売新聞 朝刊 30ページ 379 文字	西部読売	朝	379
青空の下、ダンス 親子連れなど40人が参加 北九州芸術劇場 2010/05/17 西日本新聞朝刊 20ページ 375 文字	西日本	朝	375
北九州芸術劇場：「劇場塾」の受講生募集 対象は高校生以上 2010/05/21 毎日新聞 地方版 18ページ 492 文字	毎日地方版	—	492
ゆりつくす日曜百円寄席、EUフィルムデーズ2010、他(がいどガイド) 2010/06/08 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 684 文字 PDF有	日経地方経済面	—	137
演劇作り体験 小学生を募集 北九州芸術劇場 2010/06/23 西日本新聞朝刊 25ページ 386 文字	毎日西部	朝	386
[文化短信]北九州パントマイム教室 2010/06/25 西日本新聞朝刊 11ページ 184 文字	西日本	朝	184

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
ミニコンサート:歌とピアノ児童魅了 北九州芸術劇場、すがお小で開催 2010/07/03 毎日新聞 地方版 21ページ 564 文字	毎日地方版	—	564
北九州発＝ソプラノ歌手ら 学校訪ね演奏会 小倉南区すがお小 2010/07/03 西日本新聞朝刊 26ページ 335 文字	西日本	朝	335
情報キング＝音楽工房「響」in Fukuoka第17回公開セミナー2010 2010/07/15 西日本新聞夕刊 3ページ 2563 文字	西日本	夕	196
情報キング＝ミュージカル「銀河鉄道の夜」ほか 2010/07/29 西日本新聞夕刊 3ページ 2350 文字	西日本	夕	297
情報キング＝第十四回夏季「狂言の会」ほか 2010/08/12 西日本新聞夕刊 2ページ 2260 文字	西日本	夕	287
「夜景」テーマに演劇づくり体験 北九州芸術劇場 参加者を募集 2010/08/25 西日本新聞朝刊 27ページ 358 文字	西日本	朝	358
芝生の上でダンス 1—77歳のびのび 勝山公園で楽しむ 2010/09/08 西日本新聞朝刊 23ページ 339 文字	西日本	朝	339
体育会ダンスプロ招き特訓 八幡西区の沖田中学校 19日に披露 2010/09/15 西日本新聞朝刊 29ページ 350 文字	西日本	朝	350
ワークショップ:演劇に親しんで 北九州・戸畑で始まる 来月3日には発表会 2010/09/22 毎日新聞 地方版 19ページ 454 文字	毎日地方版	—	454
思い出の品 演技で表現 小倉南の20人 あす発表会＝北九州 2010/10/23 西部読売新聞 朝刊 31ページ 写 601 文字	西部読売	朝	601
YOU名人＝感性研ぎ澄ましスピン 福岡市早良区 百田 彩乃さん(26) 2010/10/23 西日本新聞夕刊 1ページ 282 文字	西日本	夕	282
演劇で自身も地域もイキイキ 市民20人 芝居挑戦 熱心にけいこ、あす発表会 2010/10/23 西日本新聞朝刊 28ページ 379 文字	西日本	朝	379
情報キング＝「劇場塾」2日間の俳優実践講座 ほか 2010/12/02 西日本新聞夕刊 2ページ 2289 文字	西日本	夕	230
美術鑑賞教育、3施設が連携 質高いプログラム完成 北九州 県 2010/12/09 朝日新聞 朝刊 31ページ 634 文字	朝日西部	朝	634
「日常」ヒントに創作 北九州芸術劇場月1ダンス部一つくってみる編 2011/01/12 西日本新聞朝刊 23ページ 325 文字	西日本	朝	325
CCA北九州、美術館、芸術劇場 演劇通じ絵画鑑賞 3者連携し初企画 2011/01/15 西日本新聞朝刊 29ページ 466 文字	西日本	朝	466
北九州芸術劇場 きょう市民演劇 2011/02/13 西日本新聞朝刊 28ページ 362 文字	西日本	朝	362
(教育の現場から)絵画鑑賞、多面的に 北九州、小学生向けに美術館で授業 2011/02/19 朝日新聞 朝刊 30ページ 絵写表有 1442 文字	朝日西部	朝	1442
ミニ情報＝アーティスト往来プログラム・聴講生とアシスタント募集 2011/03/15 西日本新聞朝刊 17ページ 250 文字	西日本	朝	250
北九州芸術劇場「月1ダンス部」 現代舞踏「でこぼこで」公演 きょうから 2011/03/26 西日本新聞朝刊 28ページ 401 文字	西日本	朝	401
計			28件

3. 貸館事業

記事タイトル・記事情報	換算	紙名／版	朝／夕
松岡直也 58周年記念『Play 4 You』、他(音楽がいどガイド) 2010/04/01 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 695 文字 PDF有	日経地方経済面	—	695
芸術劇場の演劇 出演の子役募集 青春座 2010/04/17 西日本新聞朝刊 26ページ 316 文字	西日本	朝	316
情報キング＝安永徹・市野あゆみ&Friends ほか 2010/04/22 西日本新聞夕刊 3ページ 2548 文字	西日本	夕	230
アマバンド腕競う 小倉北区でロックフェスタ 9組熱演、人気投票も 2010/05/16 西日本新聞朝刊 26ページ 362 文字	西日本	朝	362
さだまさしインタビュー／一層強まった古里への思い 2010/05/23 長崎新聞 16ページ 1132 文字	長崎	—	1132
自慢ののどや舞を披露 北九州民謡民舞音楽祭＝北九州 2010/05/24 西部読売新聞 朝刊 29ページ 写 243 文字	西部読売	朝	243
ガイド＝江藤紀世 ほか／京築・北九州 2010/06/18 西日本新聞朝刊 25ページ 3053 文字	西日本	朝	155
河野明子とイタリアの仲間たちクラシックコンサート、他(音楽がいどガイド) 2010/06/24 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 701 文字 PDF有	日経地方経済面	—	130
ライブ:「KOBUDO—古武道」が来月4日 小倉で県内初 2010/06/24 毎日新聞 地方版 24ページ 363 文字	毎日地方版	—	363

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
小倉の中2 モナコへバレエ留学 校長から異例の申し出 芥さん 2010/06/24 西日本新聞朝刊 24ページ 612 文字	西日本	朝	612
原爆伝える朗読劇、今夏も「夏の雲は忘れない」 2010/07/01 朝日新聞 夕刊 4ページ 絵写表有 331 文字	朝日西部	夕	311
演奏会:障害者も加わり ボランティア団体主催、芸術劇場であす 2010/07/02 毎日新聞 地方版 21ページ 280 文字	毎日地方版	—	280
北九州交響楽団2010サマーコンサート、他(音楽がいどガイド) 2010/07/15 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 703 文字 PDF有	日経地方経済面	—	703
北九州市ジュニアオーケストラ 8月29日に定期演奏会 北九州芸術劇場 2010/07/17 西日本新聞朝刊 31ページ 354 文字	西日本	朝	354
韓国歌謡の歌唱力競う 県勢、浜田さん・中村さんV 九州予選 県 2010/07/18 朝日新聞 朝刊 21ページ 絵写表有 259 文字	朝日西部	朝	259
音楽で街に彩りを 北九州プロムナード開幕 2010/08/01 西日本新聞朝刊 26ページ 432 文字	西日本	朝	432
公害克服の歩み、舞踊に 女性99人表現 小倉北の黒田さん創作・15日上演 2010/08/07 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 890 文字	朝日西部	朝	890
黒田バレエスクール:開校65年「愛の詩」15日に上演 81歳熱心に指導 2010/08/12 毎日新聞 地方版 19ページ 693 文字	毎日地方版	—	693
公害克服の歩みを舞に 故郷・北九州へ感謝 表現 舞踊人生65年 黒田さん創作 2010/08/13 西日本新聞夕刊 1ページ 1169 文字	西日本	夕	1169
公害克服の歴史 華麗に 舞踊人生65年の黒田さん創作 黒田バレエスクール公演 2010/08/16 西日本新聞朝刊 20ページ 437 文字	西日本	朝	437
10月30、31日の「椿姫」 公演前にオペラ学ぶ 誕生秘話やストーリー紹介 2010/08/26 西日本新聞朝刊 22ページ 431 文字	西日本	朝	431
じわっこみ上げる笑い「表現・さわやか」来月北九州公演 2010/08/27 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 486 文字	西部読売	夕	486
北九州ミュージックプロムナード2010サマーミュージックin戸畑 ほか 2010/08/27 西日本新聞朝刊 23ページ 2874 文字	西日本	朝	118
10日から北九州、大分、宮崎、鹿児島 中村扇雀、橋之助の「鳴神」 2010/09/02 西日本新聞夕刊 4ページ 1283 文字	西日本	夕	1283
三島裕子バレエスクール:きょう15周年発表会 神話題材「シルヴィア」上演 2010/09/05 毎日新聞 地方版 23ページ 332 文字	毎日地方版	—	332
ライブ:ボイス&ギター 渡辺香津美さんと吉田美奈子さん、19日に井筒屋で 2010/09/15 毎日新聞 地方版 23ページ 592 文字	毎日地方版	—	592
音楽で小倉彩るフェスタ始まる 延べ120組演奏 2010/09/26 西日本新聞朝刊 28ページ 306 文字	西日本	朝	306
演劇「武士の家計簿」 北九州市で11月 団員が金沢訪問 2010/09/27 北國新聞 朝刊 16ページ 443 文字 PDF有	北國	朝	443
北九州ハーモニカコンサート ファン育て13回目 来月、最後の公演 2010/09/29 西部読売新聞 朝刊 34ページ 写 905 文字	西部読売	朝	905
館野泉ピアノ・リサイタル2010、他(音楽がいどガイド) 2010/10/07 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 685 文字 PDF有	日経地方経済面	—	84
「椿姫」行橋で全編上演 実行委「音楽・舞台の力感じて」 来月コスメイトで 2010/10/13 朝日新聞 朝刊 35ページ 絵写表有 834 文字	朝日西部	朝	834
北九州ハーモニカコンサート:最後、国内活躍6組演奏 24日北九州芸術劇場 2010/10/21 毎日新聞 地方版 22ページ 323 文字	毎日地方版	—	323
童謡まつり&合唱音楽祭:13団体400人が出演ーあす、小倉北区室町で 2010/10/22 毎日新聞 地方版 21ページ 331 文字	毎日地方版	—	331
松下隆二、池田慎司、竹内竜次によるギタートリオコンサート ほか 2010/10/22 西日本新聞朝刊 25ページ 2985 文字	西日本	朝	189
紙ふうせん:2本立て、スターも応援 2010/10/24 毎日新聞 西部朝刊 25ページ 720 文字	毎日西部	朝	720
13団体400人が童謡など披露 2010/10/24 西日本新聞朝刊 28ページ 337 文字	西日本	朝	337
オペラ:「椿姫」あすから上演 主役が北九州市長を訪問 2010/10/29 毎日新聞 地方版 21ページ 519 文字	毎日地方版	—	519
演劇集団ばあく「佐藤順一読演会7」、他(がいどガイド) 2010/11/09 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 656 文字 PDF有	日経地方経済面	—	656
紙ふうせん:亡き友にささぐダンス 2010/11/13 毎日新聞 西部朝刊 27ページ 682 文字	毎日西部	朝	682
◎舞台版「武士の家計簿」 北九州市でアマチュア劇団上演 2010/11/21 北國新聞 朝刊 18ページ 210 文字 PDF有	北國	朝	210

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
観客うつり 北九州少年合唱隊定演 2010/11/24 西部読売新聞 朝刊 31ページ 写 293 文字	西部読売	朝	293
児童館フェスタ2010 ほか 2010/11/26 西日本新聞朝刊 25ページ 2797 文字	西日本	朝	176
思い入れある2人対談 平野啓一郎さんと小山実稚恵さん 2010/12/02 西日本新聞朝刊 18ページ 552 文字	西日本	朝	552
手話フェスタで 講演や映画上映＝北九州 2010/12/07 西部読売新聞 朝刊 31ページ 363 文字	西部読売	朝	363
現田茂夫が2年連続指揮 九響ニューイヤーコンサート 2010/12/10 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 403 文字	西部読売	夕	403
音二郎と清張、人生が輝く舞台 博多座・北九州芸術劇場で上演 2010/12/21 朝日新聞 朝刊 22ページ 絵写表有 683 文字	朝日西部	朝	683
1月の九響＝新春は華麗なワルツで ソプラノは日紫喜恵美 2010/12/24 西日本新聞朝刊 10ページ 697 文字	西日本	朝	697
新春能楽公演、「二つの流れーから・み」、他(がいでガイド) 2011/01/04 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 661 文字 PDF有	日経地方経済面	ー	661
ディーツァイムライブ ギター弾き語り 大木恒平and白川亨 ほか 2011/02/25 西日本新聞朝刊 27ページ 2834 文字	西日本	朝	136
合唱組曲「北九州」演奏会 ほか 2011/03/04 西日本新聞朝刊 27ページ 2942 文字	西日本	朝	168
第7回チャリティーピアノフェスティバル桜 ほか 2011/03/11 西日本新聞朝刊 27ページ 3135 文字	西日本	朝	109
消防音楽隊の演奏会も中止 北九州市 東北・関東大地震 2011/03/12 西日本新聞朝刊 30ページ 109 文字	西日本	朝	109
劇団青春座: 故井上ひさしさん追悼「キネマの天地」上演ー 来月23日 2011/03/17 毎日新聞 地方版 18ページ 409 文字	毎日地方版	ー	409
小倉北 バレエ発表会 観客700人魅了 2011/03/22 西日本新聞朝刊 18ページ 213 文字	西日本	朝	213
[わがまちホームページ]北九州市小倉南区沼校区＝北九州 2011/03/23 西部読売新聞 朝刊 21ページ 写・表 2359 文字	西部読売	朝	2359
計			55件

4. その他事業(劇場、劇場メンバー等に関する記事、芸術祭など)

記事タイトル・記事情報	換算	紙名／版	朝／夕
北九州演劇フェスタ「文化力の地域格差」語る 2010/04/02 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 938 文字	西部読売	夕	938
「反骨精神響いた」「大きな存在」九州からも惜別の声 井上ひさしさん死去 2010/04/13 西日本新聞朝刊 30ページ 490 文字	西日本	朝	490
芸術監督から地域と劇場学ぶ 24日から全10回講座 2010/07/21 大阪日日新聞 16ページ 542 文字	大阪日日	ー	542
福岡市／拠点文化施設専門委を設置／市民会館のあり方、1年程度で提言 2010/08/10 日刊建設工業新聞 13ページ 938 文字	日刊建設工業	ー	938
(見)県境越え、劇団タッグ 長崎×熊本、福岡×札幌 2010/08/24 朝日新聞 朝刊 24ページ 絵写表有 2153 文字	朝日西部	朝	2153
荒れた学校 イベントで再生 中学校長の島田さんが本出版 2010/09/22 西日本新聞朝刊 23ページ 701 文字	西日本	朝	701
生徒鼓舞、きっかけ術 イベント通じ自尊心 現役校長・島田さん 2010/09/24 朝日新聞 朝刊 29ページ 絵写表有 833 文字	朝日西部	朝	833
北九州国際音楽祭:N響コンマス・篠崎さんら、魅力アピール 2010/09/25 毎日新聞 地方版 21ページ 967 文字	毎日地方版	ー	967
プロと本格舞台づくり 照明 音楽 本番さながら 沖田中の6人 2010/10/15 西日本新聞朝刊 28ページ 373 文字	西日本	朝	373
(回顧2010:上)美術・演劇・音楽 2010/12/14 朝日新聞 朝刊 28ページ 絵写表有 3345 文字	朝日西部	朝	3345
2010年「演劇」回顧 劇団四季 福岡撤退 地元勢は切磋琢磨 2010/12/17 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 1319 文字	西部読売	夕	1319
回顧2010・演劇＝シティ劇場、転機 2010/12/22 西日本新聞朝刊 8ページ 1084 文字	西日本	朝	1084
ふくおかの藝 シニア劇団 引っ張りだこ 年輪が芝居に深み＝福岡 2011/01/01 西部読売新聞 朝刊 34ページ 写・表 2111 文字	西部読売	朝	2111
福岡、気鋭の3劇団 東京デビュー飛躍の年 2011/01/07 西部読売新聞 夕刊 7ページ 写 1715 文字	西部読売	夕	1715

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
市民ホール設計を公告／2月14日まで参加受付／東広島市提案競技 2011/01/12 建設通信新聞 16ページ 1010 文字	建設通信	－	1010
サザンクス筑後 地域創造大賞を受賞 芸術・文化で貢献 11日に記念イベント開催 2011/02/08 西日本新聞朝刊 21ページ 674 文字	西日本	朝	674
ふくおか芸術文化の祭典、春風亭小朝独演会、他(がいどガイド) 2011/02/15 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 645 文字 PDF有	日経地方経済面	－	126
芸術鑑賞拡大へ法制化検討／「劇場法」考えよう／来月3日宇都宮で研修会 2011/02/22 下野新聞 19ページ 1275 文字	下野	－	1275
独学の芸に磨きかけ 八幡西区ボランティア連絡協議会会長 中岡 重隆さん(69) 2011/02/22 西日本新聞朝刊 25ページ 419 文字	西日本	朝	419
「劇場法」を考える／県内施設責任者ら討議 2011/03/13 下野新聞 15ページ 1851 文字	下野	－	1851
(見)演劇フェス、花盛り 商店街空き店舗に小劇場 北九州 2011/03/15 朝日新聞 朝刊 12ページ 絵写表有 1962 文字	朝日西部	朝	1962
[考2011]公共劇場の役割 地域文化の成熟へ重要 2011/03/22 西部読売新聞 夕刊 9ページ 写 1333 文字	西部読売	夕	1333
計			22件



座談会の記録

グループインタビュー（座談会形式）

地域文化振興における北九州芸術劇場の役割

日時： 3月16日（金）10：00～12：00

会場： 北九州芸術劇場 会議室

出席者： 西村勇晴（北九州市立美術館 館長）

城水悦子（株式会社洋建築計画事務所 代表取締役）

築城則子（遊生染織工房 主宰）

津村 卓（北九州芸術劇場 館長・チーフプロデューサー）

進行： 吉本光宏（ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長）

吉本 まず、ホスト役でもある津村さんから、本日の趣旨をお話いただけますか。

津村 北九州芸術劇場は、もうすぐ開館10周年を迎えることになりました。これまでいろいろな事業を実施してきましたが、舞台芸術とは違う立場や視点で、今の劇場のあり方などを忌憚なくご意見をいただき、11年目からの劇場のビジョンを作るために、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

吉本 今日は、劇場や舞台芸術とは異なる分野でご活躍されている方々にお集まりいただきました。まず、簡単に自己紹介いただいた後、ご自身の活動についてお話しください。では、築城さんからお願いします。

1. 出席者のプロフィールと活動の概要

築城 ^{ついきのりこ}築城則子と申します。私は北九州市小倉北区で育ちまして、18歳で大学に進学する際に、初めてこの土地を離れて生活しました。その3年後、当時は小倉にあった染織研究所で織りを学ぶために大学を中退して戻りました。大学では文学の道に進もうと思っていたのですが、進路を変えたのは、今回の芸術劇場ともご縁が深い演劇科に進もうとして、東京で舞台を見ていくうちに能装束に魅せられ、まったく方向が変わってしまったのです。それで小倉に戻って「糸を染めて織る」という染織を始めました。

その後、結婚して仕事をしながら久留米や湯布院など、いろいろな土地をしばらくは転々としましたが、北九州に戻って以来、30年近く住んでおります。その途中で、「小倉織」というものが江戸期にはあったのに、現在は途絶えているということを知り、それを復元したいと考えました。江戸期の小倉織と同じ生地質で、デザインは今のものを作ろうという形で作品を発表するようになりました。今は八幡東区に工房がございます。

西村 ^{にしむらいさはる}西村勇晴と申します。私は生まれが仙台ですが、父親が門司の出身で、父の就職を機会に実家の門司に移り住んで、門司で育ちました。予備校までは門司で、そこから生まれ故郷の仙台の大学に進学して西洋美術史を学んでいました。大学では修士までイタリア美術を学びました。ところが、最初の就職先が北海道立近代美術館の準備室で、当時、大学で美術史を学んだ学芸員は私しかいなかったために、版画作品と開館記念事業を担当するように命じられて、開館記念事業

のテーマだったドイツ美術に目覚めました。

北海道立近代美術館の開館1年目の途中で、大学の恩師から電話がかかってきて「宮城県も美術館を作るので、カンディンスキーの作品を買った。だから来ないか」とのお誘いを受けて仙台に戻り、それ以来、退職するまで宮城県美術館におりました。

それから、こちらの北九州市立美術館に来ないかというお話をいただいて、2010年に館長に就任し、現在に至っています。

城水 しろみず えつこ 城水悦子と申します。出身は門司です。高校まで北九州で、大学ではデザインを勉強したいと思って、憧れの大学を受験しましたが失敗して同志社大学に進学、でも京都では建築や美術などいろんな文化に触れました。卒業後北九州市出身の夫と結婚し、10年ぐらいいは関西で過ごしました。

時々帰省して門司や小倉の駅に降り立つと、「これからこのまちはどうなるんだろう」と感じていました。昭和53年に帰ってきて、建築や都市計画に携わっている夫の仕事を手伝っていましたが、平成4年に夫が亡くなり、その時スタッフが「一緒に続けましょう」と言ってくれて、それ以来、私は建築が専門ではないのですが代表として事務所を続けています。

平成7年に門司港レトロがグランドオープンしましたが、その際、ソフト支援のため官民一体となったまちづくり団体を作り、その部会長を任されました。当時、門司港のまちの人々は心情的に落ち込んでいたんですね。だから、「50年後に新しい風土が確立できて、プライドを持てるようにしたい」と地元で創作活動をする方々に、門司港の歴史的建築物を会場に展覧会をしようと提案しました。平成9年から始めた手作りの展覧会で今も続けています。

平成14年に、より広げて外から来ていただけるように、門司港アート村(現・門司港美術工芸研究所)を開設しました。廃校の小学校をそのまま使った施設ですが、作家にとっては非常に使い勝手が良いと喜んでいただいています。美術と工芸というと、どうしても伝統工芸的なものに目が行くと思うのですが、研究所では、伝統的な技術を使いながら新しい美術表現を目指しています。皆は「いずれ門司港派になりたいね」と言っていて、既成概念にとらわれない若い人材を育成していこうということで、現在に至っております。

津村 北九州芸術劇場の館長兼チーフプロデューサーの津村です。出身は大阪で、28歳の時に大阪で民間ホールを立ち上げた後、兵庫県の伊丹市立演劇ホールのAI・HALLや滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの立ち上げをさせていただき、この北九州芸術劇場がオープンするということで、お声をかけていただきました。ホールを立ち上げたのは北九州芸術劇場が4つめになります。その間に、総務省系の外郭団体で、財団法人地域創造という機関が東京にあるのですが、その立ち上げを手伝ってくれということで、3年のつもりで行ったんですが、現在18年目になりますが、今もやっています(笑)。劇場をベースにした文化振興、特に演劇系を中心とした施策的なものを中心に、これまで活動してきました。

吉本 ありがとうございます。皆さんの取り組みについてもう少し詳しく伺わせてください。小倉織を復元された築城さんは、遊生染織工房では具体的にどんなことをやっていらっしゃるのでしょうか。

◎伝統工芸と「日常の美」

築城 私自身が工房でしていることは草木染めなのですが、9割は市内の植物で染めています。デザインしてその糸を用いて手で織るという、非常にアナログな、江戸期と同じことをやっています。小倉織は生地がしっかりしていますので、元々は武士の袴に使われていたのですが、今は女性用

の帯を中心に織っていて、その帯を京都の間屋さんに納めています。

何年かに一度、個展という形で発表しています。私は日本伝統工芸展を主催している日本工芸会に所属していて、毎年、入学試験を受けているような気持ちで公募展に出して、自分ではない他者からの厳しい目に触れることをしながら、原点に戻るようにしています。

それを30年近く続けていますが、どうしても小倉織は一点制作で、非常に高価なものになってしまふ。呉服の流通の問題もあるんですが、なかなか一般的に使ってもらいづらいという問題がありました。小倉織は日常の中で生きていけるものだと思っておりましたので、もう少し汎用品として使えるようにと思ひまして、機械織にも着手しました。「縞縞 (SHIMA-SHIMA)」というブランドを立ち上げて、そのデザイン監修を私がして、製造販売は小倉クリエーションという会社がしています。

そのおかげで、小倉織が日常的なものとして一般にも知られて、使っていただくことができるようになりました。経済産業省の「ジャパンプランド」に小倉織を選んでいただいて、3年間、活動のフィールドを世界に広げさせていただいています。ヨーロッパを中心としたビジネスも始まり、日本でも東京を中心に小倉織が販売されるようになりました。

いま私は、非常にアナログな手の仕事と、産業革命後の機械を使った仕事、ふたつを手がけています。伝統工芸をしている人にはなかなかいないんですよ。

吉本 織物で手織と機械織の両方を手がけていらっしゃるの、珍しいことなんですか？

築城 手織の作家の方たちは、機械織を工業デザインとして見て、どこかで手織と分けているんですね。「自分は手でしかできないことをやる作家だ」という線引きになってしまっているのは事実だとは思いますが。私自身は「手でしかできないことは手でやればいい、でも機械でしかできないことは機械に頼らないといけない」と思っているの、私自身の中では何の迷いもありませんでした。けれども、始めた後にいろんな偉い先生方から「なんて余計なことをしているんだ」とお叱りを受けたこともあります(笑)。でも今では、地元に300年以上続いていた小倉織が途絶えていたのだから、ここにいる人間が背負わなくてはならなかったことかもしれないと、少し理解をしてくれています。

吉本 全国的に、伝統工芸は残すことだけでも大変で、それを普段使いしてもらうことまでは至っていないような気がします。

築城 そうですね。例えば漆は素晴らしい日本の技術ですけど、「漆はやはり手で塗るしかない、それを機械を使えばもう漆ではない」という落差のある世界がある。それをいい形で補わないと、「それほどの漆で描いた蒔絵を、どなたが使うんですか」ということになります。

吉本 最近「創造産業」と言われていますが、まさしく北九州発の創造産業という感じですね。

築城 そうですね。「ジャパンプランド」は博多織、久留米絣、西陣織といった、巨大産地で長い歴史のあるものが選ばれてきたのですが、小倉織のように、まだ生産者の少ないものが続けて3年間、ジャパンプランドに選ばれるのは稀です。世界に出てみると、かえって理屈抜きに見てくださるので、そちらから評価されて仕事が始まったりする。「えっ？パリでも評価されているんですか？」と。そういう形で日本に戻ってくることはありますね。

吉本 2、30年やってらっしゃるということですが、地域との関わりで「こんなことができた」と実感されていることはありますか？

◎途絶えていた 50 年間の大きな損失

築城 北九州というまちは、ちょうど豊前と筑前が合わさったところで、私が住んでいる八幡東区側が境目なのです。「豊前とは違う」という筑前の人や、「筑前とは違う」という豊前の人が出て、古い感覚が残されていました。だから「なぜ豊前の織物を筑前で？」という方もいらしたんです(笑)。でも、長くやっている中で、私たちのまちの周辺を含めて非常に多くの人に関わっていて、すごく特色のある織物だということが分かってきました。「世界中に綿織物はあるけれど、縞という模様しかできない。けれども、こんなに経糸(たて)が密で、生地が強い織物は他にないんだ」ということが分かっていたようになってきました。

小倉織が途絶えていたのは約50年間で、全くそれを知らない世代が2世代続いたので、私が小倉織を始めたとき、それを知っていた方たちは大変ご高齢でした。知らない人は次にその話もできませんよね。だから2世代が抜けるということは、文化の伝達としては非常に大きな損失だと思います。

そういう中で、もう一回戻る形で小倉織が始まり、そういう伝統工芸品がこのまちにあったということを知ることが、皆さんの喜びになってきている気がします。簡単に言えば、お土産を持って行きたくても、このまちには何もないと思っていたのが、「小倉織という工芸品が昔からあって、今こうして手軽に買えるんだ」と。そういうお言葉を皆さんから聞かせてもらうことがあります。

350年くらいの年月、先人たちが確実に続けていてくれたものが途絶えたのは、たった50年なんです。ただそれが、戦後の情報化の時代に抜け落ちていたから、すべてのところから小倉織が一步遅いんです。文化財という考え方ができたのが、文化財保護法が施行された昭和25年辺りですが、その当時、小倉織が途絶えていたために、何の文化財にも指定されていません。それ以前の300年以上の歴史から考えてほしいのですが、私がやり始めてからは、たかだか27年ぐらいで、まだまだなんですよ。

吉本 小倉織を一緒にやりたいという若い人は増えてきましたか？

築城 いま、私の工房に4人の若い人がいますし、工房で数年学んだ後、作家として独立して発表したり、ビジネスとしてやっている人も2人います。

吉本 では、西村館長に伺います。こちらの館長になられて、たしか2年ですね。北九州市立美術館だけではなく、ご自身の美術館活動全般についてお話いただければと思います。

◎途切れてしまった関係の修復からの再スタート

西村 北九州市立美術館は非常にいいコレクションを持っていて、しかも現代美術に特化した展覧会もしてきて、かなり全国的に知られているのですが、少し不幸な事態がありまして、学芸員が全員いなくなった時代があるのです。そのため、全員が新しい学芸員ですから、途切れてしまった様々な関係を修復しながらコレクションを調べて立て直すというのが、現在の一番大きな仕事です。多くの人から現代美術を期待されるのですが、とにかくまずはコレクションをきちんとして、それを市民に知っていただくというのがひとつです。

また、それだけでは「自分たちが期待しているものが見られない」と多くの方が失望する。そのために、どこの館でも同じですが、実際は新聞社や他館が作った企画展を巡回させるケースが多いのですが、少しずつ学芸が力をつけて、自分たちが作った企画展を他の美術館に巡回させるようにしたいと考えています。

今年「ABC アートとブックのコラボレーション展」という展覧会をやりますが、これは完全な自主企

画で、埼玉県のうらわ美術館と北九州市立美術館のコレクションを合わせた展覧会です。分館では、北九州の八幡出身の洋画家、寺田政明の生誕100年の展覧会を開催し、来年は柳瀬正夢という、1900年に松山に生まれて1911年から門司に住んでいた美術家の展覧会を企画しています。

先日も柳瀬正夢の調査で門司に行って、作品を探しながら門司を歩きました。実際に行って歩くことで、知らなかった地元の作家について分かってきました。例えば永田一脩^{ながたいしゅう}という、プロレタリアートの画家で、写真家でもあり、モダンな雑誌の表紙も手がけたアーティストも、門司の出身だった。そのように詰めていくことで、しばらくは学芸員の力をつけるために、そうした調査から始めて、将来的に、5年、10年経てば海外展でもここから発信できるということをやりたいなと思っています。

吉本 宮城県美術館は、日本の教育普及プログラムの草分け的な存在ですが、北九州市立美術館での教育普及的な取り組みについて、今後のビジョンも含め、お話しください。

西村 以前は北九州市立美術館に、学校の先生で学芸員資格を持っていられっしゃる方がいて、学校での鑑賞教育のカリキュラムを考え、実践されていたのですが、それは今休止しています。むしろ社会教育機関でもある美術館としては、大人から子どもまでを対象とした教育普及活動のあるべき姿を考えながら、今年から新人の担当者をつけて研究していきます。

今まではジュニアボランティアという仕組みがありました。実際には十数人ぐらしか毎年いなくて、しかも小学生から中学生までという非常に年代の幅広い参加者だったのですが、親御さんが期待しているのはボランティアという仕事ではなくて、モノを作ることなのです。それは少し変えましょうということで、今年からは、完全なボランティア活動で、年間予定を全部明らかにして往復はがきで申し込んでいただきます。

例えば美術館周辺の彫刻をピカピカにするといった活動を考えていて、美術館の敷地の中の道路沿いに彫刻が置かれているのですが、それに蜘蛛の巣が張っていたり、鳥の糞がついていたりして非常に見苦しいので、それをきれいにしましょう、洗いましょうというようなことを、年3回か4回やる予定です。あと、夏休み中はワークショップみたいなものもやります。今年から美術館の探検も始めて、美術館の空間を体験してもらい、美術館の機能を分かってもらうような、そういった活動を始めていきます。

吉本 ありがとうございます。それでは城水さんにお伺いします。門司港アート村、現在の門司港美術工芸研究所の立ち上げの経緯の辺りからもう少し詳しくお願いします。

◎まちづくりから人材育成への転換

城水 先ほども少し申し上げましたが、門司港アート村の立ち上げの時の思いとしては、まちづくりの発想から廃校を活用してスタートしました。文化的な風土を動かしていくためにはどうしたらいいか、周りを見回して様々な情報を集めたところからスタートし、公募で集まった作家が「村民」という形で創作活動をしていました。文化について、頂点を極める方向と裾野を広げる方向の二つで言えば、私たちは裾野から広げていったのです。

本当に不便な場所で、何の交通もないところなのに、門司港に来た観光の方など、結構遠くの方も来られたりします。廃校利用50選に選ばれたりしたもので、最近は少なくなりましたが、廃校利用の事例調査で行政の方の視察が多かったですね。

やがて、徐々に美大を卒業した方が応募されるケースが多くなって、門司港アート村の当時から

代表を務めてきた川端孝則さんが、「これは育て甲斐があるぞ」と思われたようです。一方で、あまりに分野が多岐に渡っていて、作家活動を目指すのか、クラフトのビジネスを目指すのかということで、作り手の意識がそれぞれ違っていたと思うのです。展覧会を毎年していたのですが、そこでの展示の方法もだんだん難しくなってきた、6年目ぐらいにアート村の現況を調査し今後を分析しました。

そこで、今後は作家として頂点を目指す人を育てる場所ということで、昨年から「門司港美術工芸研究所」として、美術と工芸に特化して募集しました。一方、ビジネスとしてクラフトをやりたい方のために、「門司港デザインハウス」(24年4月オープン)というショップを作って、販売するスペースを提供しました。ここにブースを出す資格として、北九州で製作した、北九州の素材を使っている、北九州のイメージをデザインしている、そういった緩やかな基準は作っています。北九州市の産業経済局が、北九州の工業技術を使ったクラフト商品を作れないかと、「MOZIDECO(モジデコ)」というネーミングのブランドを作られて、そうした商品もショップで売られている。そういう二つに分かれてやろうとしているのです。

今年、研究所では「丘の上の芸術祭」と銘打って、作家それぞれのアトリエに作品を展示しながら、小学校の卒業生や地域を巻き込んで、自分たちも表現活動をしたいという企画が持ち上がりました。今回、北九州芸術劇場のスタッフの下元さんとお話をして、丘の上の芸術祭の企画をバックアップしていただけないか、とお願いして、やれることはやりましょうと気持ちよく言っています。

吉本 先ほどの築城さんの話もそうですが、作家活動とビジネスの両方をやって行くのは難しいことだと思うのですが。

城水 だから築城さんはすごいと思います。皆さんに広めてもらわないとダメだけれども、二流三流のものを広めてもらっても文化度が下がる。一人で一流のモノを広げる可能性を探るのは、すごいことだと思います。他の染織の先生方がどのように見ているかは別として、機械織は築城さんが機械を動かすわけではなく、ディレクションをされるわけで、それができるのはすごいなと思いますよね。研究所でも、いずれ地域産業に何か研究所として関われるものがあつたらやりましょうということを一つのテーマに挙げています。まだとてもそんな段階ではありませんが、平成23年度から研究員、研修生制度を整備して、入居期間は最長4年と期限を設けています。これまでに、入れ代わり立ち代わりで、20人ぐらいの人材が出ています。

2. 北九州芸術劇場の事業・運営について

吉本 ありがとうございます。ここから北九州芸術劇場の事業や運営について、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。まず津村館長から劇場の取り組みをご紹介しますか。

津村 実は最近、北九州芸術劇場の仕事とは別の機会をいただいて、ドイツのベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を視察させていただきました。たまたまベルリン・フィルの教育プログラムに関わっていたサシャ・ヴァルツという、ドイツを代表するコンテンポラリー・ダンスの振付家の制作担当者とお会いしました。「北九州芸術劇場の館長です」と自己紹介をしたところ、「あなたの劇場は知っているよ。山海塾のパートナーでしょう。一度行ってみたいので、ぜひ呼んでください。山海塾の公演を制作しているのだから、疑いなくあなたの劇場で公演できるでしょう」というようなことを言われました。やはり国際的な興行はすごく重要なことなんだと改めてこの間感じましたが、そうした国際的な企画から、幅広い公演事業をさせていただいています。

また、学芸事業では一般的な演劇やダンスを用いたアウトリーチとして学校へ行かせていただくということ、ここ数年、安川電機さんという産業ロボットを製作している地元の企業とお付き合いしており、今年は安川電機さんの「社ダンス」を作るところまで行きました。面白かったのは、ロボットを作る仕事はすごくクリエイティブだと思っていたのですが、安川電機さんの方が23年度にワークショップを受けていただいて「こんなクリエイティブな経験したのは初めてだ」と言われて、これはひょっとすると仕事に影響を及ぼすんじゃないかと感じました。そういう意味でも、広く様々な企業の方にも舞台芸術を運んでいけるような形をこれからも取っていききたいなと思っています。

それから、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」というワークショップを、3年間かけてストーリーを作りながらやってきました。2011年度は最終の3年目で、多田淳之介さんという若い演出家に入っていただき、枝光北市民センターで施設周辺の方に参加していただきました。多田さんには約40日間、地域に住んでいただいて、地域の人たちがもう忘れていた風景や、すっかり捨てていたような記憶を思い出してもらって、ストーリーにして、町を巡回しながらその場で作っていくというお芝居を立ち上げました。彼が盆踊りをすごく珍しがり、櫓を建てた盆踊りがすごく珍しいと。それが「冬の盆」という演劇作品になりました。

築城 他の土地には盆踊りで櫓を建てていないんですか？

津村 いや、やってはいるんですが、若い人は参加してないのか、地域の中で小さくやっているのがとても珍しかったみたいで。本物の櫓を組み立てて、みなさんと踊るという、あのシステムですよね。だから開場して本番が始まるまでの約30分は、お客さんを含めて全員が踊っているという催し物をやりました。地域の方から、「この先は自分たちでそれを継続して行きたい」というお声もいただいております。

そういった幅広いワークショップ系の活動を進めています。それと人材育成と公演事業の間に入ってしまうかもしれませんが、一昨年から「北九州演劇フェスティバル」というプログラムを始めました。今は京町銀天街と組んで商店街の小さな空き店舗を「京町小屋」という一つの劇場に見立てて行われています。これは徐々に広げていきたいと思っています。まだ決定ではないんですが、2年間やってきた中で、京町銀天街さんの方から自分たちでやろうと思うという声が上がってきました。もちろん劇場としてきちんとフォローしていきますけども、自分たちで進んでいくのであれば、我々はもう少し広い形で外へ発信していければいいなと思っています。

劇場全体としては中期的に深くやって行き、外向きにも広げていくという、「深める」と「広げる」ことをバランス良くやっていきたいと、この8年間進めてきました。

吉本 北九州芸術劇場は開館以来8年間、本当に意味のある事業をずっと続けてこられている、公立劇場では全国的にも希有な存在だと改めて思いました。皆さんはその劇場をどうご覧になっているのでしょうか。城水さんは、ここでお芝居を観られたことはありますか？

城水 ありません(笑)。

吉本 でも、劇場スタッフの下元さんに企画のご相談をされているのは、何かきっかけがあるわけですね？

◎劇場以外での活動の広がり／地域文化のシンボルとしての認識

城水 下元さんは以前、門司区役所で門司港アート村の立ち上げの時にいられたというご縁もあって、特に連絡を密にしていたわけではないんですが、やはり表現する活動は、人が複層して関わっているのだと思います。

芸術劇場の今の取り組みを見ると、既にいろいろやっていて、これ以上やったら大変だろうと思いますが、劇場の中に囲い込むよりも、外で活動されているのは非常に大事だと思うんですね。ですから京町銀天街でされていることを、大変でしょうけれどもっと全市に広げていただければ。会場も、カフェがあったり小学校があったり空きビルがあったり、門司港に行くと歴史的な建築物もあります。

この前は芸術劇場のダンスの公演を観に行って、すごいなと思って感動しました。その公演の最後のところで、観ている人も少し一緒に踊りましょうという時間があった、非常に高揚感と終わった後の余韻が残って、ああまたこういうことやってみたい、観に行ってみたいという気持ちになりました。ぜひ、この取り組みを全市に広めて、一つずつでもやっていただけたらすごいなと思います。海外でも、フランスのアビニョンの演劇祭では、その期間は人の家であろうと庭先であろうと、いろんなことをやっていて、いろんな楽しみ方ができる。もしそういう町になったとしたら、文化が根付いたなと。日常の中で人が楽しめる、特別なことではなく、そういうことができるといいなと、これを見て、ぜひ次もやって欲しいと思っています。

吉本 劇場がオープンしてもうすぐ10年ということなのですが、オープンする前と比べて何か地域が変わったなと感じられることはありますか？

城水 やはりそれは、文化のシンボルとして周囲のプライドをくすぐるところがあって、私みたいに演劇の公演を観に行くことがなくても「北九州には芸術劇場があるんですよ」と自信をもって話ができる。公演事業もトップクラスの方を呼んでいる。トップクラスのところばかりがクローズアップされますけれども、それだけでなく、市民にきっかけを提供してくれている。これは本音で、改めて感心し、感謝しております。

吉本 ありがとうございます。築城さんはこちらの劇場でいろいろご覧になりますか？

◎「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼／地域外からの人を呼ぶ九州の拠点

築城 私は演劇好きというか、大学時代は演劇科で室町・江戸期の演劇の勉強をしようとしていたんです。世阿弥などの系統の文学を研究しようとしていましたので、元々好きなんだと思います。その時から舞台を観るのが大好きで、それで美術も勉強していないのに装束への興味から染織の道に進んだということもあるので、やっぱり舞台の上に憧れがあるんです。その憧れの世界に近づきたいという思いをずっと持ちながら私自身は布を作っています。

そういう意味でも演劇は本当にジャンルを問わず観たくて、芸術劇場ができたおかげで、どれだけ観やすくなったかという実感はすごくあるんです。ただ、あまりにもいい公演が多過ぎて、行けないんですね(笑)。いや、これは本当に目白押しなので、時間とお金があれば毎日でも行きたいぐらいなんです。それを、どれにしようかピックアップするという、幸せな迷いですね。芸術劇場ができる前は、博多で公演があるときは博多に行こう、山口であるなら山口に、それから仕事で東京、大阪、京都に行くときには、その時期に何の公演があるか必死で調べていたんです。

でもそれが今は、ゆっくり構えられる。「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が劇場にありますので。だから私自身は大変ありがたいと思っていますし、それから同じように、演劇が好きな人たちが北九州にやってくるんですね。「あの公演のチケットを早く取って」という連絡が入ったりします。すごい人数の他都市の人たちを呼び込んでいると思いますね。というのも、現実には他都市の友人が芸術劇場で公演を見終わってから、何かちょっと食べて駅に向かうというのがひとつの決まりになっている。

吉本 事業評価調査の結果でも、5～6年前は北九州以外からの観客は20数%だったものが、平成22年度は37.4%になるなど、確実に他の都市からの観客は増加しています。

築城 演劇に関しては、今は博多を完全に追い越していますからね。あらゆることで「九州の中心は博多だ」という認識が多い中で、演劇だけは絶対に北九州。本当にそれは良かったなと思いますし、観る側としては、いい公演をしてくださることに感謝しています。

あと、合唱物語「わたしの青い鳥」のことを、ものすごくいろんなところで聞くんですよ。「青い鳥」をプロデュースされて、市民のみんなで練習した面白さというか。ひとつ間違えると、好きな人だけが集まって、市民に広がらないことが多くなりがちな部分を、参加した人たちが楽しかったことを次々に言っていくことによって、喜びを共有する市民が増えていく。「青い鳥」って相当すごいな、と思いました。

津村 当たり前と言えば当たり前かもしれませんが、「青い鳥」はクオリティの高いプロの方が講師として来られて、本番で指揮をして、そして歌う。プロデュースも大事なんだけれども、「こんなに叱ったら市民の人が嫌がるんじゃないか」と言うぐらい本気で取り組んで、あるクオリティを担保した形で「完成したぞ！」という気持ちになれるように、講師の人が仕組んでいます。あれを楽しむだけでやっていたら、築城さんがおっしゃるように内向きになってしまうでしょう。だから、自分たちの作品を「やり遂げた」という気持ちまで講師が引っ張っているということは分かりますね。

吉本 築城さんの周りの方は、どのように芸術劇場をご覧になっていますか。先ほど城水さんからは、劇場があることが誇りになっているというお話でしたが。

◎劇場に足を運ばない市民にとっても「シビックプライド」の一部である

築城 城水さんがシンボルだとおっしゃったとおり、このまちの中では、本当にシンボリックな存在です。行っている人も行っていない人も、芸術劇場の存在を「威張る」というと変ですが、「芸術劇場ってすごいんだよ」と。私からするとそんなに行ってもいない人が、威張って言っているのを見掛けますとフムム…ですが(笑)、それは長く培われた大きな存在です。

吉本 劇場に行かない人も自慢するというのはすごいですよね。

築城 すごく頻度として会話の中に出てくるんです。演劇が好きではない人たちも、例えば「京町小屋」のことを見聞きて、銀天街を通って見て、「ああ、ほんとにこれなんだね」みたいな感じで。たぶん、劇場が劇場としてあるだけなら、そんなふうにならないと思うんですが、やはり劇場が劇場の外に飛び出している活動があるからこそですね。そこで、ただ演劇を観るだけではない活動をしていच्छることで、会話に出てくる頻度が高くなるんじゃないかと思います。

吉本 「シビックプライド」という言葉がありますが、劇場がその一部になっているのかもしれないですね。

城水 比べていいのかわかりませんが、響ホールの方は、やはり会話に出てくる頻度が少ないように思います。クラシック音楽に比べて演劇の方が裾野が広いのか私にはわかりませんが、芸術劇場の活動の方が市民参加型のプログラムもあるので、そういう点ではどうなんでしょうか？

吉本 全国的には響ホールも有名ですね。

津村 かつて響ホールに芸術監督がいらच्छったときに、現代音楽に焦点をあてたコンサートもやられていました。その時にはかなりの人が響ホールに注目しましたが、それが今は途切れてしまっているんですね。

吉本 西村館長は美術館の分野でやってこられたわけですが、美術のご専門の立場から北九州芸術劇場をどのようにご覧になっていますか？

西村 私は北九州に滞在するのが隔週なので、観たいと思っている公演とタイミングがすれ違いのことがあって、ほとんど行っていないのが現状ですが、この報告書を拝見して、こんなにいろいろなことをやっているんだと認識を新たにしました次第です。私は大きな都市と言えば札幌、仙台を知っていますが、札幌はずいぶん昔のことで今どうなっているかわからないものの、仙台にはこういう劇場はありません。県民会館のような施設はありますけれど、自主事業でも企画をよそから持ってくるという、言ってみれば「箱物」になっている。

それで、劇場・音楽堂の活性化に関する法律が論議されていますが、北九州芸術劇場は、劇場法以前からこういう活動をやっているということで、実際に非常に驚いたのです。私も行かないのに自慢する側の人間になるかもしれませんが(笑)、北九州にはこういう拠点があるよと、それに美術館も加えられればと、そう思って見ていました。

3. 舞台芸術以外の芸術分野との関わりについて

吉本 ありがとうございます。次の話題に移りたいと思います。
北九州芸術劇場は演劇など舞台芸術の専門施設ですけれども、今後、他分野の芸術や文化的活動と連携できる可能性がないか、その辺りのご意見をいただきたいのですが。

◎義務感ではなく、自由な発想から連携できる関わり方

城水 先ほど少しお話しましたが、今回、下元さんにご相談して、門司港美術工芸研究所がお世話になる企画で、何かコラボレーションできるようなプログラムが作れないか、ご提案していただいてもいいのではないかと。それがもしできるのであれば、門司港としても参加させていただきたいなと思っています。ただ、それであまり枠を作ってしまうと自由な発想ができなくなるというか、「やらなくてはいけない」という義務感を背負うことはしたくない。常に自分の頭の中に「こういうことができるかもしれない」というイメージを持ちながら、本来の活動を進めて、何かの時には連携を取りやすい関係がいいのではないかなと思っています。今回は非常に楽しみですし、京町銀天街での取り組みが門司港の栄町でもできないかな、と思っています。

吉本 築城さんはいかがですか？染織と舞台芸術は離れている気もしますが、舞台には衣装も必要ですから、協働の可能性もある気がします。

築城 私ごとですが、経済産業省の「ジャパンプランド」でパリに見本市のような形で発表するときに、パリのオペラ座の衣装部の方が来てくださって、私の作品をライブラリーに入れてくださったんです。いつ必要になるかわからないけれども、オペラ座がそれをライブラリーに入れてくださった。「すごく厳しくチェックして取捨選択しているんですよ」と言われて、もちろんフランス語でお話するわけですが(笑)、本当に嬉しいと思いました。

だから舞台の仕事の可能性はあるなと思っていますが、きっと直接的にはそれほど多くないのかもしれませんが。例えば、何かの自主企画で演劇作品を企画されるときに、その中の衣装として小倉織の縞を使ったら面白くなると言われたら、その時に提供させていただくなど、そういった新しい形はいくらでもできると思っています。

私自身が思っているのは、私の染織の作品についてということよりも、もっと、それぞれの関わっている根幹の文化的な部分というのでしょうか。私は大きな意味で、文化という、皆それぞれ持って

いる山のような宝を上手くまとめていくために、芸術劇場がとても有効な装置、あるいは媒体になってくれるのではないかという気がしています。というのも、演劇はやはり一番人を寄せる気がするんですよ。演劇は人と人をつなげていく何かをとっても大きな要素として持っている。もっとも、つないでくれるといいなと思います。

吉本 それは異分野の芸術や文化の活動をしている人たちを、劇場がハブ(結節点)になってつなげていくというイメージですか？

◎文化の「風通しのいい」結合を図る核が必要

築城 市の文化振興計画の策定委員会でも私から言わせていただいたんですが、このまちには非常に様々なジャンルの文化がありますけど、それらをつなぐための核となるものが弱いというか。元々、文化というのはそれぞれ好き勝手にやっていたらそれで十分だと思うんですが、何かの核というか、場所じゃなくてもいいんですが、気持ち的にもそこに行くことで、風通しのいい文化の結合が持てるというようなところがないなと思っています。その中で、もっとも芸術劇場が発信の仕方も洗練されているし、芸術文化振興財団という、大きくて、一般的に民間にはない力をお持ちなので。

吉本 民間の立場の方で活動していざっしやと、公共の財団で、こういう拠点を持っているところに、そういう「つなぐ」機能をもって欲しいという期待があるのでしょうか。

築城 そうですね。私はNPO法人創を考える会・北九州の理事をしているのですが、このまちの創造力をもっと広げていきたいという思いがあって活動しています。創を考える会を運営する中で、どうしても民間は金銭的な壁があります。NPO活動もいろんなジャンルが出てきていますが、経営として成立するのは非常に厳しいです。アメリカのNPOのように、それでビジネスが成立するようなNPOがまだまだ生まれていないということもあるのでしょうけれども。

先ほど西村館長が北九州市立美術館の「不幸な時期」とおっしゃったのですが、私たちのNPOはその不幸な時期を見ていて、「美術館がこんな状態ではいけない、何とかしなくちゃ」と考えた人たちが集まってやり始めたんです。そしたら西村館長がいらしてくださって、美術館が一気によくなってくると、危機感を持って集まったNPOの存在価値が、今は薄れているという不思議なところもありますが(笑)、もちろん自主企画の活動も行っています。

なかなか人と人との関係や情報がつながっていかないんですが、上手く連動していくためにはどうすればいいのか。本来なら、アートの関連で人を呼びたいと思えば、とにかく北九州市立美術館も、現代美術センターCCA 北九州も、創を考える会も、みんなで連動できる基盤があればもっと力が集まっていけるように、それが集結していくよりどころみたいなのが欠けているというんでしょうか。そういう機能がないために個々の活動になっている。

吉本 創を考える会について、もう少し詳しくご紹介いただけますか。

築城 設立から現在8年目になります。当初、私がいろいろな方に立ち上げをお願いしたときにお話したのは、地域の芸術のよりどころである美術館がとても不安定な状態になってきている中で、私たちは美術というものを、もっと近い存在として感じて生きていくことが、創造力を培うことだと信じている。なのに、なかなかみんなが美術館に行かないという。もちろん美術館の本館が遠いという地理的な要因もあるのですが、分館ができたことで行きやすくなりました。おそらく10年くらい前は「美術館なんて全然行かないですよ」という意見が当たり前のような感じの時に、もっと美術を身近にしていくための方法はないだろうかということで考えていました。

その活動の柱のひとつが、「田中丸コレクション」という古美術のコレクションの維持でした。かつ

て小倉に玉屋という百貨店があって、そこに田中丸コレクションが展示されていたんですが、百貨店事業の撤退によって展示場所が失われる事態に直面した。それで、コレクションの展示室を作ろうという活動が始まりました。北九州の中で、どこか公共の場所を借りて展示をしますからという提案で始まったのですが、美術品の展示や保管に適した環境条件が必要であるため、場所の選定は厳しい状態でした。でも、その活動のおかげで、相談に乗っていただいた九州国立博物館の三輪嘉六館長の理解を得てコレクションを収蔵していただいて、今は九州国立博物館の中に展示室があるんです。それがひとつの柱でした。

もうひとつの柱は、平野遼という、北九州でずっと描いてきて1992年に他界した画家がいるんですが、ご夫人が、自分に万が一のことがあったら作品が散逸するということをととても心配されて、その作品の散逸を防ぐことだったんです。そして、美術をもっと身近に感じてもらうための活動を市民と一緒にやって行こうということで、経済界の方々も参加していただいて、市という公的セクターと市民で皆が知恵を出し合うような NPO を作りました。

平野遼も北九州市立美術館に100点以上のコレクションがありますが、かつて彼の作品は冷遇されていて、100点もあるにもかかわらず1点も展示されていない状態が続いていたんです。西村館長がいましてからは平野遼をきちんと理解されて、今年は没後20周年ということで大きな企画展が開催されます。そうしたことも、創を考える会の大きな2つの活動の柱があって形になりました。

吉本 九州国立博物館と市の美術館で北九州ゆかりの作品が引き継がれているのは、創を考える会があったからですね。西村館長は美術館のお立場から劇場との連携をどのようにお考えでしょうか。

◎場所、あるいは教育普及や創作活動での劇場と美術館の接点

西村 実際に、2010年に初めて劇場と CCA と美術館が連携しました。美術館は場所と作品を提供したという感じだったのですが、当時、横浜美術館から当館所蔵のドガの作品と交換でセザンヌの作品を借りていまして、それをテーマに劇を作っていただきました。小学生のわずかな観客だけでしたが、それを観た後に展示室でセザンヌの作品を鑑賞するというようなことをやりました。

こういうことは今後もあり得ると思います。私の経験では宮城県美術館で、地元の劇団が美術館と一緒にやりたいということで、閉館後の美術館のいろんな空間を移動しながら、その空間にあった劇を展開して、お客さんも一緒について行くというような企画をやっています。ですから、演劇の場としての美術館というのがひとつあり得ると思います。

それからもうひとつ。例えば、高山登という立体造形の作家がいて、彼はたくさんの枕木をインスタレーションに並べて、必ず舞踊家の田中泯さんがそこでパフォーマンスします。これは作家の協力がないとできませんが、そういう形で何か現代的なインスタレーションの展覧会をやったときに、空間を上手く使ったダンスや舞踏、僕は演劇も可能だと思います。これも場としてですが、そういう企画を一緒に作っていくことができるのではないかな。さすがに美術作品を劇場に運び込むことはできませんが、美術館でのパフォーマンスは可能だろうと。

それから、例えば画家でありデザイナーであり劇作家でもある村山知義のような芸術家がいて、彼は舞台美術もやったりしている。彼の舞台美術を再現して演劇を上演するというので、美術館と劇場は接点があると思う。舞台衣装などの復元のようなこともできると思いますので、美術と演劇はいくらでも接点があるように思います。

吉本 ありがとうございます。これまでのご意見について、劇場側からはいかがですか？

津村 いま言っていたことで、やりたいことがいっぱい出てきて(笑)。

北九州芸術劇場の今までは、劇場を知っていただくための10年だったと思うんですね。次の10

年は、様々なアートと、どのように劇場と一緒に仕事をして行けるのか。それが、地域のため、市民のためにどうしていくのかということをやっていきたいと思っています。この10年間で、それができるスタッフが育ったと僕は思っています。中途半端なイベントで終わってしまうと一過性になってしまうので、できるだけ向き合って一緒に検討できるようにしていきたいと思っています。

西村館長もおっしゃったように、年に何本か美術館と一緒にやっていく活動は、場だけではなく、クリエーションも一緒にやっていけるような形に、今後続けていきたいと思っています。もちろんこれは劇場だけではなくて、音楽も含めて北九州にある公共施設がいい形でクリエーションをしていく作業をしなければならないだろうと思っています。城水さんの門司港美術工芸研究所も本当に面白いことをされているので、逆に劇場の方から一緒にやってできるように関わらせてもらいたいです。いくら探しても小倉近辺には自由な空間というのがないんですが、門司にはたくさんあって、遊休施設や土地を使ったお芝居などは上手くできるんじゃないかと思っています。もちろん衣装でも、小倉織というよりも、築城さんに舞台衣装や美術のプランを立ててもらうことも、将来的には考えられます。それもやはり、劇場がクリエーションしておかないとお願いできないので、そういう意味でコラボレーションできると面白いと思っています。

頂戴したご意見を一つ一つ参考に…参考というか、逆に僕らがやりたいので、方向性としては、10年目以降は外に向けても力を入れてやって行く方向性になると思います。

吉本 築城さんが復元した小倉織も、舞台作品の中で使われると、また違う提示のされ方になりますね。また、同じ市の劇場と美術館が共同制作するケースは意外と少ないので、そこに民間の方も加われば、新しい可能性が広がる気がします。

4. 北九州市全体の文化の振興について

吉本 最後に北九州市全体の今後の文化振興について、皆さんのご意見を伺います。

築城 文化を敢えて語らないといけない状態になるのが寂しいですよ。ちゃんと民度があれば文化なんてそこら中にあるはずだと信じています。

この北九州という地域は大合併が早くて、2013年には合併50周年になります。全く違う個性の都市が一緒になって大都市になったので、不思議な成り立ちだと思うんです。地域の中ではお祭りもバラバラ、言葉もバラバラな要素が多かった。個性はそのまま残っていていいと思うんですが、文化度が上がることによって、何か心の芯のようなものが生まれて、一つのまちとしての誇らしさも上がっていくんじゃないかと。

私が思う北九州人の特徴は、シャイというか照れが出てしまう性格で、先に悪口から始まって最後に「でもまあ悪くない」みたいな感じの褒め言葉になることが多い。劇場や美術館の活動も、知っている人は分かるんですが、もっと普通に民度が上がるような仕掛けがほしい。それには、先ほど申し上げたような核となる場、あるいは今後はインターネット上のものになるかもしれませんが、そこに行けば自分の知りたいことに近づけるような、情報的なモノを含めて、あればいいなと思います。

私は実はまだ行ってないんですけども、仙台市にせんだいメディアテークがあるじゃないですか。建設しているときから話を聞いていて、なんて面白いところを作るんだろうと思っていました。思想として、メディアテーク的な志向を持った何かがあってくるといいなと思いました。

西村 美術館というよりも博物館という立ち位置からですが、今年の4月から、私たちは教育委員会から離れて市長部局の所轄に移行します。それを受けて、各館が提携して事業をしてほしいと要望さ

れています。でも、私たちは提携して事業をする以前にお互いのことを知らなすぎる。例えば、博物館や文学館が何を持っているのか。もちろん展示室に展示されていることはわかるけれども、美術館が何を持っていて、どのようにそれを発信できるのかという財産のデータベースがないんです。ひとつベースとして、各館が個別に作るのではなく、まず市の文化遺産のデータベースを共通で作って、どのように活用していくかを考えていくようなことがあると思います。そういうものは、言うのは簡単ですが、なかなか大変だと思います。でも、それがあれば提携もやりやすくなる。例えば、資料を展示するような場合でも、私たちは今文学館と提携したいと思っても、実際には「どんなものがありますか？」と聞かないとわからない。それが対外的に出せるものであれば「北九州市にこんないいものがあるんだよ」ということになって、市民にとっての誇りにもなる。文化財というのは、何も指定されたものだけが文化財ではないのですから。街中の建築もそうですが、まちを知るために、そういう共通のデータベースがあるといいなと思います。

城水 先ほどの津村館長のお話を聞いて、ここに演劇に強い人材が育っているということは、本当に心強いなと思ったんです。最終的には、北九州市がいろんな分野で、どのように人を育てられるか。さらに、ここで育った人たちが半永久的にここに住んで、いろいろな分野に目を広げてもらう環境を作ることが大事だと思います。それには、今まで育てられた人材がぜひここで、ビジネスとしても、文化としても広められるような環境を作ることが必要だと思います。それはどの分野でも言えますよね。それをやっていただきたい。もう一つは西村館長のお話にあったように、館という枠組みを越えて、双方向で何かできることが、文化が重層してきた結果ではないかと思っています。私は、市の文化振興計画を作るときに、公益財団法人北九州活性化協議会の代表として参加させていただいたんですが、その団体は都市の品格を作ることを目指しています。品格とは、最終的に市民がプライドを持てることで、それを形成するものは、やはり文化と教育だということを掲げているんです。一昨年から公益法人改革によって仕組みが変わったので、活性化協議会では市民の寄付を受け入れる取り組みをしています。市民が自分の支援したい文化活動に寄付する。市民の意思を市民に返そうという試みのために、資金作りをやろうとしています。それは大したお金じゃないかもしれませんが、少しでも使っていただけるようになったらと思っています。日本は寄付文化の発展途上国というか、今開いたばかりなので基盤が脆弱なんですね。研究所は市から年間1,000万円をいただいているのですが、すべてそれで運営していかなくてはいけないので、なかなか広報にお金を使うことができない。広報が非常に弱いので、この前文化振興課の方にも、北九州の文化を全体として広報する仕組みが作れませんかとお話をさせていただいたんですが。直接の市の運営ではなくても、すべての北九州の文化的なことをPRできる基盤があればありがたいなと思います。まちづくりで私が経験してきたことからいうと、後に何も残らない非日常的なイベントではなくて、交流している人たちの中から創造的な人が増えて、しっかり北九州の活力になるというのが、夢であり理想なんです。そういう意味で、ここで人を育てて定着するような、そんなことができたらと思っていますので、ぜひ、その中核を北九州芸術劇場が担って欲しいと思っています。よろしくお願いいたします。

吉本 民間の立場から公益法人を使って、市民の寄付で文化ファンドを立ち上げることができれば、とても画期的ですね。

城水 地元の主要な民間企業は最初からの会員なので、企業にそれぞれが後援をお願いに行くよりも、企業の方から寄付を申し出てください、企業の考え方に合った出し方をしていくという方がいいのではないかと考えています。

作家を目指している方は、作家活動だけでは生活ができないので、みんなアルバイトに行ってしまうんですね。その時間をいかに短くして制作に打ち込んでもらうかということで、研究所では、奨学金委員会を設置して、集まった年間50万円位の奨学金を活動に使ってもらう、そういうささやかなこともしているんです。

吉本 最後に津村さん、いかがでしょうか。

津村 もちろん劇場だけができることではないんですが、先ほどから言われている中核的、センター的な機能については、文化振興計画の中でもたびたび言われたことです。それを今、いろんなお話が出たことをつなぐ作業を、誰がするのかということがあります。美術館は西村館長が来られて面白い展開が始まっていますし、北九州は文化の蓄積が厚くなってきている。実際、過去のことを紐解いてみても、すごく文化度の高い地域なので、そこが今、バラバラになっているのを、どうつないでいくかという作業ですね。ここが第一番のことではないかと、数年前からずっと思っています。

皆さんで会うということが、最初の重要なことだと改めて思います。劇場が音頭を取るようになりますので、若い人も含めて会って、何ができるのかを話し合える機会が大事だと改めて感じました。

吉本 本日は、北九州のこれからの文化の方向性について、とても建設的な話を伺うことができた気がします。皆さん長時間、どうもありがとうございました。

北九州芸術劇場事業評価調査(その8) 報告書

調査・発行 | 財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
tel. 093-562-2620 fax. 093-562-2633

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2012年3月

©(財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。

